

滋賀県立大学 2022年度

講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1850010	家族看護学特論 古株 ひろみ 後期	1
1850011	家族看護学特論(助産) 古株 ひろみ 後期	3
1850017	看護英語論文入門(助産) 坪井 宏仁 前期	5
1850018	看護英語論文入門[看護英語論文入門] 坪井 宏仁 前期	7
1850020	看護管理学[看護管理論](大学院) 本田 可奈子 前期集中	9
1850021	看護管理学(助産) 本田 可奈子 前期集中	11
1850030	看護教育学[看護教育論] 伊丹 君和 後期集中	13
1850050	看護研究方法論[看護研究方法論] 古株 ひろみ 前期	15
1850051	看護研究方法論(助産) 古株 ひろみ 前期	17
1850070	看護政策論 小林 孝子 後期	19
1850071	看護政策論(助産) 小林 孝子 後期	21
1850080	看護理論(大学院) 本田 可奈子 前期	23
1850081	看護理論(助産) 本田 可奈子 前期	25
1850090	看護倫理 糸島 陽子 前期	27
1850091	看護倫理(助産) 糸島 陽子 前期	29
1850110	コンサルテーション論 牧野 耕次 前期	31
1850111	コンサルテーション論(助産) 牧野 耕次 前期	33
1850140	薬物治療学 竹内 孝治 前期集中	35
1850160	フィジカルアセスメント 越山 雅文 後期	37
1850161	フィジカルアセスメント(助産) 越山 雅文 後期	39
1850170	病態生理学 坪井 宏仁 後期	41
1850171	病態生理学(助産) 坪井 宏仁 後期	43
1851010	看護技術学演習 伊丹 君和 後期	45
1851020	看護技術学特論 伊丹 君和 前期	47
1851050	基盤看護学特別研究(1年次) 専攻教員 通年研究	49
1851055	基盤看護学特別研究(2年次) 専攻教員 通年研究	51
1851060	形態機能・生体機構学演習 坪井 宏仁 後期	53
1851070	形態機能・生体機構学特論 坪井 宏仁 後期	55
1851090	精神看護援助方法論 牧野 耕次 後期	57
1851100	精神看護関連技法演習 牧野 耕次 後期	59
1852010	生涯健康看護学特別研究(1年次) 専攻教員 通年研究	61
1852015	生涯健康看護学特別研究(2年次) 専攻教員 通年研究	63
1852020	小児家族看護学演習 古株 ひろみ 後期	65
1852030	小児家族看護学特論 古株 ひろみ 前期	67
1852040	成人継続支援看護学演習[成人継続看護学演習] 糸島 陽子 後期	69
1852050	成人継続支援看護学特論[成人継続看護学特論] 糸島 陽子 後期	71
1852080	母性看護学演習 越山 雅文 後期	73
1852090	母性看護学特論 越山 雅文 後期	75
1852125	老年看護学特論 岡本 紀子 前期	77
1852135	老年看護学演習 岡本 紀子 後期	79
1853040	慢性看護学特論A 横井 和美 前期	81
1853050	慢性看護学特論B 横井 和美 後期	83
1853060	慢性看護支援論A 横井 和美 前期	85
1853070	慢性看護支援論B 横井 和美 後期	87
1853080	慢性看護支援論C 横井 和美 後期	89
1853100	慢性看護支援論演習 横井 和美 後期	91
1853130	公衆衛生看護学特論 小林 孝子 前期	93
1853140	公衆衛生看護学演習 小林 孝子 後期	95
1853180	人的資源活用論特論 本田 可奈子 後期集中	97
1853190	人的資源活用論演習 本田 可奈子 後期集中	99
1853200	在宅看護学特論 新井 香奈子 前期	101
1853210	在宅看護学演習 新井 香奈子 後期	103
1853220	慢性看護支援論演習 横井 和美 前期集中	105
1853240	在宅看護学特論A 新井 香奈子 前期	107
1853250	在宅看護学特論B 新井 香奈子 前期	109
1853260	在宅看護支援論A 新井 香奈子 後期	111
1853270	在宅看護支援論B 新井 香奈子 前期	113
1853280	在宅看護支援論C 新井 香奈子 後期	115
1853340	高度実践看護学課題研究(1年次) 横井 和美 通年研究	117
1853350	高度実践看護学課題研究(2年次) 横井 和美 通年研究	119
1854010	ウイメンズヘルス助産学特論 板谷 裕美 前期	121
1854020	ウイメンズヘルス助産学演習 板谷 裕美 後期	123
1854030	周産期包括支援特論 古川 洋子 前期	125
1854040	周産期包括支援演習 古川 洋子 後期	127
1854050	助産倫理特論 千葉 陽子 後期	129
1854060	国際助産学特論 千葉 陽子 前期	131
1854070	健康教育演習 千葉 陽子 後期	133
1854080	助産学概論 千葉 陽子 前期	135
1854090	助産学特論 古川 洋子 前期	137
1854100	助産学特論 越山 雅文 前期	139
1854110	助産学特論 千葉 陽子 前期	141
1854120	助産診断技術学特論 千葉 陽子 前期	143
1854130	助産診断技術学特論 古川 洋子 前期	145
1854140	助産診断技術学特論 板谷 裕美 前期	147
1854150	実践助産学演習 古川 洋子 前期	149

1854160	実践助産学演習	越山 雅文	前期	...	151
1854170	助産マネジメント特論	千葉 陽子	後期	...	153
1854180	地域母子保健特論	古川 洋子	後期	...	155
1854250	助産学特別研究(2年次)	越山 雅文	通年	...	157

講義名	家族看護学特論						担当教員	古株 ひろみ
講義コード	1850010	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT505							

授業概要

看護活動に共通する家族の今日的課題を中心に家族の機能の変遷を探究し、家族システム理論などの理論及び家族看護の役割と機能について教授する

到達目標

- (1) 家族看護に関する理論が理解できる
- (2) 理論をもちいて、看護実践に応じた家族看護の展開方法について説明することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	到達目標(1)について70%をレポートにて評価する
上記以外	30	到達目標(2)については、プレゼンテーションで評価する

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。期限を過ぎた提出物については、評価できない場合もある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	家族看護学	鈴木和子	日本看護協会出版会	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	家族看護選書	野島佐由美他	日本看護協会出版会	
2	家族ケア	岡本真知子・菅間真美	中法規出版	
3	適宜紹介する			

前提学力等

履修資格

講義名	家族看護学特論						担当教員	古株 ひろみ
講義コード	1850010	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT505							

授業計画							
------	--	--	--	--	--	--	--

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	家族看護の背景	国内外の家族についての捉え方を理解し、家族看護における家族の定義などを探究する	2	0 講義を振り返り、国内外の家族のど1
第2回	家族看護理論(1)	家族システム理論などの理論を理解し、家族機能のアセスメントへの基礎的知識を学ぶ	2	2 テキストなどから、家族システム理 講義を振り返り、家族システム理論2
第3回	家族看護理論(2)	家族ストレス対処理論のモデルについて理解し、家族機能のアセスメントへの基礎的知識を学ぶ	2	2 テキストなどから、家族ストレス対 講義を振り返り、家族ストレス対処2
第4回	家族看護理論(3)	家族発達理論について理解し、家族機能のアセスメント及び介入法について探求する	2	2 テキストなどから、家族発達理論に 講義を振り返り、家族発達理論を用2
第5回	家族のアセスメント技法	家族アセスメント・介入モデルについて理解し、家族機能のアセスメント及び介入法について探求する	2	2 家族看護に関する理論について整理 講義を振り返り、家族看護の論文 2
第6回	家族のアセスメント及び介入の技法	家族への面接技法について理解し、面接による家族への介入方法について探求する	2	0 講義を振り返り、家族の課題につい2
第7回	家族のアセスメント及び介入の技法	各々が事例をもとに、具体的な家族機能に関するアセスメントと介入方法について考察し、ディスカッションにて学びを深める。	2	2 事例を基に、アセスメントおよび具 ディスカッションから得た学びを整2
第8回	家族のアセスメント及び介入の技法	各々が事例をもとに、具体的な家族機能に関するアセスメントと介入方法について考察し、ディスカッションにて学びを深める	2	1 事例を基に、アセスメントおよび具 ディスカッションから得た学びを整2
第9回	家族看護のアプローチ方法の実際1	各自が経験した実践例を挙げ、家族看護学の視点から分析してプレゼンテーションをする	2	3 実践事例を整理し、プレゼン資料を3 ディスカッションを踏まえて、実践2
第10回	家族看護のアプローチ方法の実際2	各自が経験した実践例を挙げ、家族看護学の視点から分析してプレゼンテーションをする	2	2 実践事例を整理し、プレゼン資料を2 ディスカッションを踏まえて、実践3
第11回	家族看護のアプローチ方法の実際3	各自が経験した実践例を挙げ、家族看護学の視点から分析してプレゼンテーションをする	2	3 実践事例を整理し、プレゼン資料を3 ディスカッションを踏まえて、実践2
第12回	家族看護のアプローチ方法の実際4	各自が経験した実践例を挙げ、家族看護学の視点から分析してプレゼンテーションをする	2	3 実践事例を整理し、プレゼン資料を3 ディスカッションを踏まえて、実践2
第13回	家族看護のアプローチ方法の実際5	プレゼンテーション実践例から家族看護について理論的な観点からの討議をする	2	3 実践事例を整理し、プレゼン資料を3 ディスカッションを踏まえて、実践2
第14回	家族看護のアプローチ方法の実際6	各自が経験した実践例を挙げ、家族看護学の視点から分析してプレゼンテーションをする	2	3 実践事例を整理し、プレゼン資料を3 ディスカッションを踏まえて、実践2
第15回	家族看護のアプローチ方法の実際7	各事例から家族看護について検討する プレゼンテーション実践例から家族看護について理論的な観点から	2	3 実践事例を整理し、プレゼン資料を3 講義全体を振り返り家族看護のアセ2

担当者から

講義名	家族看護学特論（助産）						担当教員	古株 ひろみ
講義コード	1850011	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

看護活動に共通する家族の今日的課題を中心に家族の機能の変遷を探究し、家族システム理論などの理論及び家族看護の役割と機能について教授する

到達目標

- (1) 家族看護に関する理論が理解できる
- (2) 理論をもちいて、看護実践に応じた家族看護の展開方法について説明することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70	到達目標(1)について70%をレポートにて評価する
上記以外	30	到達目標(2)については、プレゼンテーションで評価する

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。期限を過ぎた提出物については、評価できない場合もある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	家族看護学	鈴木和子	日本看護協会出版会	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	家族看護選書	野島佐由美他	日本看護協会出版会	
2	家族ケア	岡本真知子・菅間真美	中法規出版	
3	適宜紹介する			

前提学力等

履修資格

講義名	看護英語論文入門(助産)						担当教員	坪井 宏仁
講義コード	1850017	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

研究とは、過去の知見の上に新しい知見を積み上げて行く行為である。したがって、論文購読は研究活動の中で大きな比重を占めている。とくに看護学を含む生命科学は、世界共通の学問であるため、英語論文の購読は看護学研究にとって必要不可欠な作業である。本講義では、各学生が今読まなければならない、あるいは今読みたいと思っている看護英語論文をもちよって、相互に読み進めていく。英語論文に慣れ、独力で英語論文が読めるようになることを目標にする。

到達目標

- (1) 英語論文に慣れ、独力で英語論文が読める。
- (2) 英語論文を読み、その方法論や論理について批判的な論評を加えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回の論文抄読を評価する

授業外学習

(宿題) 分担で担当部分を和訳する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	看護英語論文入門(助産)							担当教員	坪井 宏仁	
講義コード	1850017	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講			
ナンバリング番号										

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習/復習				
第1回	ガイダンス	1)抄読会の進め方 2)良い英語論文とは 3) IFとCI 4)看護系ジャーナルのIF					2	シラパスを読み込む			2
								本時の学びを整理する。			2
第2回	論文抄読(1)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第3回	論文抄読(2)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第4回	論文抄読(3)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第5回	論文抄読(4)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第6回	論文抄読(5)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第7回	論文抄読(6)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第8回	論文抄読(7)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第9回	論文抄読(8)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第10回	論文抄読(9)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第11回	論文抄読(10)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第12回	論文抄読(11)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第13回	論文抄読(12)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第14回	論文抄読(13)	各自の研究テーマに関連した論文のクリティークを報告し、討議する。					2	関連するテーマについて論文を検索			2
								本時で使った論文を読み返し、学び			2
第15回	まとめ	この単元のまとめを行う。					2	学びを振り返り、疑問点等整理する			2
								この単元の学びを整理する。			2
担当者から											

講義名	看護英語論文入門[看護英語論文入門]						担当教員	坪井 宏仁
講義コード	1850018	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	581MNT512							

授業概要

研究とは、過去の知見の上に新しい知見を積み上げて行く行為である。したがって、論文購読は研究活動の中で大きな比重を占めている。とくに看護学を含む生命科学は、世界共通の学問であるため、英語論文の購読は看護学研究にとって必要不可欠な作業である。本講義では、各学生が今読まなければならない、あるいは今読みたいと思っている看護英語論文をもちよって、相互に読み進めていく。英語論文に慣れ、独力で英語論文が読めるようになることを目標にする。

到達目標

- (1) 英語論文に慣れ、独力で英語論文が読める。
- (2) 英語論文を読み、その方法論や論理について批判的な論評を加えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	毎回の論文抄読を評価する

授業外学習

(宿題) 分担で担当部分を和訳する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	看護管理学[看護管理論] (大学院)						担当教員	本田 可奈子 / 米田 照美
講義コード	1850020	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT510							

授業概要

組織行動論は経営にまつわる要素の中で「人間」に焦点を当てた学問である。看護は対人関係を中核におき、まさに組織は人間行動により成り立っている。本授業では組織行動論に焦点をあて、実際の事例を検討することに重点を置く。また、医療安全管理・教育についても現状を踏まえ、事例・研究成果をもとに検討する。

到達目標

- 1) 現代の保健医療サービスと医療安全における看護管理の視点を説明できる。
- 2) 「組織行動論」の3つの領域（個人行動、集団行動、組織行動）について理解できる。
- 3) 組織行動論をもとに、必要な看護マネジメントの方法について考察できる。
- 4) これからの看護管理実践と看護管理学の課題について考察できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	14回の授業と第15回のディスカッションをもとにまとめたレポートで評価する。
上記以外	70%	・目標1) についてレポートとプレゼンテーション、ディスカッションで評価する。(授業第2回～6回: 30%) ・目標2)～3) について授業第7回～第14回をもとにしたプレゼンテーション、ディスカッション、レポートにより評価する(授業第8回～14回: 40%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業のなかで紹介しします。各自でテキストは選んでください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	組織行動のマネジメント	ステファン・P・ロビンズ	ダイヤモンド社	
2	看護サービス管理	中西睦子	医学書院	
3	マネジメント 基本と原理	P.Fドラッカー	ダイヤモンド社	

鈴木 竜太, 服部 泰宏 (著): 組織行動 -- 組織の中の人間行動を探る, 有斐閣

前提学力等

履修資格

講義名	看護管理学(助産)						担当教員	本田 可奈子 / 米田 照美
講義コード	1850021	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

組織行動論は経営にまつわる要素の中で「人間」に焦点を当てた学問である。看護は対人関係を中核におき、まさに組織は人間行動により成り立っている。本授業では組織行動論に焦点をあて、実際の事例を検討することに重点を置く。また、医療安全管理・教育についても現状を踏まえ、事例・研究成果をもとに検討する。

到達目標

- 1) 現代の保健医療サービスと医療安全における看護管理の視点を説明できる。
- 2) 「組織行動論」の3つの領域(個人行動、集団行動、組織行動)について理解できる。
- 3) 組織行動論をもとに、必要な看護マネジメントの方法について考察できる。
- 4) これからの看護管理実践と看護管理学の課題について考察できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	14回の授業と第15回のディスカッションをもとにまとめたレポートで評価する。
上記以外	70%	・目標1)についてレポートとプレゼンテーション、ディスカッションで評価する。(授業第2回~6回:30%) ・目標2)~3)について授業第7回~第14回をもとにしたプレゼンテーション、ディスカッション、レポートにより評価する(授業第8回~14回:40%)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業のなかで紹介しします。各自でテキストは選んでください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	組織行動のマネジメント	ステファン・P・ロビンズ	ダイヤモンド社	
2	看護サービス管理	中西睦子	医学書院	
3	マネジメント 基本と原理	P.Fドラッカー	ダイヤモンド社	

鈴木 竜太, 服部 泰宏(著): 組織行動 -- 組織の中の人間行動を探る, 有斐閣

前提学力等

履修資格

講義名	看護管理学 (助産)						担当教員	本田 可奈子 / 米田 照美	
	講義コード	1850021	単位数	2	開講期	前期集中		授業方法	
ナンバリング番号									

授業計画

回数	テーマ	概要	単位数	予習 / 復習
第1回	・科目ガイダンス ・看護とマネジメント	・看護管理の基本概念の理解・看護管理者の役割 ・ディスカッション	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 本時の学びをもとに看護マネジメント2
第2回	日本の医療安全教育の現状	日本の医療機関・在宅療養における医療安全管理の現状について 安全管理・危機管理	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 医療機関、在宅医療における医療安2
第3回	危険認知にかかわる看護実践能力	経験知による看護者の危険認知能力の特徴	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 看護実践能力の成長・発達、看護者2
第4回	看護教育における医療安全	医療安全教育の現状と課題	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 基礎看護教育、臨床における看護職2
第5回	臨床でのヒヤリハットの現状と課題1	課題：「自己の専門領域における医療事故・ヒヤリハットの現状と課題」	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 プレゼンテーション内容について文2
第6回	臨床でのヒヤリハットの現状と課題2	課題についてプレゼンテーション	2	プレゼンテーションの準備2 プレゼンテーション内容について文2
第7回	組織行動論と経営	・3つの組織行動領域の理解 ・看護サービスの質管理	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 本時の学びをもとにテーマに関連し2
第8回	組織行動論と経営	・看護サービスの質保証の取り組みの理解 ・ディスカッション	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 本時の学びをもとにテーマに関連し2
第9回	医療経済 総論	・看護サービスにおける経済性 ・ディスカッション	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 本時の学びをもとにテーマに関連し2
第10回	医療経済 各論	・看護サービスにおける経済性 ・ディスカッション	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 本時の学びをもとにテーマに関連し2
第11回	看護情報	・医療、看護情報の概要・看護実践に活かす情報管理について考察する。	2	本時のテーマに関連する文献を読み2 本時の学びをもとにテーマに関連し2
第12回	組織行動	各自、テーマを決め、実際の事例を組織行動論の文献をもとに考察する。	2	プレゼンテーションの準備2 プレゼンテーションと討議をもとに2
第13回	組織行動	各自、テーマを決め、実際の事例を組織行動論の文献をもとに考察する。	2	プレゼンテーションの準備2 プレゼンテーションと討議をもとに2
第14回	組織行動	各自、テーマを決め、実際の事例を組織行動論の文献をもとに考察する。	2	プレゼンテーションの準備2 プレゼンテーションと討議をもとに2
第15回	看護管理学の課題と展望とまとめ	これからの看護管理実践と看護管理学の課題についてディスカッション	2	15回の授業を振り返り看護管理学の2 看護管理学における課題と、自己の2
担当者から				

講義名	看護教育学[看護教育論]						担当教員	伊丹 君和 / 米田 照美
講義コード	1850030	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT507							

授業概要

看護学教育の変遷・現状と課題について、教育制度・教育課程・教育組織運営から概観するとともに、看護学の授業展開を支える学習理論や知識の活用法について講義する。また、授業設計の方法については、講義および実際の教授活動の見学・教育補助体験での学びをもとに個別に考察してもらう。さらに、看護学教育における省察を行うとともに、看護職育成のための基礎理論や技法をもとに、「看護職が専門職として成長し続けるために有効な教育的働きかけ」について考究してもらう。

到達目標

- (1) 看護学教育の現状と課題、展望について、説明できる。
- (2) 看護学の授業展開を支える理論と知識および教授活動の見学・教育補助体験での学びをもとに、授業設計を考察し評価ができる。
- (3) 看護学教育における省察ができる
- (4) 看護師育成のための基礎理論や技法をもとに、「看護職が専門職として成長し続けるために有効な教育的働きかけ」について考察できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	・到達目標(2)についてレポート課題を課す(30%)：「看護学の授業展開を支える理論と知識をもとに、体験した授業をクリティークするとともに、授業設計(授業計画案)を作成する ・到達目標(3)について：看護学教育(実習・実践教育)における省察ができる。 自己の専門領域における実習・
上記以外	10	・到達目標(1)についてはディスカッション(10%)で評価する

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業内容に関連することについて事前に各自で調べ、自分の考えを説明できるようにしておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護教育学 第6版	杉森みど里、舟島なをみ	医学書院	
2	看護学教育における授業展開	舟島なをみ	医学書院	
3	看護現場で使える教育学の理論と技法	中井俊樹	MCメディカ出版	

その他、必要時、資料を提示する。

前提学力等

履修資格

講義名	看護研究方法論[看護研究方法論]						担当教員	古株 ひろみ / 荒川 千登世 / 越山 雅文 / 本田 可奈子
講義コード	1850050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT502							

授業概要

実践研究に必要な看護学の科学的アプローチの方法を理解し、量的研究および質的研究のプロセスを概観するとともに妥当性・信頼性の高い方法論について教授する。
 看護研究の定義、研究の必要性を理解するとともに、看護研究の一連のプロセス(研究倫理を含む)について教授する。(古株)
 量的研究の基礎的な概要と、看護研究遂行上必要となる統計的知識、量的研究論文をクリティークする視点・方法について教授する。(越山・荒川)
 質的研究(質的研究のデザイン、グランデットセオリー、質的記述的研究など)の基礎的な概要と、質的研究論文をクリティークのする視点・方法について教授する。(古株)
 統計ソフトSPSSを用いて実践的な演習から、統計的手法について具体的に教授する。(荒川)
 研究倫理の原則について教授する。(本田)

到達目標

1. 看護研究の意義を理解し、自分の関心領域の看護現象の概念・キーワードを明確にできる。
2. アプローチ方法(質・量的研究)の基本を理解し、探究する現象へのアプローチする方法を選択できる。
3. 研究倫理について基本的な原則を理解できる。
4. 自己の研究目的や方法をより洗練するための効果的な論文クリティーク(量的研究・質的研究)ができる。
5. 統計ソフトの基本的な使い方を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		定期試験は行わない
レポート課題	50	質的研究に関するレポート(50点) 量的研究に関するレポート(50点) 合わせて100点
上記以外	50	演習への取り組み(30点) 講義への取り組み(70点) 合わせて100点

出席状況、期限外のレポート提出などで評価の対象としない場合がある
 課題等の得点200点満点を100点満点に換算して成績を出す

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護研究入門第7版評価・統合・エビデンス	パーンズ&グローブ	エルゼビア出版	ISBN978-4-86034-300-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第2版SPSSで学ぶ医療系データ解析	対馬栄輝	東京図書	ISBN978-4-489-02258-6
2	よくわかる看護研究のクリティーク	山川みやえ、牧本清子	日本看護協会出版社	ISBN978-4-8180-1849-5
3	他 随時紹介する			

前提学力等

履修資格

講義名	看護研究方法論[看護研究方法論]						担当教員	古株 ひろみ / 荒川 千登世 / 越山 雅文 / 本田 可奈子	
講義コード	1850050	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	581MNT502								

授業計画									
回数	テーマ	概要		予習 / 復習					
第1回	看護研究の定義・重要性 (古株)	看護研究の定義・看護研究を看護実践に結び付ける枠組みを理解する	2	テキストより看護研究の定義や重要性を振り返り、自己看護研究の意識を振り返る。					
第2回	研究の問い・研究テーマの絞り込み、研究の	研究問題・研究目的の定義を知り、研究問題の源について理解し探求できる	2	テキストより研究問題・研究目的の内容を振り返り、自己の研究の問いについて考える。					
第3回	研究のプロセス:概念枠組み・研究目的	研究のプロセスについて学ぶ 研究疑問レベルの原則、研究目的の明確化、概念枠組みと仮説、研究	2	テキストより研究デザインの選択、研究目的の内容を振り返り、自己の研究課題に絞る。					
第4回	量的研究の基本 (越山)	リサーチクエスチョンをどのように構造化するか。	2	テキストより量的研究への導入を学ぶ。配布資料にて復習する。					
第5回	量的研究のデザイン (越山)	量的研究のデザイン化を学ぶ。	2	テキストより量的研究のデザインの内容を振り返り、配布資料にて復習する。					
第6回	統計処理の基礎 (荒川)	統計ソフトSPSSを用いての演習 質的/量的データのまとめ方、クロス集計とカイ二乗検定 (質的デー	2	データ収集と管理、変数などについて学ぶ。統計処理の基礎を振り返る。					
第7回	基本的な仮説検定法 (荒川)	統計ソフトSPSSを用いての演習 標本数と検定結果、2群間での、量的データの比較: t検定、順位和検定、記述統計量 (標準偏差と歪	2	テキストより差の決定や関係性の検定方法を振り返り、データ分析、成果をまとめる。					
第8回	質的研究デザイン 質的研究とは (古株)	質的研究の特徴や質的研究がどのような研究疑問の解決に適しているのかについて学ぶ	2	テキストより、質的研究への導入を学ぶ。質的研究の特徴を振り返る。					
第9回	質的研究デザイン 質的研究の種類と概要	質的研究の種類について理解を深め、様々な現象の解明に適切な質的研究方法が選べる知識を学ぶ	2	テキストより、質的研究デザインの種類や特徴を振り返る。					
第10回	質的研究デザイン 質的研究方法 グランデッド	グランデッドセオリー法及び修正版グランデッドセオリー法について学ぶ	2	テキストより、質的研究のデータ収集方法を振り返る。					
第11回	質的研究デザイン 質的記述的 (古株)	質的記述的研究について具体的なデータの分析を交えて学ぶ	2	テキストより、質的記述的研究の分析方法を振り返る。					
第12回	研究倫理の原則 (本田)	看護研究における倫理の原則について理解する	2	テキストより、研究における倫理の原則を振り返る。					
第13回	文献レビュー 量的研究文献のクリティーク	各自の研究テーマに関連する量的研究の文献について、クリティークを行いディスカッションを通して理解を深める	2	テキストより、量的研究におけるクリティークの方法を学ぶ。					
第14回	文献レビュー 質的研究文献のクリティーク	各自の研究テーマに関連する質的研究の文献について、クリティークを行いディスカッションを通して理解を深める	2	テキストより、質的研究におけるクリティークの方法を学ぶ。					
第15回	まとめ (古株)	過去の講義を踏まえて、自己の研究計画について考える	2	自己の研究課題について整理する。自己の研究計画書についてディス					
担当者から									

講義名	看護研究方法論(助産)						担当教員	古株 ひろみ/荒川 千登世/越山 雅文/ 本田 可奈子
講義コード	1850051	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

実践研究に必要な看護学の科学的アプローチの方法を理解し、量的研究および質的研究のプロセスを概観するとともに妥当性・信頼性の高い方法論について教授する。
 看護研究の定義、研究の必要性を理解するとともに、看護研究の一連のプロセス(研究倫理を含む)について教授する。(古株)
 量的研究の基礎的な概要と、看護研究遂行上必要となる統計的知識、量的研究論文をクリティークする視点・方法について教授する。(越山・荒川)
 質的研究(質的研究のデザイン、グランデットセオリー、質的記述的研究など)の基礎的な概要と、質的研究論文をクリティークのする視点・方法について教授する。(古株)
 統計ソフトSPSSを用いて実践的な演習から、統計的手法について具体的に教授する。(荒川)
 研究倫理の原則について教授する。(本田)

到達目標

1. 看護研究の意義を理解し、自分の関心領域の看護現象の概念・キーワードを明確にできる。
2. アプローチ方法(質・量的研究)の基本を理解し、探究する現象へのアプローチする方法を選択できる。
3. 研究倫理について基本的な原則を理解できる。
4. 自己の研究目的や方法をより洗練するための効果的な論文クリティーク(量的研究・質的研究)ができる。
5. 統計ソフトの基本的な使い方を習得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		定期試験は行わない
レポート課題	50	質的研究に関するレポート(50点) 量的研究に関するレポート(50点) 合わせて100点
上記以外	50	演習への取り組み(30点) 講義への取り組み(70点) 合わせて100点

出席状況、期限外のレポート提出などで評価の対象としない場合がある
 課題等の得点200点満点を100点満点に換算して成績を出す

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護研究入門第7版評価・統合・エビデンス	バーンズ&グロブ	エルゼビア出版	ISBN978-4-86034-300-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第2版SPSSで学ぶ医療系データ解析	対馬栄輝	東京図書	ISBN978-4-489-02258-6
2	よくわかる看護研究のクリティーク	山川みやえ、牧本清子	日本看護協会出版社	ISBN978-4-8180-1849-5
3	他 随時紹介する			

前提学力等

履修資格

講義名	看護研究方法論（助産）						担当教員	古株 ひろみ / 荒川 千登世 / 越山 雅文 / 本田 可奈子		
講義コード	1850051	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義			
ナンバリング番号										

授業計画										
回数	テーマ	概要		予習 / 復習						
第1回	看護研究の定義・重要性（古株）	看護研究の定義・看護研究を看護実践に結び付ける枠組みを理解する	2	テキストより看護研究の定義や重要性を振り返り、自己看護研究の意	2					
第2回	研究の問い・研究テーマの絞り込み、研究の	研究問題・研究目的の定義を知り、研究問題の源について理解し探求できる	2	テキストより研究問題・研究目的の内容を振り返り、自己の研究の	2					
第3回	研究のプロセス：概念枠組み・研究目的	研究のプロセスについて学ぶ 研究疑問レベルの原則、研究目的の明確化、概念枠組みと仮説、研究	2	テキストより研究デザインの選択、講義を振り返り、自己の研究課題に	2					
第4回	量的研究の基本（越山）	リサーチクエスチョンをどのように構造化するか。	2	テキストより量的研究への導入を讀 配布資料にて復讐する。	2					
第5回	量的研究のデザイン（越山）	量的研究のデザイン化を学ぶ。	2	テキストより量的研究のデザインの 配布資料にて復讐する。	2					
第6回	統計処理の基礎（荒川）	統計ソフトSPSSを用いての演習 質的/量的データのまとめ方、クロス集計とカイ二乗検定（質的デー	2	データ収集と管理、変数などについて 講義を振り返り、統計処理の基本に	2					
第7回	基本的な仮説検定法（荒川）	統計ソフトSPSSを用いての演習 標本数と検定結果、2群間での、量的データの比較：t検定、順位和検定、記述統計量（標準偏差と歪	2	テキストより差の決定や関係性の検 講義を振り返り、データ分析、成果	2					
第8回	質的研究デザイン 質的研究とは（古株）	質的研究の特徴や質的研究がどのような研究疑問の解決に適しているのかについて学ぶ	2	テキストより、質的研究への導入に 講義を振り返り、質的研究の特徴	2					
第9回	質的研究デザイン 質的研究の種類と概要	質的研究の種類について理解を深め、様々な現象の解明に適切な質的研究方法が選べる知識を学ぶ	2	テキストより、質的研究デザインや 講義を振り返り、質的研究の特徴を	2					
第10回	質的研究デザイン 質的研究方法 グランデッ	グランデッドセオリー法及び修正版グランデッドセオリー法について学ぶ	2	テキストより、質的研究のデータ収 講義を振り返り、データ収集方法や	2					
第11回	質的研究デザイン 質的記述的（古株）	質的記述的研究について具体的データの分析を交えて学ぶ	2	テキストより、質的記述的研究の分 講義を振り返り、ディスカッション	2					
第12回	研究倫理の原則（本田）	看護研究における倫理の原則について理解する	2	テキストより、研究における倫理に 講義を振り返り、研究倫理の原則	2					
第13回	文献レビュー 量的研究文献のクリティーク	各自の研究テーマに関連する量的研究の文献について、クリティークを行いディスカッションを通して理解を深める	2	テキストより、量的研究におけるク 講義を振り返り、クリティークにつ	2					
第14回	文献レビュー 質的研究文献のクリティーク	各自の研究テーマに関連する質的研究の文献について、クリティークを行いディスカッションを通して理解を深める	2	テキストより、質的研究におけるク 講義を振り返り、クリティークにつ	2					
第15回	まとめ（古株）	過去の講義を踏まえて、自己の研究計画について考える	2	自己の研究課題について整理する 自己の研究計画書についてディス	2					
担当者から										

講義名	看護政策論						担当教員	小林 孝子
講義コード	1850070	単位数	2	開講期	後期	授業方法	授	
ナンバリング番号	581MNT506							

授業概要

国・都道府県・市町村における社会・医療のニーズに対する看護政策の在り方とその政策過程を理解する。また看護政策が策定される過程を検討し、住民の健康課題の解決に寄与できる看護政策立案に向けて政策策定能力の基礎的能力を養う。

到達目標

- (1) 政策とは何かを理解する。
- (2) 政策の策定過程を理解する。
- (3) 看護職の抱える課題を理解し、現行の看護政策と関連づけることができる。
- (4) 課題解決のための行動方針・計画を考えることができる。
- (5) 課題解決のための看護政策が立案できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	(1)(4)(5) レポート50%
上記以外	50	(2)25% (プレゼンテーション15%、ディスカッション10%) (3)25% (プレゼンテーション15%、ディスカッション10%)

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護職者のための政策過程入門 第2版 制度を変えると看護が変わる!	見藤隆子・石田昌宏・大串正樹・北浦暁子・伊勢田暁子	日本看護協会出版会	978-4818020511
2				
3				

適宜資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護管理学学習テキスト 看護制度・政策論 第2版	井部俊子・中西睦子	日本看護協会出版会	978-4818021174
2	日本看護協会の政策提言活動	日本看護協会	日本看護協会出版会	978-4818015265
3				

前提学力等

履修資格

講義名	看護政策論						担当教員	小林 孝子	
講義コード	1850070	単位数	2	開講期	後期	授業方法	授		
ナンバリング番号	581MNT506								

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	政策とは	ガイダンス この科目で考えたい政策について				2	政策について調べておく			1
第2回	政治家として活躍する看護職	看護職である政治家を1人選び、その政治家をPRする プレゼンテーションとディスカッション				2	看護職である政治家を1人選び、そ			4
第3回	政策提言書を探そう	政策提言書の概要をプレゼンテーション ディスカッション				2	政策提言書を1つ選び、プレゼン			4
第4回	看護職者のための政策過程論：政策過程とは	看護職者のための政策過程入門（第1章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第5回	看護職者のための政策過程論：政治過程とは	看護職者のための政策過程入門（第1章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第6回	看護職者にとって政策とは何か：看護職者と	看護職者のための政策過程入門（第2章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第7回	看護職者の政策過程への参画：政策過程への	看護職者のための政策過程入門（第3章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第8回	看護職者の政策過程への参画：政策過程への	看護職者のための政策過程入門（第3章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第9回	看護職者の政策過程への参画：政策過程への	看護職者のための政策過程入門（第3章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第10回	看護に関する政策：看護現場に影響を及ぼす	看護職者のための政策過程入門（第4章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第11回	看護に関する政策：看護現場に影響を及ぼす	看護職者のための政策過程入門（第4章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第12回	看護に関する政策：看護現場に影響を及ぼす	看護職者のための政策過程入門（第4章）のプレゼンテーションとディスカッション				2	該当するページを読み、プレゼン			3
第13回	「私の政策提言」発表	あなたが必要と考える看護政策「私の政策提言」を発表 プレゼンテーション、ディスカッション				2	「私の政策提言」について、パワー			4
第14回	「私の政策提言」発表	あなたが必要と考える看護政策「私の政策提言」を発表 プレゼンテーション、ディスカッション				2	「私の政策提言」について、パワー			4
第15回	「私の政策提言」発表	あなたが必要と考える看護政策「私の政策提言」を発表 プレゼンテーション、ディスカッション				2	「私の政策提言」について、パワー プレゼンテーションとディスカッ			4 3
担当者から										

講義名	看護政策論(助産)						担当教員	小林 孝子
講義コード	1850071	単位数	2	開講期	後期	授業方法	授	
ナンバリング番号								

授業概要

国・都道府県・市町村における社会・医療のニーズに対する看護政策の在り方とその政策過程を理解する。また看護政策が策定される過程を検討し、住民の健康課題の解決に寄与できる看護政策立案に向けて政策策定能力の基礎的能力を養う。

到達目標

- (1) 政策とは何かを理解する。
- (2) 政策の策定過程を理解する。
- (3) 看護職の抱える課題を理解し、現行の看護政策と関連づけることができる。
- (4) 課題解決のための行動方針・計画を考えることができる。
- (5) 課題解決のための看護政策が立案できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	(1)(4)(5) レポート50%
上記以外	50	(2)25% (プレゼンテーション15%、ディスカッション10%) (3)25% (プレゼンテーション15%、ディスカッション10%)

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護職者のための政策過程入門 第2版 制度を変えると看護が変わる!	見藤隆子・石田昌宏・大串正樹・北浦暁子・伊勢田暁子	日本看護協会出版会	978-4818020511
2				
3				

適宜資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護管理学学習テキスト 看護制度・政策論 第2版	井部俊子・中西睦子	日本看護協会出版会	978-4818021174
2	日本看護協会の政策提言活動	日本看護協会	日本看護協会出版会	978-4818015265
3				

前提学力等

履修資格

講義名	看護理論（大学院）						担当教員	本田 可奈子
講義コード	1850080	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT501							

授業概要

看護学の歴史と哲学、論理的思考、理論開発等を探求し、看護現象を把握するための能力を高める。看護理論の発展過程を踏まえながら、理論と実践との適用・課題、看護研究との関連について考察する。また、看護実践の基盤となる諸理論の分析と評価を行い、理論と看護現象との関係について考究する。

到達目標

- (1) 看護理論の歴史の変遷や発展過程について理解できる。
- (2) 看護理論の構成要素・理論枠組みについて理解する。
- (3) 代表的な看護理論の分析・クリティーク（批判的吟味）を行い、その適用と妥当性を検討できる。
- (4) 看護現象を中範囲理論を用いて理論的視点から分析できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20%	・授業に関連するミニレポート（10点×2回）
上記以外	80%	・大理論のクリティーク成果物（50点） ・中範囲理論のクリティーク成果物（30点）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護理論家の業績と理論評価	筒井真優美	医学書院	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護実践に活かす中範囲理論	野川美知子編著	メヂカルフレンド社	
2	看護科学のパラダイム転換	野島良子	へるす出版	
3				

その他 各理論家の書籍

前提学力等

履修資格

講義名	看護理論（助産）						担当教員	本田 可奈子
講義コード	1850081	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

看護学の歴史と哲学、論理的思考、理論開発等を探求し、看護現象を把握するための能力を高める。看護理論の発展過程を踏まえながら、理論と実践との適用・課題、看護研究との関連について考察する。また、看護実践の基盤となる諸理論の分析と評価を行い、理論と看護現象との関係について考究する。

到達目標

- (1) 看護理論の歴史の変遷や発展過程について理解できる。
- (2) 看護理論の構成要素・理論枠組みについて理解する。
- (3) 代表的な看護理論の分析・クリティーク（批判的吟味）を行い、その適用と妥当性を検討できる。
- (4) 看護現象を中範囲理論を用いて理論的視点から分析できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20%	・授業に関連するミニレポート（10点×2回）
上記以外	80%	・大理論のクリティーク成果物（50点） ・中範囲理論のクリティーク成果物（30点）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護理論家の業績と理論評価	筒井真優美	医学書院	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護実践に活かす中範囲理論	野川美知子編著	メヂカルフレンド社	
2	看護科学のパラダイム転換	野島良子	へるす出版	
3				

その他 各理論家の書籍

前提学力等

履修資格

講義名	看護理論（助産）						担当教員	本田 可奈子
講義コード	1850081	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	ガイダンス 看護の知と看護理論	授業の進め方 看護理論にかかる基本的概念の理解と理論の臨床応用について考察する。	2 シラバスの読み込み 2 本時の学びを整理し、看護理論を活
第2回	看護理論の歴史の変遷と発展の経緯	看護理論開発の背景となった社会情勢と関連領域の学問の変遷について概観する。（～1960年代まで）	2 本時のテーマについて文献を使って 2 本時の学びより看護の歴史から看護
第3回	看護理論の歴史の変遷と発展の経緯	看護理論開発の背景となった社会情勢と関連領域の学問の変遷について概観する。（1970年代以降）	2 本時のテーマについて文献を使って 2 本時の学びより看護の歴史から看護
第4回	看護理論を構成する要素と理論構築	看護理論の中心概念の明確化と構成要素についてディスカッション	2 本時のテーマについて文献を使って 2 本時の学びを整理し、6回からのプ
第5回	看護理論分析	代表的な広範囲理論の分析の視点 ディスカッション	2 本時のテーマについて文献を使って 2 本時の学びを整理し、6回からのプ
第6回	広範囲理論の分析 1	ニード論 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第7回	広範囲理論の分析 2	対人関係論 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第8回	広範囲理論の分析 3	ヒューマニスティック理論 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第9回	広範囲理論の分析 4	エネルギーの場の理論 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第10回	看護実践への理論活用	看護理論の看護現象への活用	2 本時のテーマについて文献を用いて 2 5回から9回でとりあげた広範囲理
第11回	中範囲理論の分析 1	中範囲理論を活用した事例展開 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第12回	中範囲理論の分析 2	中範囲理論を活用した事例展開 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第13回	中範囲理論の分析 3	中範囲理論を活用した事例展開 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第14回	中範囲理論の分析 4	中範囲理論を活用した事例展開 プレゼンテーション ディスカッション	2 プレゼンテーションの準備 2 自分が体験した看護現象を本時でと
第15回	まとめ	看護理論開発の意義の説明と、各自の課題についてディスカッション	2 14回の授業の学びを振り返る。 2 本時の学びから自己の研究課題を看

担当者から

皆さんが体験された経験知をゼミで取り上げて、どのような看護理論が活用されているのかを検討していきたいと思います。活発な討論を期待します。

講義名	看護倫理						担当教員	糸島 陽子
講義コード	1850090	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT509							

授業概要

現代社会における倫理的課題について概観し、人の生と死、個人の尊厳と権利、安全で安寧な生活、健康をめぐる様々な倫理的課題とその解決の方略を検討する。その中で、高度実践看護師の役割・責任について、看護倫理学の視点から探求する。

到達目標

- (1) 倫理的課題の歴史的、社会的背景について説明できる。
- (2) 倫理的ジレンマについて、理論や倫理原則を用いて分析することができる。
- (3) 臨床・教育・研究における倫理的課題と解決のための方略について発言することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	到達目標(1) 20% 到達目標(2) 10% 到達目標(3) 20%
上記以外	50%	プレゼンテーション・ディスカッション 到達目標(1) 10% 到達目標(2) 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護実践の倫理 第3版	サラ T. フライ	日本看護協会出版会	978-4-8180-1512-8
2				
3				

・看護職の倫理綱領(2021年 日本看護協会)

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	看護倫理（助産）						担当教員	糸島 陽子
講義コード	1850091	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

現代社会における倫理的課題について概観し、人の生と死、個人の尊厳と権利、安全で安寧や生活、健康をめぐる様々な倫理的課題とその解決の方略を検討する。その中で、高度実践看護師の役割・責任について、看護倫理学の視点から探求する。

到達目標

- (1) 倫理的課題の歴史的、社会的背景について説明できる。
- (2) 倫理的ジレンマについて、理論や倫理原則を用いて分析することができる。
- (3) 臨床・教育・研究における倫理的課題と解決のための方略について発言することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	到達目標(1) 20% 到達目標(2) 10% 到達目標(3) 20%
上記以外	50%	プレゼンテーション・ディスカッション 到達目標(1) 10% 到達目標(2) 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護実践の倫理 第3版	サラ T. フライ	日本看護協会出版会	978-4-8180-1512-8
2				
3				

・看護職の倫理綱領（2021年 日本看護協会）

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	コンサルテーション論						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子 / 喜多下 真里 / 片山 将宏 / 野田 智子
講義コード	1850110	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT508							

授業概要

この授業は、E・H・シャインの「プロセスコンサルテーション」のモデルを基に講義を展開していく。コンサルテーションの定義、目的、タイプ、コンサルテーションのプロセス、評価方法及び有用な相談プロセスが共有展開できるための方法論等を論じ、医療の専門職や医療従事者が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。そのため、授業の中では、院生同士でコンサルテーションに関連するの演習を行う。また、臨床現場の専門看護師(がん看護専門看護師)から講義を受けることで、臨床現場におけるコンサルテーションの実際について学びを深める。

到達目標

1. コンサルテーションの定義、目的・プロセスについて理解できる
2. 医療の対象者(クライアント)及び医療従事者(コンサルティ)に対するコンサルテーションの基本的な実践能力を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		定期試験は行わない
レポート課題	60	最終レポート 「看護専門職にとってのコンサルテーションとは」自分の経験を踏まえ、かつ理論的な分析を基に(到達目標 40%)、専門職者としてのコンサルテーションを実践していくための方策等について検討する(到達目標 60%)。
上記以外	40	講義でのプレゼンテーション(60%)およびディスカッションの参加状況(40%)で評価する。プレゼンテーションについては、一方的なものではなくディスカッションにつながるようなものであること。

授業外学習

授業開始前に、臨床現場・教育現場等で自分が対応した相談業務の事例を想起して簡単にまとめておくこと
テキストに関しては各自予習して、疑問点等を明確にして参加すること

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロセス・コンサルテーション	E・H・シャイン	白桃書房	ISBN978-4-561-13140-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	精神看護エクスペール16 リエゾン精神看護	坂田三允総編集	中山出版	ISBN4-521-60301-7
2	面接技法から学ぶ	宮本真巳	日本看護協会出版	ISBN4-8180-0625-4
3	その他 随時紹介する			

前提学力等

履修資格

講義名	コンサルテーション論(助産)						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子 / 喜多下 真里 / 片山 将宏 / 野田 智子
講義コード	1850111	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

この授業は、E・H・シャインの「プロセスコンサルテーション」のモデルを基に講義を展開していく。コンサルテーションの定義、目的、タイプ、コンサルテーションのプロセス、評価方法及び有用な相談プロセスが共有展開できるための方法論等を論じ、医療の専門職や医療従事者が直面する課題や困難・問題に対処するための基礎能力を養う。そのため、授業の中では、院生同士でコンサルテーションに関連するの演習を行う。また、臨床現場の専門看護師(がん看護専門看護師)から講義を受けることで、臨床現場におけるコンサルテーションの実際について学びを深める。

到達目標

1. コンサルテーションの定義、目的・プロセスについて理解できる
2. 医療の対象者(クライアント)及び医療従事者(コンサルティ)に対するコンサルテーションの基本的な実践能力を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		定期試験は行わない
レポート課題	60	最終レポート 「看護専門職にとってのコンサルテーションとは」自分の経験を踏まえ、かつ理論的な分析を基に(到達目標 40%)、専門職者としてのコンサルテーションを実践していくための方策等について検討する(到達目標 60%)。
上記以外	40	講義でのプレゼンテーション(60%)およびディスカッションの参加状況(40%)で評価する。プレゼンテーションについては、一方的なものではなくディスカッションにつながるようなものであること。

授業外学習

授業開始前に、臨床現場・教育現場等で自分が対応した相談業務の事例を想起して簡単にまとめておくこと
テキストに関しては各自予習して、疑問点等を明確にして参加すること

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロセス・コンサルテーション	E・H・シャイン	白桃書房	ISBN978-4-561-13140-3
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	精神看護エクスペール16 リエゾン精神看護	坂田三允総編集	中山出版	ISBN4-521-60301-7
2	面接技法から学ぶ	宮本真巳	日本看護協会出版	ISBN4-8180-0625-4
3	その他 随時紹介する			

前提学力等

履修資格

講義名	コンサルテーション論（助産）						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子 / 喜多下 真里 / 片山 将宏 / 野田 哲子	
講義コード	1850111	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号									

授業計画										
回数	テーマ	概要					予習 / 復習			
第1回	コンサルテーションとは	プロセスコンサルテーションとの定義 コンサルテーションのタイプについて理解する					2	自身のプレゼンテーションのテーマ	2	自身のテーマについて、どのように
第2回	コンサルタントの役割・働きかけ	援助関係における心理力動について コンサルテーションにおける、コンサルタントの役割・クライアント					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第3回	コンサルテーションの方法論	立場を均等化するプロセスとしての質問と聞き取り 積極的な質問の初タイプ 純粋な質問、 診断を探るための質問、					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第4回	クライアントの概念について	クライアントの基本的諸タイプ 問題や課題のレベルによるクライアントの役割について理解する					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第5回	コンサルテーションのプロセス	コンサルテーションにおけるプロセスについて理解する 観察 反応 判断 評価のプロセスと、プロセスに潜む誤りについて					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第6回	対面関係の力動について	コミュニケーションの6つの機能：なぜ言葉が必要なのか 相互関係における文化的ルールについて考える：自分の中に存在する					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第7回	コンサルテーションにおけるフィードバック	コミュニケーションと計画的なフィードバックについて理解する ジョハリの窓を通してコミュニケーションの効力を考える					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第8回	コンサルテーションにおける促進的なプロセ	集団における課題に対する介入プロセス 集団がもつ課題解決のプロセス(問題の明確化 解決案の作成 結果の予測と解決案について理解					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第9回	コンサルテーションにおける促進的なプロセ	個人間における課題に対する介入プロセス 集団における課題解決に向けて、個人の中で生じるプロセスに焦点を					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第10回	コンサルテーションにおける促進的なプロセ	対話とは何かを理解する 対話とディスカッションの違い 「対話」に関する演習					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第11回	コンサルテーションについてまとめ	コンサルティングへの参加・コンサルティングの環境設定・コンサルティングの方法					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第12回	実際のコンサルテーション	自分の今までの事例を振り返りコンサルテーションの意味について改めて検討する					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第13回	実際のコンサルテーション	自分の今までの事例を振り返りコンサルテーションの意味について改めて検討する					2	自身のプレゼンテーションの準備も	2	自身のプレゼンテーションについて
第14回	臨床におけるコンサルテーションの実際	がん看護専門看護師による講義 実際のコンサルテーションのケースをもとに、コンサルテーションの					2	今までの授業を振り返っておく	2	資料を用いて、本日の授業を振り返
第15回	臨床におけるコンサルテーションの実際	がん看護専門看護師による講義 実際のコンサルテーションのケースをもとに、コンサルテーションの					2	前回の授業を振り返っておく	2	資料を用いて、本日の授業を振り返

担当者から
コンサルテーションは、看護専門職者としてチーム・組織のリーダーとなっていくためには、重要なスキルであり、その理論的背景についてもしっかり理解していただきたいと考えています。

講義名	薬物治療学						担当教員	竹内 孝治 / 横井 和美 / 土田 勝晴 / 未定*
講義コード	1850140	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT511							

授業概要

薬物療法に関する情報は増加の一途にあり、新しい薬理作用を持つ薬物が次々と実地臨床に登場している。種々の疾患に対して、科学的根拠に基づいた薬剤選択を行うためには、薬物に関する情報を的確に整理し活用することが重要である。さらに、薬理作用や副作用発現のメカニズムを熟知することも必要となる。
本講義では、薬物の働きを体系的に学習し、薬理作用や副作用発現のメカニズムを理解する。さらに、薬剤を使用する患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るための高度実践看護師としての支援技術を検討する。

到達目標

各種疾患の病態生理を理解し、これら疾患に対して臨床で汎用されている薬物の薬理作用、作用機序、主な副作用に関する基本的な知識を習得する。薬剤を使用する患者の生活調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るための高度実践看護師としての支援技術が説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	正答率
レポート課題	30%	理解度と論理性
上記以外	40%	講義態度

授業外学習

各回の講義終了ごとに、配布資料やプリント等を読むことにより講義要点を復習をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	わかりやすい薬理学(土田担当講義)	安原、小口	ヌーベルヒロカワ	978-4-86174-054-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	治療薬イラストレイテッド	山田信博	羊土社	
2				
3				

授業中に講義内容に関連する資料およびプリントを配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	フィジカルアセスメント						担当教員	越山 雅文 / 横井 和美 / 本田 可奈子 / 松井 善典
講義コード	1850160	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

複雑な健康問題をもつ人々の身体状況について系統的に全身を診察し、看護に必要なデータを得る技法を学ぶ。得られた所見から、高度実践看護に必要な臨床判断を行う能力を養う。また、在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴についても学ぶ。

到達目標

- (1) 身体診察基本手技の理論と方法について理解できる。
- (2) 各部位の身体診察手技を行うことができる。
- (3) 身体診察手技から得られた所見についてアセスメントすることができ、説明できる。
- (4) 在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		到達目標(1)(3)単元の小テスト 40% 到達目標(1)~(4)参加状況とプレゼンテーション 60%

授業外学習

eラーニングのフィジカルアセスメント科目を受講し授業に臨むこと。また、他職種連携ハイブレッッドシミュレータSCENARIO、イチロー、フィジコ、ラング等の高性能患者シュレータの操作方法の事前説明を受け、各自で実践能力を高める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	根拠からみたフィジカルアセスメント	清村紀子、工藤二郎 編集	医学書院	
2	ベイツ診察法	福井次矢、井部俊子 監修	メディカル・サイエンス・インターナショナル	
3	フィジカルアセスメントの根拠がわかる	清村紀子、工藤二郎 編集	医学書院	

前提学力等

履修資格

講義名	フィジカルアセスメント							担当教員	越山 雅文 / 横井 和美 / 本田 可奈子 / 松井 善典
講義コード	1850160	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	テーマ	概要	2	予習 / 復習
第1回	フィジカルアセスメントの理解	フィジカルアセスメントとは、フィジカルアセスメントの意義 フィジカルイグザミネーションとの違い、症状・徴候からのアセス	2	自分に適したフィジカルアセスメント 授業中に提示された課題レポートを2
第2回	身体診察の基本技術	問診、視診、触診、打診、聴診	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第3回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系の観察方法と異常に対する基礎知識 eラーニング学習により確認テストを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第4回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて呼吸器系のフィジカルアセスメントを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第5回	循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系の観察方法と異常に対する基礎知識 eラーニング学習により確認テストを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第6回	循環器系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて循環器系のフィジカルアセスメントを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第7回	腹部骨盤器系のフィジカルアセスメント	腹部消化器系の観察方法と異常に対する基礎知識 eラーニング学習により確認テストを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第8回	腹部骨盤器系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて腹部消化器系のフィジカルアセスメントを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第9回	脳神経系のフィジカルアセスメント	脳神経系の観察方法と異常に対する基礎知識 eラーニング学習により確認テストを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第10回	脳神経系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて脳神経系のフィジカルアセスメントを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第11回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	筋・骨格系の観察方法と異常に対する基礎知識 eラーニング学習により確認テストを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第12回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実施	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第13回	在宅におけるフィジカルアセスメント	在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴 小児から高齢者まで	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第14回	在宅におけるフィジカルアセスメント	在宅における小児から高齢者のフィジカルアセスメントの特徴 複数疾患を有した方のフィジカルアセスメント	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
第15回	複雑な健康問題にある人々のフィジカルアセ	複雑な健康問題を有した事例のフィジカルアセスメント 実技を含めたプレゼンテーション	2	紹介されたeラーニングで授業関連 授業中に提示された課題レポートを2
担当者から				

講義名	フィジカルアセスメント(助産)						担当教員	越山 雅文 / 横井 和美 / 本田 可奈子 / 松井 善典
講義コード	1850161	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

複雑な健康問題をもつ人々の身体状況について系統的に全身を診察し、看護に必要なデータを得る技法を学ぶ。得られた所見から、高度実践看護に必要な臨床判断を行う能力を養う。また、在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴についても学ぶ。

到達目標

- (1) 身体診察基本手技の理論と方法について理解できる。
- (2) 各部位の身体診察手技を行うことができる。
- (3) 身体診察手技から得られた所見についてアセスメントすることができ、説明できる。
- (4) 在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		到達目標(1)(3)単元の小テスト 40% 到達目標(1)~(4)参加状況とプレゼンテーション 60%

授業外学習

eラーニングのフィジカルアセスメント科目を受講し授業に臨むこと。また、他職種連携ハイブレッッドシミュレータSCENARIO、イチロー、フィジコ、ラング等の高性能患者シュレータの操作方法の事前説明を受け、各自で実践能力を高める。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	根拠からみたフィジカルアセスメント	清村紀子、工藤二郎 編集	医学書院	
2	ベイツ診察法	福井次矢、井部俊子 監修	メディカル・サイエンス・インターナショナル	
3	フィジカルアセスメントの根拠がわかる	清村紀子、工藤二郎 編集	医学書院	

前提学力等

履修資格

講義名	フィジカルアセスメント（助産）						担当教員	越山 雅文 / 横井 和美 / 本田 可奈子 / 松井 善典			
講義コード	1850161	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義				
ナンバリング番号											

授業計画												
回数	テーマ	概要						予習/復習				
第1回	フィジカルアセスメントの理解	フィジカルアセスメントとは、フィジカルアセスメントの意義、フィジカルイグザミネーションとの違い、症状・徴候からのアセスメント						2	自分に適したフィジカルアセスメント			2
第2回	身体診察の基本技術	問診、視診、触診、打診、聴診						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第3回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	呼吸器系の観察方法と異常に対する基礎知識、eラーニング学習により確認テストを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第4回	呼吸器系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて呼吸器系のフィジカルアセスメントを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第5回	循環器系のフィジカルアセスメント	循環器系の観察方法と異常に対する基礎知識、eラーニング学習により確認テストを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第6回	循環器系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて循環器系のフィジカルアセスメントを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第7回	腹部骨盤器系のフィジカルアセスメント	腹部消化器系の観察方法と異常に対する基礎知識、eラーニング学習により確認テストを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第8回	腹部骨盤器系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて腹部消化器系のフィジカルアセスメントを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第9回	脳神経系のフィジカルアセスメント	脳神経系の観察方法と異常に対する基礎知識、eラーニング学習により確認テストを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第10回	脳神経系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて脳神経系のフィジカルアセスメントを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第11回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	筋・骨格系の観察方法と異常に対する基礎知識、eラーニング学習により確認テストを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第12回	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	シュミレーション教材の活用やロールプレイにて筋・骨格系のフィジカルアセスメントを実施						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第13回	在宅におけるフィジカルアセスメント	在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴、小児から高齢者まで						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第14回	在宅におけるフィジカルアセスメント	在宅における小児から高齢者のフィジカルアセスメントの特徴、複数疾患を有した方のフィジカルアセスメント						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
第15回	複雑な健康問題にある人々のフィジカルアセスメント	複雑な健康問題を有した事例のフィジカルアセスメント実技を含めたプレゼンテーション						2	紹介されたeラーニングで授業関連			2
担当者から												

講義名	病態生理学						担当教員	坪井 宏仁 / 横井 和美 / 糸島 陽子
講義コード	1850170	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

様々な症状や徴候を呈する各疾患の病態生理を生理検査・画像検査の所見と関連付けて学ぶ。さらに、症例検討を通じて、病気の徴候や病態生理学的变化を的確に把握し、高度な看護実践につなげるための総合的能力を養成する。

到達目標

- (1) 臓器別の疾患の発症機序と病態のメカニズムを生理学的に説明できる
- (2) 生理学的検査（心電図など）や画像検査の異常を病態と関連付けて理解できる
- (3) 実際の臨床症例の病態を、生理学的に解析し理解することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	30	到達目標(2)(3)についてレポート課題を課す(3回)
上記以外	70	到達目標(1)(2)(3)について、討論内容を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ブルーメンフェルト 神経解剖学	ハル・ブルーメンフェル(著) 安原 治(訳)	西村書店	978-4890134663
2	神経内科学テキスト	江藤、飯島(編)	医学書院	978-4524259410
3	図解心電図テキスト	デュービン(著)、村川(訳)	文光堂	978-4830616792

j授業中にプリントを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	病態生理学						担当教員	坪井 宏仁 / 横井 和美 / 糸島 陽子	
講義コード	1850170	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講		
ナンバリング番号									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	ガイダンス (病態生理学総論)	総論 (病態生理学の学び方)	2	シラバスを読み込む 本時の学びを整理する。
第2回	循環器系疾患の病態生理と心電図	心電図異常から学ぶ病態生理	2	テキストの授業範囲を読み込む。 用語を整理し、理解できていない事
第3回	循環器系疾患の病態生理と心音	異常心音から学ぶ病態生理	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第4回	循環器系疾患の症例	循環器系疾患の症例検討 (症例の病態と看護介入について検討する)	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第5回	呼吸器系疾患の病態生理	呼吸器感染症、換気障害、肺癌など、代表的な呼吸器疾患を取り上げ、看護介入の基盤となる病態生理を考える	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第6回	呼吸器系疾患の病態生理と胸部X線、聴診	胸部X線と聴診所見から学ぶ呼吸器疾患の病態生理	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第7回	呼吸器系疾患の症例	呼吸器系疾患の症例検討 (症例の病態と看護介入について検討する)	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第8回	消化器系疾患の病態生理と腹部CT	腹部CT所見から学ぶ消化器系疾患の病態生理	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第9回	泌尿器系疾患の病態生理	糸球体腎炎、ネフローゼ、腎不全など、代表的な泌尿器疾患を取り上げ、看護介入の基盤となる病態生理を考える	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第10回	泌尿器系・消化器系疾患の症例	泌尿器系・消化器系疾患の症例検討 (症例の病態と看護介入について検討する)	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第11回	筋骨格系疾患の病態生理	ミオパチーや関節疾患など、代表的な筋骨格系疾患を取り上げ、看護介入の基盤となる病態生理を考える	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第12回	神経系疾患の病態生理	脳血管障害、脱髄疾患、変性疾患など、代表的な神経系疾患を取り上げ、看護介入の基盤となる病態生理について考える	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第13回	神経系疾患の病態生理と脳画像	頭部MRIと頭部CT所見から学ぶ神経疾患の病態生理	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第14回	筋骨格系・神経系疾患の症例	筋骨格系・神経系疾患の症例検討 (症例の病態と看護介入について検討する)	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
第15回	血液系疾患と内分泌系疾患の病態生理	貧血、白血病、リンパ腫などの代表的な血液疾患、ならびに下垂体、甲状腺、副腎疾患などの内分泌疾患を取り上げ、看護介入の基盤とな	2	テキストの授業範囲を読み込む 用語を整理し、理解できていない事
担当者から				

講義名	病態生理学（助産）						担当教員	坪井 宏仁 / 横井 和美 / 糸島 陽子
講義コード	1850171	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

様々な症状や徴候を呈する各疾患の病態生理を生理検査・画像検査の所見と関連付けて学ぶ。さらに、症例検討を通じて、病気の徴候や病態生理学的变化を的確に把握し、高度な看護実践につなげるための総合的能力を養成する。

到達目標

- (1) 臓器別の疾患の発症機序と病態のメカニズムを生理学的に説明できる
- (2) 生理学的検査（心電図など）や画像検査の異常を病態と関連付けて理解できる
- (3) 実際の臨床症例の病態を、生理学的に解析し理解することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	30	到達目標(2)(3)についてレポート課題を課す(3回)
上記以外	70	到達目標(1)(2)(3)について、討論内容を評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ブルーメンフェルト 神経解剖学	ハル・ブルーメンフェル(著) 安原 治(訳)	西村書店	978-4890134663
2	神経内科学テキスト	江藤、飯島(編)	医学書院	978-4524259410
3	図解心電図テキスト	デュービン(著)、村川(訳)	文光堂	978-4830616792

j授業中にプリントを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	看護技術学演習						担当教員	伊丹 君和
講義コード	1851010	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	581MNT515							

授業概要

看護技術のエビデンスの検証方法、介入方法の検証法を探究するよう演習を行う。また、看護技術学に関連する国内外の関連文献ならびに関連領域の研究をクリティークする力を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインの基礎を培うよう授業を進めていく。

到達目標

- (1) 看護技術のエビデンスの検証方法、介入方法の検証法を探究する
- (2) 看護技術学に関連する国内外の関連文献ならびに関連領域の研究についてクリティークできる
- (3) 自己の研究課題の焦点化と研究デザインについて考究する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100%	<ul style="list-style-type: none"> ・看護技術のエビデンス・介入方法の検証 30% ・看護技術に関する研究のクリティーク 30% ・自己の研究課題の焦点化と研究デザインの考究 40%
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護技術の科学と検証	川島みどり、菱沼典子	日本看護協会出版会	
2				
3				

授業時に資料配布する

前提学力等

履修資格

講義名	看護技術学特論						担当教員	伊丹 君和
講義コード	1851020	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT514							

授業概要

専門性の高い科学としての看護を实践するための基盤となる看護技術について、科学と技術の概念、その発達史の概略を説明し、看護技術の位置、その意味と目的を考察する。また、看護技術に携わる者としての社会的役割、責任など倫理的課題について認識を深めてもらうよう授業を進める。さらに、人を対象とする技術の特性、看護技術の基本的な方法論について概説し、エビデンスの検証、現在の研究知見と看護実践および教育への適応について考究してもらう。

到達目標

- (1) 科学と技術の概念と変遷を理解した上で、看護における技術の意味と目的について考察する
- (2) 科学的根拠に基づいた看護技術について、文献をクリティークしながら検証する
- (3) 看護技術学とは何か、および看護技術に影響する諸因子について考察する

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70%	・課題レポート70% 先行文献のクリティーク課題40% 「看護技術を考える」レポート課題30%
上記以外	30%	・ディスカッション30%

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

授業での学びを深めるために事前事後学習は必須です。自らの専門性を看護技術の視点からさらに深められるよう、意欲的に授業に臨んでいただきたいと思っています。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護技術論	メジカルフレンド社編集部編	メジカルフレンド社	
2	看護技術の現在	川島みどり	勁草書房	
3				

授業時に資料配布していきます

前提学力等

履修資格

講義名	看護技術学特論					担当教員	伊丹 君和
講義コード	1851020	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義
ナンバリング番号	581MNT514						

授業計画

回数	テーマ	概要	予習 / 復習
第1回	科学と技術の概念と変遷	科学と技術の概念と変遷について理解する	2時 授業での説明をもとに、看護技術に4
第2回	看護における技術の意味と目的	看護における技術の意味と目的について考える	2時 事前に関連する文献を読み、自己の4
第3回	看護技術学の探求 (1)	看護技術に関する文献をもとに看護技術学について考える	2時 事前に関連する文献を読み、自己の4
第4回	看護技術学の探求 (2)	看護技術に関する文献をもとに看護技術学について考える	2時 事前に関連する文献を読み、自己の4
第5回	看護技術学の探求 (3)	看護技術に関する文献をもとに看護技術学について考える	2時 事前に関連する文献を読み、自己の4
第6回	看護技術の安全性・安楽性と倫理的課題	看護技術の安全性・安楽性と倫理的課題について考える	2時 授業で学んだことについて他の文献4
第7回	看護技術のエビデンスの検証 (1)	科学的根拠に基づいた看護技術について、文献をクリティックしながら検証する	2時 自己の専門分野に関連する看護技術4
第8回	看護技術のエビデンスの検証	科学的根拠に基づいた看護技術について、文献をクリティックしながら検証する	2時 自己の専門分野に関連する看護技術4
第9回	看護技術のエビデンスの検証 (3)	科学的根拠に基づいた看護技術について、文献をクリティックしながら検証する (共有)	2時 自己の専門分野に関連する看護技術4
第10回	看護技術のエビデンスの検証 (4)	科学的根拠に基づいた看護技術について、文献をクリティックしながら検証する (共有)	2時 自己の専門分野に関連する看護技術4
第11回	看護技術の基礎理論	看護技術の基礎理論について文献をもとに理解する	2時 授業で学んだことについて他の文献4
第12回	看護の専門性と看護技術の再考	看護の専門性と看護技術について文献などをもとに再考する	2時 授業で学んだことについて他の文献4
第13回	看護技術教育の現状と今後	看護技術教育の現状と今後について考える	2時 授業で学んだことについて他の文献4
第14回	看護技術研究の現状と今後	看護技術研究の現状と今後について考える	2時 授業で学んだことについて他の文献4
第15回	看護技術を考える	看護技術における自己の考えを明確化する	2時 これまで授業で学んできたことをふ4

担当者から

看護の本質について、看護技術という切り口から考究できる授業となります。自己の専門性と照らし合わせながら、授業での学びをさらに深められるよう、自ら学び追及していく姿勢をもって臨んでいただきたいと思います。

講義名	基盤看護学特別研究(1年次)						担当教員	専攻教員/横井 和美/古株 ひろみ/ 甘佐 京子/古川 洋子/伊丹 君和/ 米田 照美/牧野 耕次/荒川 千登世/
講義コード	1851050	単位数	8	開講期	通年研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号	681MNT601							

授業概要

基盤看護学分野では、当該領域の専門的な知識と研究方法・技術等を適用し、実証的・開発的な研究を指導する。

到達目標

看護学の新たな知見を含み、かつその内容が看護学の発展に貢献できる学術的な論文を作成する
看護学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づいて看護を実践的・開発的に展開していく能力を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文、修士論文審査会、最終試験の結果を総合して審査する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「修士論文作成の手引」きを年度初めに配布します。研究の進め方、論文の作成のルール等については、手引きを参照してください。

前提学力等

履修資格

講義名	基盤看護学特別研究（1年次）						担当教員	専攻教員／横井 和美／古株 ひろみ／甘佐 京子／古川 洋子／伊丹 君和／米田 照美／牧野 耕次／荒川 千登世／
講義コード	1851050	単位数	8	開講期	通年研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号	681MNT601							

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習／復習		
第1回	研究の進捗状況	担当教員と研究の進め方、スケジュールの調整を行う。			2	自身の研究の研究計画書を作成す	5
						研究の進め方に従い、今後のスケ	5
第2回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第3回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第4回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第5回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第6回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第7回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第8回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第9回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第10回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第11回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第12回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第13回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第14回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第15回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第16回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第17回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第18回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第19回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第20回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第21回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第22回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第23回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第24回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。。	5
第25回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第26回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第27回	修士申請論文の作成方法	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第28回	修士申請論文審査の準備	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文審査会の資料を作成	5
						修士申請論文審査会の資料を作成、	5
第29回	修士申請論文の修正	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を修正し、最終試験	5
						修士申請論文を修正し、最終試験	5
第30回	修士申請論文の修正	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を修正する。	5
						修士申請論文を修正し、提出する。	5
担当者から							
履修に関しては、指導教員にアドバイスを受けながら進めてください。研究を進めるうえでのスケジュールやルールについても、遅れたり、間違えてしまったりすることが無い様に十分注意してください。							

講義名	基盤看護学特別研究(2年次)					担当教員	専攻教員/横井 和美/古株 ひろみ/ 甘佐 京子/古川 洋子/伊丹 君和/ 米田 照美/牧野 耕次/荒川 千登世/
講義コード	1851055	単位数	8	開講期	通年研究	授業方法	
ナンバリング番号	681MNT601						

授業概要

到達目標

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	形態機能・生体機構学演習						担当教員	坪井 宏仁
講義コード	1851060	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演	
ナンバリング番号	581MNT519							

授業概要

神経疾患の症例について、経過、神経症候、検査結果、画像所見を呈示する。特論で学んだ内容をもとに、各症例について検討する。

到達目標

- 1) 神経検査法について説明できる。
- 2) 神経画像の正常像と基本的な異常像が理解できる。
- 2) 神経疾患の病態生理を理解している。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	討論内容を評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ブルーメンフェルト 神経解剖学	ハル・ブルーメンフェル(著) 安原 治(訳)	西村書店	978-4890134663
2	神経内科学テキスト	江藤、飯島(編)	医学書院	978-4524259410
3				

前提学力等

履修資格

講義名	形態機能・生体機構学特論						担当教員	坪井 宏仁
講義コード	1851070	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号	581MNT518							

授業概要

神経疾患の診察法や生理検査、画像検査に触れるとともに、代表的な疾患の病態生理と看護法について学ぶ。

到達目標

- (1) 神経検査法の基本が理解できる
- (2) 神経症候から神経疾患の病態、病巣局在を類推できる
- (3) 神経疾患の病態を理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	討論内容を評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ブルーメンフェルト 神経解剖学	ハル・ブルーメンフェル(著) 安原 治(訳)	西村書店	978-4890134663
2	神経内科学テキスト	江藤、飯島(編)	医学書院	978-4524259410
3				

前提学力等

履修資格

講義名	形態機能・生体機構学特論							担当教員	坪井 宏仁
講義コード	1851070	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講		
ナンバリング番号	581MNT518								

授業計画									
回数	テーマ	概要			予習/復習				
第1回	ガイダンス	単元の進め方の説明			2	シラバスを読み込む。	2	本時の学びを整理する。	2
第2回	神経検査法(1)	神経検査法の手技と意義			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第3回	神経検査法(2)	神経検査法の手技と意義			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第4回	神経画像(1)	頭部CTの正常像と異常像			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第5回	神経画像(2)	MRIの正常像と異常像			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第6回	神経画像(3)	血管撮影の正常像と異常像			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第7回	神経症候から何を考えるか(1)	運動障害、感覚障害			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第8回	神経症候から何を考えるか(2)	脳神経異常、意識障害			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第9回	神経症候から何を考えるか(3)	高次脳機能障害			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第10回	脳血管障害の病態	脳血管障害			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第11回	ニューロパチー、ミオパチー、ミエロパチー	末梢神経疾患、筋疾患、脊髄疾患			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第12回	脱髄疾患	多発性硬化症を中心に			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第13回	変性疾患の病態	変性疾患(小脳変性症、ALS、パーキンソン病)			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第14回	認知症の病態	認知症			2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
第15回	まとめ				2	テキストの授業範囲を読み込む	2	用語を整理し、理解できていない事	2
担当者から									

講義名	精神看護援助方法論						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子
講義コード	1851090	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT520							

授業概要

看護介入の基本を提供するため、精神病理のアセスメントと診断のためのパラダイム(理論的枠組み)強調し、「異常」といわれる基本的な特質について学習する。病因学・症候学・病気の経過や見通しに関する研究成果を概念づけるために、相互作用的研究パラダイムについても学習する。

到達目標

1. 精神病理とそのアセスメントと診断に関する理論を比較・対照できる。
2. 研究から得られた、精神疾患の病因学・症候学・病気の経過や見通しに関する知識を習得する。
3. 精神病理とそのアセスメントと診断を看護の視点から批判的に評価判定することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	課題1および2についてディスカッションを経て、新たな意見とを取り入れ加筆修正したものをレポートとして提出。 課題1については以下のことが網羅されていること。参考文献は複数用いること。 1. 特徴
上記以外	40	プレゼンの資料(メンバーにわかりやすく論理的にまとめられているか) ディスカッションの参加状況(問題に対して積極的に意見交換ができていますか)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	精神看護援助方法論						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子		
講義コード	1851090	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	581MNT520									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	オリエンテーション 課題 DSM5の分類を基	第1～7回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションのテーマ 自身のテーマについて、どのように
第2回	課題 DSM5の分類を基にした、分類・病因・	課題1 DSM5の分類を基にした、分類・病因・アセスメント・経過および予後	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第3回	課題 DSM5の分類を基にした、分類・病因・	課題1 DSM5の分類を基にした、分類・病因・アセスメント・経過および予後	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第4回	課題 DSM5の分類を基にした、分類・病因・	課題1 DSM5の分類を基にした、分類・病因・アセスメント・経過および予後	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第5回	課題 DSM5の分類を基にした、分類・病因・	課題1 DSM5の分類を基にした、分類・病因・アセスメント・経過および予後	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第6回	課題 DSM5の分類を基にした、分類・病因・	課題1 DSM5の分類を基にした、分類・病因・アセスメント・経過および予後	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第7回	課題 DSM5の分類を基にした、分類・病因・	課題1 Q1.DSM5の分類を基にした、分類・病因・アセスメント・経過および	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第8回	課題 Q1疾患・症状などを選びそれに関する	第8～13回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第9回	課題 Q1疾患・症状などを選びそれに関する	第8～13回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第10回	課題 Q1疾患・症状などを選びそれに関する	第8～13回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第11回	課題 Q1疾患・症状などを選びそれに関する	第8～13回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第12回	課題 Q1疾患・症状などを選びそれに関する	第8～13回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第13回	課題 Q1疾患・症状などを選びそれに関する	第8～13回 課題 に対するプレゼンテーションおよびディスカッショ	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第14回	学会参加およびプレゼンテーション	関連学会に参加し、自己のテーマに関する最新の知見を収集し、プレゼンテーションをする	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
第15回	学会参加およびプレゼンテーション	関連学会に参加し、自己のテーマに関する最新の知見を収集し、プレゼンテーションをする	2	自身のプレゼンテーションの準備も 自身のプレゼンテーションについて
担当者から				

講義名	精神看護関連技法演習						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子
講義コード	1851100	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT521							

授業概要

精神の医療・看護に関与する専門職者として、精神看護に関連した技法について学び、看護師としてその技法を用いるための方法論を修得することを目的とする。

到達目標

精神看護の関連技法の理論的背景を理解し、その知識や技法を看護実践に応用していく方策について自己の考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	関連技法を活用しか看護介入のあり方について、事例を用いて論じることができる。必ず理論的枠組みを説明すること。
上記以外	40	担当する部分で、理論や技法以外に用いられている用語の中で、自分が気になった用語についても、その意味を調べてプレゼンする。 テキストのまとめではなく、別の文献をもちいて、よりが学術的な観点でプレゼンしてください。参考図書・文献に

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

初講時に、履修者の希望を聞き、内容を少し変更する場合があります。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	精神看護と関連技法	坂田三充編集	中山書店	
2				
3				

前提学力等

参考図書等で精神看護の関連技法にどのようなものがあるか事前に学習して置いてください。

履修資格

講義名	精神看護関連技法演習						担当教員	牧野 耕次 / 甘佐 京子	
講義コード	1851100	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	581MNT521								

授業計画										
回数	テーマ	概要				予習 / 復習				
第1回	オリエンテーション	精神看護の関連技法について、どのようなものがあるか。自己の興味のある関連技法は何か。などを話し合い、探求するテーマを決定す				2	自身のプレゼンテーションのテーマについて、どのように			2
第2回	各関連技法について	第2～ 3回 認知行動療法、生活技能訓練				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第3回	各関連技法について	第2～ 3回 認知行動療法、生活技能訓練				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第4回	各関連技法について	第4～ 5回 心理教育・家族療法第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第5回	各関連技法について	第4～ 5回 心理教育・家族療法第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第6回	各関連技法について	6～ 8回 関連技法の看護実践への応用についてのディスカッション				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第7回	各関連技法について	6～ 8回 関連技法の看護実践への応用についてのディスカッション				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第8回	各関連技法について	6～ 8回 関連技法の看護実践への応用についてのディスカッション				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第9回	看護に用いる関連技法の実際	第9～ 14回 関連技法を用いた研究の文献検討およびクリティーク第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第10回	看護に用いる関連技法の実際	第9～ 14回 関連技法を用いた研究の文献検討およびクリティーク第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第11回	看護に用いる関連技法の実際	第9～ 14回 関連技法を用いた研究の文献検討およびクリティーク第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第12回	看護に用いる関連技法の実際	第9～ 14回 関連技法を用いた研究の文献検討およびクリティーク第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第13回	看護に用いる関連技法の実際	第9～ 14回 関連技法を用いた研究の文献検討およびクリティーク第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第14回	看護に用いる関連技法の実際	第9～ 14回 関連技法を用いた研究の文献検討およびクリティーク第				2	自身のプレゼンテーションの準備も自身のプレゼンテーションについて			2
第15回	まとめ	15回 まとめ 自分の看護介入に活用できる関連技法について				2	今までの授業を振り返り、最終課題最終課題を進める。			2
担当者から										

講義名	生涯健康看護学特別研究(1年次)						担当教員	専攻教員/横井 和美/古株 ひろみ/ 甘佐 京子/古川 洋子/伊丹 君和/ 米田 照美/牧野 耕次/荒川 千登世/
講義コード	1852010	単位数	8	開講期	通年研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号	681MNT602							

授業概要

生涯健康看護学分野では、対象となる人々とその家族の健康増進および継続的な療養生活を支援・評価するための研究を指導する。

到達目標

看護学の新たな知見を含み、かつその内容が看護学の発展に貢献できる学術的な論文を作成する。
看護学に関する広い視野と学識を有し、これらに基づいて看護を実践的・開発的に展開していく能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文、修士論文審査会、最終試験の結果を総合して審査する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

「修士論文作成の手引」きを年度初めに配布します。研究の進め方、論文の作成のルール等については、手引きを参照してください。

前提学力等

履修資格

講義名	生涯健康看護学特別研究（1年次）						担当教員	専攻教員／横井 和美／古株 ひろみ／甘佐 京子／古川 洋子／伊丹 君和／米田 照美／牧野 耕次／荒川 千登世／
講義コード	1852010	単位数	8	開講期	通年研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号	681MNT602							

授業計画							
回数	テーマ	概要			予習／復習		
第1回	研究の進捗状況	担当教員と研究の進め方、スケジュールの調整を行う。			2	自身の研究の研究計画書を作成す	5
						研究の進め方に従い、今後のスケ	5
第2回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第3回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第4回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第5回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第6回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第7回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第8回	研究計画書の作成と倫理審査の申請	プレゼンテーションとディスカッション			2	研究計画書を作成する。	5
						研究計画書を作成し倫理審査の申請	5
第9回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第10回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第11回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第12回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第13回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第14回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第15回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第16回	調査の進捗状況	プレゼンテーションとディスカッション			2	調査を実施しデータの分析をする。	5
						データの分析をする。	5
第17回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第18回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第19回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第20回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第21回	データの分析と考察	プレゼンテーションとディスカッション			2	データを分析し考察する。	5
						結果と考察をまとめる。	5
第22回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第23回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第24回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。。	5
第25回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第26回	修士申請論文の作成	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第27回	修士申請論文の作成方法	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を作成する。	5
						修士申請論文を作成する。	5
第28回	修士申請論文審査の準備	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文審査会の資料を作成	5
						修士申請論文審査会の資料を作成、	5
第29回	修士申請論文の修正	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を修正し、最終試験	5
						修士申請論文を修正し、最終試験	5
第30回	修士申請論文の修正	プレゼンテーションとディスカッション			2	修士申請論文を修正する。	5
						修士申請論文を修正し、提出する。	5
担当者から							
履修に関しては、指導教員にアドバイスを受けながら進めてください。研究を進めるうえでのスケジュールやルールについても、遅れたり、間違えてしまったりすることが無い様に十分注意してください。							

講義名	生涯健康看護学特別研究(2年次)						担当教員	専攻教員/横井 和美/古株 ひろみ/ 甘佐 京子/古川 洋子/伊丹 君和/ 米田 照美/牧野 耕次/荒川 千登世/
講義コード	1852015	単位数	8	開講期	通年研究	授業方法		
ナンバリング番号	681MNT602							

授業概要

--	--	--	--	--	--	--	--

到達目標

--	--	--	--	--	--	--	--

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

授業外学習

--	--	--	--	--	--	--	--

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--	--	--	--	--	--	--	--

履修資格

--	--	--	--	--	--	--	--

講義名	小児家族看護学演習						担当教員	古株 ひろみ / 川端 智子
講義コード	1852020	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	581MNT529							

授業概要

各期の発達段階にある子どもとその家族の状態について、倫理的配慮を含めて包括的に査定・援助する方法を議論させる。また、子どもを取り巻く現状と看護職者としての課題及び援助方法について探究する。社会の動向を捉えて自己の問題解決能力を向上させる。

到達目標

- (1) 文献や資料から各期の子どもとその家族における課題について説明できる
- (2) 課題解決に向けた子どもの権利を尊重し、小児の発達を踏まえた看護援助方法を考究できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	到達目標(2)はレポートにて評価する
上記以外	30	到達目標(1)はプレゼンテーションで評価する

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。期限外の提出課題は評価しない場合がある

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で適宜、紹介します

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	小児家族看護学演習						担当教員	古株 ひろみ / 川端 智子		
講義コード	1852020	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習			
ナンバリング番号	581MNT529									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	プレゼン方法を含むオリエンテーションにつ	小児家族看護学演習全体の概要とプレゼンテーション方法について理解する	2	各自、発達段階における課題 (テーマ) 0
第2回	乳児期の課題	乳児期の問題 (虐待など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	テーマに関する文献や資料を読み、発表後のディスカッションや指導を 3
第3回	乳児期の課題	乳児期の問題 (虐待など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	ディスカッションした内容を基に、 2
第4回	乳児期の課題	乳児期の問題 (虐待など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	プレゼンテーション資料の作成 3
第5回	幼児期の課題	幼児期の問題 (事故など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	発表後のディスカッションや指導を 1
第6回	幼児期の課題	幼児期の問題 (事故など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	テーマに関する文献や資料を読み、発表後のディスカッションや指導を 3
第7回	幼児期の課題	幼児期の問題 (事故など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	ディスカッションした内容を基に、 1
第8回	学童期の課題	学童期の問題 (慢性疾患・不登校・アレルギーなど学校生活における課題) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して	2	プレゼンテーション資料の作成 3
第9回	学童期の課題	学童期の問題 (慢性疾患・不登校・アレルギーなど学校生活における課題) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して	2	発表後のディスカッションや指導を 1
第10回	学童期の課題	学童期の問題 (慢性疾患・不登校・アレルギーなど学校生活における課題) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して	2	ディスカッションした内容を基に、 2
第11回	思春期の課題	思春期の問題 (タバコ・薬物など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	プレゼンテーション資料の作成 3
第12回	思春期の課題	思春期の問題 (タバコ・薬物など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	発表後のディスカッションや指導を 1
第13回	思春期の課題	思春期の問題 (タバコ・薬物など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明確化させる	2	ディスカッションした内容を基に、 1
第14回	医療的ケアが必要な児の課題	医療的ケアが必要な児の問題 (学校生活など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明	2	プレゼンテーション資料の作成 3
第15回	医療的ケアが必要な児の課題	医療的ケアが必要な児の問題 (学校生活など) についてのプレゼンテーションからディスカッションを通して課題や援助方法について明	2	発表後のディスカッションや指導を 1
担当者から				

講義名	小児家族看護学特論						担当教員	古株 ひろみ
講義コード	1852030	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT528							

授業概要

代表的な発達理論について解説し、子どもの成長発達と子どもとその家族の健康生活・QOL向上・家族機能・およびソーシャルサポートの視点から分析・アプローチする方法を説明できるよう教授する

到達目標

- (1) 子どもとその家族の理解を深めるため発達理論、家族看護学に関する理論などが理解できる。
(2) 子どもとその家族へのケアに関連する文献から、子どもの成長発達、家族機能を強めるアプローチ方法が探究できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	到達目標(2)についてレポートにて評価する
上記以外	50	到達目標(1)についてはプレゼンテーションについて評価する

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。期日外の提出物は評価しない場合がある。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義内で、適宜紹介します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ライフサイクル、その完結	E.H.Erikson	みずず書房	
2	「心の理論」から学ぶ発達の基礎	子安増生	ミネルヴァ書房	
3	母子関係の理論 愛着行動	J.ボウルビィ	岩崎学術出版社	

前提学力等

履修資格

講義名	小児家族看護学特論							担当教員	古株 ひろみ	
講義コード	1852030	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義			
ナンバリング番号	581MNT528									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	オリエンテーション	プレゼンテーションの対象となる理論および課題、プレゼンテーション方法、授業評価などについて理解する	2	各自、研究テーマに関する発達の理 0 1
第2回	子どもの発達に関する理論	子どもの発達に関連する理論についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチについて考察を深め	2	関心のある発達理論について資料を 3 ディスカッションした内容を基に、 2
第3回	子どもの発達に関する理論	子どもの発達に関連する理論についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチについて考察を深め	2	関心のある発達理論について資料を 3 ディスカッションした内容を基に、 3
第4回	子どもの発達に関する理論	子どもの発達に関連する理論についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチについて考察を深め	2	関心のある発達理論について資料を 3 自身の研究へのアプローチについて 1
第5回	子どもの生活に関する研究の特徴	各自の研究疑問に関連する子どもの生活に関連した研究についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプ	2	テーマについて関心のある論文を読 2 ディスカッションした内容を基に、 2
第6回	子どもおよび家族の生活に関する研究の特徴	各自の研究疑問に関連する子どもおよび家族の生活に関連した研究についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研	2	テーマについて関心のある論文を読 2 ディスカッションした内容を基に、 2
第7回	子どもおよび家族の生活に関する研究の特徴	各自の研究疑問に関連する子どもおよび家族の生活に関連した研究についてのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研	2	テーマについて関心のある論文を読 3 自身の研究へのアプローチについて 1
第8回	子どもおよび家族の家族に関する研究の特徴	各自の研究疑問に関連する子どもおよび家族の家族についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチ	2	テーマについて関心のある論文を読 2 ディスカッションした内容を基に、 2
第9回	子どもおよび家族の家族に関する研究の特徴	各自の研究疑問に関連する子どもおよび家族の家族についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチ	2	テーマについて関心のある論文を読 2 ディスカッションした内容を基に、 2
第10回	子どもの家族に関する研究の特徴	各自の研究疑問に関連する子どもの家族についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチについて考	2	テーマについて関心のある論文を読 3 ディスカッションした内容を基に、 1
第11回	子どもに関連する社会制度に関する研究の特	各自の研究疑問に関連する子どもに関する社会制度についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチ	2	テーマについて関心のある論文を読 2 ディスカッションした内容を基に、 2
第12回	子どもに関連する社会制度に関する研究の特	各自の研究疑問に関連する子どもに関する社会制度についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチ	2	テーマについて関心のある論文を読 2 ディスカッションした内容を基に、 2
第13回	子どもに関連する社会制度に関する研究の特	各自の研究疑問に関連する子どもに関する社会制度についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、研究へのアプローチ	2	テーマについて関心のある論文を読 3 ディスカッションした内容を基に、 1
第14回	研究へのアプローチ	各自研究へのアプローチ方法についてディスカッションし、考察を深める。	2	各自が、講義を踏まえて整理した研 2 ディスカッションを整理し、理解を 2
第15回	レポート作成	課題レポートの作成	2	レポート作成の資料を読み、構想を 2 修正、検討する 1
担当者から				

講義名	成人継続支援看護学演習[成人継続看護学演習]						担当教員	糸島 陽子 / 横井 和美 / 荒川 千登世
講義コード	1852040	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	581MNT531							

授業概要

継続的な健康障害を有する成人期にある人々の心身・生活上の諸問題について、アセスメントするための理論とEBNに基づいた看護技術について探求する。また、成人継続看護学に関連する国内外の文献をクリティークする力を養い、自己の研究課題と研究デザインを考える。

到達目標

- (1) 国内外の文献をクリティークして、成人継続看護の課題について理解できる。
- (2) 健康障害を有する人々への看護技術について理解できる。
- (3) 自己の研究課題と研究デザインを考えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	到達目標(1) 15% 到達目標(2) 15% 到達目標(3) 20%
上記以外	50%	到達目標(1) 15% 到達目標(2) 15% 到達目標(3) 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に紹介

前提学力等

成人継続看護学特論を履修している。

履修資格

講義名	成人継続支援看護学演習[成人継続看護学演習]						担当教員	糸島 陽子 / 横井 和美 / 荒川 千登世		
講義コード	1852040	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習			
ナンバリング番号	581MNT531									

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	オリエンテーション 健康障害を有する人々	健康障害を有する成人期にある人々への看護に関連する理論、関係法規、課題について探求する。	2	健康障害を有する人々への看護に関する3 健康障害を有する人々への看護技術1
第2回	文献クリティーク	第2回～第11回は、文献のクリティークを行い、健康障害を有する成人期にある人々への支援のあり方について探求する。	2	文献のクリティークをとおして、先3 文献のクリティークをとおして、研1
第3回	文献クリティーク		2	3 1
第4回	文献クリティーク		2	3 1
第5回	文献クリティーク		2	3 1
第6回	文献クリティーク		2	3 1
第7回	文献クリティーク		2	3 1
第8回	文献クリティーク		2	3 1
第9回	文献クリティーク		2	3 1
第10回	文献クリティーク		2	3 1
第11回	文献クリティーク		2	3 1
第12回	研究方法	文献クリティークをとおして、自己研究課題を明確化し、研究デザインを考える。	2	文献のクリティークをとおして、研3 先行研究を整理して、研究デザイン1
第13回	研究方法	研究デザイン、研究目的に応じた研究方法を考える。	2	文献のクリティークをとおして、研3 研究デザイン、研究目的を修正す1
第14回	研究方法	自己の研究課題に応じた研究方法（質問紙の作成・インタビュー演習）を考え、研究計画書を作成する。	2	自己の研究課題に応じた研究計画書3 研究計画書の素案を修正する。1
第15回	研究方法	研究計画書を発表する。	2	自己の研究課題に応じた研究計画書3 研究計画書を修正して、倫理委員会1
担当者から				

講義名	成人継続支援看護学特論[成人継続看護学特論]						担当教員	糸島 陽子 / 横井 和美 / 荒川 千登世
講義コード	1852050	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT530							

授業概要

成人継続看護に有用な概念・理論・看護モデルについて学び、事例分析をとおして健康障害を有する人々への継続看護について探求する。

到達目標

- (1) 成人期の特徴が説明できる。
- (2) 成人継続支援看護に有用な概念・理論・看護モデルについて説明できる。
- (3) 対象の状況に応じた理論を活用して看護現象を分析し、継続支援看護について考えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	到達目標(1) 15% 到達目標(2) 15% 到達目標(3) 20%
上記以外	50%	到達目標(1) 15% 到達目標(2) 15% 到達目標(3) 20%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に紹介

前提学力等

履修資格

講義名	母性看護学演習						担当教員	越山 雅文 / 古川 洋子 / 板谷 裕美 / 千葉 陽子
講義コード	1852080	単位数	2	開講期	後期	授業方法	プレ	
ナンバリング番号	581MNT527							

授業概要

女性の健康支援に関する国内外の関連論文を購読し、研究方法を探究するとともに、実践への適用を検討する。

到達目標

1. 女性のライフステージにおけるリプロダクティブヘルス/ライツに関連した先行研究をcritiqueし、女性の健康維持・増進をもたらす看護援助を深く考察できる。
2. 周産期母子看護に関する国内外の文献を講読し、周産期ケアの研究と実践の動向および今後の課題が把握できる。
3. 学習を通じて習得した知識と方法で、母性看護に活用できる看護支援モデルが検討できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	
上記以外	50	

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	母性看護学特論						担当教員	越山 雅文 / 古川 洋子 / 板谷 裕美 / 千葉 陽子
講義コード	1852090	単位数	2	開講期	後期	授業方法	アク	
ナンバリング番号	581MNT526							

授業概要

女性の健康支援に用いられる諸理論や諸概念を理解し、リプロダクティブヘルス/ライツに関する今日的課題を追求すると共に、ライフステージからみた女性の健康問題や周産期母子及び家族の看護ニーズへの看護援助方法を探究する。

到達目標

1. 系統的文献検索を基に、女性の健康、リプロダクティブヘルス/ライツにおける主要な理論および概念が理解できる。
2. 女性の各ライフステージにおける健康に影響を与える要因が説明できる。
3. 女性の健康における課題と母性・助産専門家の役割が考察できる。
4. 女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論が理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	課題レポート
上記以外	50	プレゼンテーション

授業外学習

国内外の研究動向を踏まえて、最新のエビデンスに基づいたリプロダクティブヘルス/ライツに関する今日的課題を追求すると共に、ライフステージからみた女性の健康問題や周産期母子及び家族の看護ニーズへの看護援助方法を探究すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に説明する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	母性看護学特論						担当教員	越山 雅文 / 古川 洋子 / 板谷 裕美 / 千葉 陽子
講義コード	1852090	単位数	2	開講期	後期	授業方法	アク	
ナンバリング番号	581MNT526							

授業計画

回数	テーマ	概要	予習/復習
第1回	1 リプロダクティブヘルス/ライツと母性看	系統的文献検索を基に、女性の健康、リプロダクティブヘルス/ライツにおける主要な理論および概念を学習する	2 0.
第2回	1 リプロダクティブヘルス/ライツと母性看	系統的文献検索を基に、女性の健康、リプロダクティブヘルス/ライツにおける主要な理論および概念を学習する	2 0.
第3回	3 母性看護学分野における研究1	女性の各ライフステージにおける健康に影響を与える要因を検討する	2 0.
第4回	3 母性看護学分野における研究2	女性の各ライフステージにおける健康に影響を与える要因を検討する	2 0.
第5回	3 母性看護学分野における研究3	女性の各ライフステージにおける健康に影響を与える要因を検討する	2 0.
第6回	6 女性の健康・周産期看護に関する研究手法	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第7回	6 女性の健康・周産期看護に関する研究手法	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第8回	6 女性の健康・周産期看護に関する研究手法	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第9回	6 女性の健康・周産期看護に関する研究手法	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第10回	6 女性の健康・周産期看護に関する研究手法	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第11回	11 女性の健康と看護1	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第12回	11 女性の健康と看護2	女性の健康問題や周産期母子および家族への看護実践、研究課題を検討する上で必要な理論を学習する	2 0.
第13回	11 女性の健康と看護3	女性の健康における課題と母性・助産専門家の役割を学習する	2 0.
第14回	11 女性の健康と看護4	女性の健康における課題と母性・助産専門家の役割を学習する	2 0.
第15回	11 女性の健康と看護5	女性の健康における課題と母性・助産専門家の役割を学習する	2 0.

担当者から

講義名	老年看護学特論						担当教員	岡本 紀子
講義コード	1852125	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

高齢者とその家族等の生活や健康の実態をもとに、高齢者のセルフケア、家族等や医療、福祉施設における高齢者へのケアについて文献等を用いて分析し、高齢者の生活や健康に関する課題を見出す。

到達目標

- (1) 高齢者やその家族の生活と健康について現状と課題を述べることができる。
- (2) 高齢者やその家族、施設等のケア提供者の課題について述べるができる。
- (3) (1)(2)をもとに自身の関心のある研究テーマについてプレゼンテーションができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	自身の研究について文章化することができる。
上記以外	60	プレゼンテーション

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	老年看護学演習						担当教員	岡本 紀子 / 松井 宏樹 / 岡崎 瑞生
講義コード	1852135	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

高齢者やその家族等に関する文献から生活や健康、ケアに関する現状と課題を明らかにする。(変更になる可能性あり)

到達目標

- (1) 文献のクリティークができる。
- (2) 文献レビューができる
- (3) (1)(2)から自身の研究の課題を

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	クリティーク、文献レビューを文章化できる。
上記以外	60	プレゼンテーション

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業の中で適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業の中で適宜紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護学特論 A						担当教員	横井 和美 / 糸島 陽子
講義コード	1853040	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581CNS501							

授業概要

慢性病患者とその家族の心理的特徴や行動の理解を深める諸理論の内容を学習し、慢性看護の実践と研究への適用を探究する。

到達目標

- (1) 慢性病患者やその家族の行動や心理的特徴の理解を深める代表的な理論の内容について説明できる。
(2) 慢性病患者とその家族の理解を深めるための理論活用の可能性と限界が説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 30%
上記以外	40%	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されているテーマの理論背景や歴史的経緯
2) 提示されているテーマの概要や定義

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特に指定しない			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	クロニクイルネス 人と病いの新たなかわり	アイリーン・モロフ・ラブキン、 パメラ D. ラーセン著	医学書院	
2	慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウス による看護モデル	黒江ゆり子 訳	医学書院	
3	看護実践に活かす中範囲理論	野川道子 編著	メヂカルフレンド社	

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護学特論 A						担当教員	横井 和美 / 糸島 陽子	
講義コード	1853040	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号	581CNS501								

授業計画										
回数	テーマ	概要					予習 / 復習			
第1回	現代における慢性疾患の動向と特徴	学習のオリエンテーション 1) 慢性病の定義と特徴				2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第2回	現代における慢性疾患の動向と特徴	2) 現在の慢性疾患の動向 3) 関係都道府県の慢性病の状況把握				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第3回	慢性病とライフサイクルとの関係	1) 各発達段階の特徴と課題 2) 疾病がライフサイクルや日常生活に及ぼす影響、慢性病による負				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第4回	慢性病とライフサイクルとの関係	3) 各発達段階で疾病を持つことでの影響をディスカッション				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第5回	慢性病患者と家族	1) 家族システムと発達段階による家族役割				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第6回	慢性病患者と家族	2) 慢性病患者をもつ家族心理と病期による家族関係・家族機能。心理の変化				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第7回	慢性病患者と家族	3) 事例で考える家族機能・役割の分析				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第8回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	1) 病みの軌跡という考え方・・・病みの軌跡の概念・病みの軌跡の発展				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第9回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	3) 事例や文献で考える「病みの軌跡」の活用				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第10回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	1) 疾病の受容・・・疾病の認識、喪失体験、ストレス 2) 適応過程・・・価値転換理論				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第11回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	3) スティグマとノーマライゼーション 4) ICFの考え方				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第12回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	5) 事例や文献を用いて考える「障害の受容」				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第13回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	1) 慢性期にある人の自己概念のゆれ・・・自己価値の低下、ボディイメージの変化				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第14回	慢性病患者の疾病プロセスと心理・行動に関する	2) ボディイメージとセクシャリティ(事例や文献を用いてディスカッション)				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第15回	慢性病患者を理解するための理論活用	学生の関わった慢性病患者に対して適切な理論活用を行い、対象者理解の拡充を図る				2	前回の授業中に提示されたテーマに	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
担当者から										

講義名	慢性看護学特論 B						担当教員	横井 和美 / 新井 香奈子 / 角野 文彦 / 未定*
講義コード	1853050	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581CNS502							

授業概要

健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用されてきた医療・福祉の制度や体制を学び、今日、慢性病者を取り巻く様々な場面でのヘルスプロモーションを把握するとともに、今後の課題や新たな医療・福祉制度を追求する。

到達目標

- (1) 健康に対する考え方の変移から慢性病をもつ人に適用されてきた医療・福祉の制度や体制を説明できる。
- (2) 現在の慢性病者を取り巻く様々な場面でのヘルスプロモーションとその課題について説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 30%
上記以外	40%	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されているテーマの理論背景や歴史的経緯
- 2) 提示されているテーマの概要や定義

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	国民衛生の動向	厚生労働統計協会		
2	厚生労働白書	厚生労働省		
3	国民福祉の動向	厚生労働統計協会		

授業テーマに応じて適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護支援論 A						担当教員	横井 和美 / 糸島 陽子
講義コード	1853060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581CNS503							

授業概要

生活者としての慢性病者を支援するための諸理論やモデルに基づく支援技術を概観する。

到達目標

- (1) 慢性病者を支援するための諸理論やモデルを説明し支援技術が理解できる。
(2) 慢性病者の看護現象に対して適切な理論を活用した支援技術が理解できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 30%
上記以外	40%	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されているテーマの理論背景や歴史的経緯
2) 提示されているテーマの概要や定義

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護実践に活かす中範囲理論	野川道子 編著	メヂカルフレンド社	
2	看護アウトカムの測定	Ora Lea Strickland, Colleen Dilorio 編集	エルゼビア・ジャパン	
3	看護実践の倫理 第3版	サラ T・フライ	日本看護協会出版会	

授業テーマに応じて適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護支援論 B						担当教員	横井 和美 / 糸島 陽子 / 土田 勝晴
講義コード	1853070	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581CNS504							

授業概要

慢性病の様々な時期における看護の支援技術について理解を深め、慢性病者のエンドオブライフにおける支援技術について追求する。

到達目標

- (1) 慢性病の様々な時期における適切な支援技術について説明できる。
(2) 慢性病者のエンドオブライフにおける支援技術について説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 30%
上記以外	40%	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されているテーマの概要や定義
2) 提示されているテーマの研究の動向

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	病気とともに生きる 慢性疾患のセルフマネジメント	日本慢性疾患セルフマネジメント協会 編	日本看護協会出版会	
2	ストレスとコーピング ラザルス理論への招待	R. S. ラザルス講演 林峻一郎 訳	星和書店	
3	慢性看護の患者教育	川口てる子 編集	メディカ出版	

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護支援論 C						担当教員	横井 和美 / 伊波 早苗 / 松井 善典 / 山本 弥生
講義コード	1853080	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581CNS505							

授業概要

慢性病者の質の高い生活に向けて、一次予防、二次予防、三次予防における治療環境の整備や、地域支援の現状と課題について検討する。特に治療、医療処置の必要な慢性病者の退院支援における院内連携・地域連携を促進するためのトランジショナルケアについて追求する。

到達目標

- (1) 慢性病者の質の高い生活に向けて、一次予防、二次予防、三次予防における治療環境の整備や、地域支援の現状と課題について説明できる。
(2) 治療、医療処置の必要な慢性病者の退院支援における院内連携・地域連携を促進するためのトランジショナルケアについて説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 30%
上記以外	40%	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されているテーマの概要や定義
2) 提示されているテーマの研究の動向

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業テーマに応じて適宜紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護支援論演習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853100	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号	581CNS506							

授業概要

主な慢性病者のフィジカルアセスメントの知識と技術の習得をはじめ、事例をとおして心理・社会的特徴からの包括的アセスメントを行い、治療と統合的アプローチの視点を学ぶ。

到達目標

- (1) 主な慢性病者のフィジカルアセスメントの知識と技術が習得できる。
(2) 事例をとおして心理・社会的特徴からの包括的アセスメントと統合的アプローチの視点が説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 20%
上記以外	50	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 30% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されている事例の研究の動向
2) 提示されている事例の看護の文献

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

特に指定しない

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業テーマに応じて適宜紹介する。

前提学力等

共通科目の病態生理学、薬物治療学、フィジカルアセスメントを履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	慢性看護支援論演習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏	
講義コード	1853100	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習		
ナンバリング番号	581CNS506								

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	1) 慢性の呼吸機能障害 (慢性呼吸不全) をもつ患者のフィジカルアセスメントと検査					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第2回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	2) 慢性の呼吸機能障害 (慢性呼吸不全) をもつ患者の心理・社会的な包括的アセスメント					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第3回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	3) 慢性の呼吸機能障害 (慢性呼吸不全) をもつ模擬事例を通して考える治療と統合的アプローチの視点					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第4回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	1) 慢性の循環機能障害 (慢性心不全) をもつ患者のフィジカルアセスメントと検査					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第5回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	2) 慢性の循環機能障害 (慢性心不全) をもつ患者の心理・社会的な包括的アセスメント					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第6回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	3) 慢性の循環機能障害 (慢性心不全) をもつ模擬事例を通して考える治療と統合的アプローチの視点					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第7回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	1) 慢性の代謝機能障害 (糖尿病) をもつ患者のフィジカルアセスメントと検査					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第8回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	2) 慢性の代謝機能障害 (糖尿病) をもつ患者の心理・社会的な包括的アセスメント					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第9回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	3) 慢性の代謝機能障害 (糖尿病) をもつ模擬事例を通して考える治療と統合的アプローチの視点					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第10回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	1) 慢性の腎機能障害 (慢性腎不全) をもつ患者のフィジカルアセスメントと検査					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第11回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	2) 慢性の腎機能障害 (慢性腎不全) をもつ患者の心理・社会的な包括的アセスメント					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第12回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	3) 慢性の腎機能障害 (慢性腎不全) をもつ模擬事例を通して考える治療と統合的アプローチの視点					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第13回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	1) 慢性の脳・神経機能障害 (脳梗塞) をもつ患者のフィジカルアセスメントと検査					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第14回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	2) 慢性の脳・神経機能障害 (脳梗塞) をもつ患者の心理・社会的な包括的アセスメント					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
第15回	主な慢性病者のフィジカルアセスメントと包	3) 慢性の脳・神経機能障害 (脳梗塞) をもつ模擬事例を通して考える治療と統合的アプローチの視点					2	授業テーマに関する図書や資料を	2	授業中に提示されたテーマに対する	2
担当者から											

講義名	公衆衛生看護学特論						担当教員	小林 孝子 / 馬場 文
講義コード	1853130	単位数	2	開講期	前期	授業方法	授	
ナンバリング番号	581MNT524							

授業概要

公衆衛生看護の発展の歴史から、概念や活動の理論的根拠を理解し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。さらに地域の人びとの健康ニーズの把握・アセスメント・看護活動の計画・実施・評価の過程が理解でき、住民と協働する公衆衛生看護活動のあり方を主体的に学ぶ。

到達目標

- (1)保健師の専門能力について、自らの考えを述べることができる。
- (2)公衆衛生看護活動に用いられる理論を理解し、実践への適用について説明することができる。
- (3)地域において課題となる現象を明確化し、課題の解決に向けた方法論を論述できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	25	(3)レポート25%
上記以外	75	(1)25% (プレゼンテーション15%、ディスカッション10%) (2)25% (プレゼンテーション15%、ディスカッション10%)

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Community as Partner, 8th ed.(Int'l ed.)-Theory & Practice in Nursing	E.T.Anderson & J.McFarlane	WOLTERS KLUWER	978-1-4963-8713-4
2	コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際(第2版)	編集:エリザベス T. アンダーソン/ジュディス・マクファーレイ	医学書院	978-4260003261
3	ヘルスリテラシー:健康教育の新しいキーワード	編集:福田洋・江口泰正	大修館書店	978-4469267952

特集 今改めて保健師の専門性とは ジェネラリストというスペシャリティィ ジェネラリストというスペシャリティィ, 保健医療科学, 67(4), 2018.

前提学力等

公衆衛生看護学概論のテキストに記載されている内容を理解していること。

履修資格

講義名	公衆衛生看護学演習						担当教員	小林 孝子 / 馬場 文
講義コード	1853140	単位数	2	開講期	後期	授業方法	授	
ナンバリング番号	581MNT525							

授業概要

公衆衛生看護活動の歴史と変遷をふまえた諸理論について検討し、知識を深める。人びとの潜在化した健康課題を顕在化し、個別支援からグループ支援、地域での健康活動へと推進する高度な専門的能力を養成する。また、基礎となる考察力を高めるために文献講読を行う。国内外の活動事例を検証する過程で、その活動の有効性や課題について考察し、研究活動を行う上での資料とする。

到達目標

- (1) 地域の人々の潜在化している健康課題と関連する概念を説明できる。
- (2) 健康課題と解決に向けた方法論を説明できる。
- (3) 健康課題に関連する論文のクリティークができる。
- (4) 文献講読をもとに、課題解決にむけた方法の有効性を説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	20	(4) レポート20%
上記以外	80	(1) プレゼンテーション10%、ディスカッション5% (2) プレゼンテーション10%、ディスカッション5% (3) プレゼンテーション20%、ディスカッション10%

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	実践 ヘルスプロモーション PRECEDE-PROCEED モデルによる企画と評価	ローレンス W. グリーン	医学書院	
2	コミュニティアズパートナー 地域看護学の理 論と実際	エリザベス T. アンダーソン	医学書院	
3				

前提学力等

公衆衛生看護活動について理解していること

履修資格

講義名	人的資源活用論特論						担当教員	本田 可奈子
講義コード	1853180	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT516							

授業概要

医療福祉組織において中心的役割を果たす看護職の人材確保・育成・人的活用についてとくに人的資源管理の視点から概説し、看護組織力を高め、人を活かす（活用する）考え方を探求する。

到達目標

- 1) 人的資源活用（管理）の考え方が説明できる。
- 2) 看護管理における人的資源活用の必要性を説明できる。
- 3) 看護管理における人的資源活用の課題が説明できる。
- 4) 人的資源活用に関する自己の研究課題を説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70%	・ 1)～4)を踏まえたまとめのレポートの評価(40点) ・ 到達目標の2)3)に関連した論文のクリティークを記述したレポートの評価(30点)
上記以外	30%	到達目標3)4)プレゼンテーション(20点)、ディスカッション(10点)への参加状況を評価。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業のなかで紹介します。テキストは各自で選択しましょう。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	入門 人的資源管理 第2版	奥林 康司(編著)、上林 憲雄(編著)他	中央経済社	
2	看護管理学習テキスト【第2版】看護における人的資源活用論第4巻	井部俊子・中西睦子監修	日本看護協会出版会	
3	人的資源管理	原田 順子(著)、平野 光俊(著)	放送大学教育振興会	

前提学力等

履修資格

講義名	人的資源活用論演習						担当教員	本田 可奈子
講義コード	1853190	単位数	2	開講期	後期集中	授業方法	講義	
ナンバリング番号	581MNT517							

授業概要

看護職の人材資源活用（管理）に関する先行研究を批判的検討する力を養い、自己の研究課題を明確にする。

到達目標

- 1) 看護職の人材資源活用（管理）に関する先行研究を批判的に検討できる。
- 2) 人的資源活用（管理）に関連する概念をとりあげ、概念分析を行う。
- 3) 概念分析の演習を通して自己の研究課題を明確にする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	到達目標 1) についてプレゼンテーションとレポートにより評価する。
上記以外	60%	到達目標 2) 3) についてプレゼンテーションとレポートにより評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

人的資源活用論特論を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	在宅看護学特論						担当教員	新井 香奈子
講義コード	1853200	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号	581MNT522							

授業概要

在宅療養者とその家族の健康上の問題に対して提供される看護の現状と課題を探究し、生活の場に応じた看護課題の解決に向けた方策について考察する能力を培うことができるよう教授する。

到達目標

1. 地域包括ケアの現状を理解し、看護職の役割が考察できる。
2. 在宅看護に関連する保健医療福祉の諸制度について説明できる。
3. 在宅看護の基本理念、および、在宅看護におけるアセスメントの理論・モデルの適応について説明できる。
4. 様々な疾患・状態の在宅看護利用者・家族の健康と生活を支える訪問看護制度について説明できる。
5. 在宅ケアマネジメント、および、入退院支援・調整の過程について説明できる。
6. 在宅ケアシステムと多職種連携、看護師の役割について説明し、生活の場で実践される連携のあり方について考察できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30	レポート課題40% 到達目標(6)についてレポート課題を課す。
上記以外	70	到達目標(1)～(6)に対するプレゼンテーション(50%)、ディスカッション(20%)への参加状況を評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業は、ゼミ形式で行います。学生の事前の課題学習をもとに進めていきます。授業には、十分な準備のもとに臨んでいただき、活発なディスカッションを期待します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域包括ケアシステム その考え方と課題	太田貞司 編集	株式会社光生館	9784332701514
2	日本の医療政策と地域医療システム	尾形裕也	日本医療企画	9784864396783
3	「チーム医療」の理念と現実 看護に生かす医療社会学からのアプローチ	細田満和子	日本看護協会出版会	9784818010208

適宜提示します。

前提学力等

受講希望者は、4月8日(金)13時までに担当教員まで連絡をしてください。

履修資格

講義名	在宅看護学演習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853210	単位数	2	開講期	後期	授業方法	授	
ナンバリング番号	581MNT523							

授業概要

在宅療養者およびその家族を支えるための看護実践を探究する能力が培われるよう教授する。
また、在宅看護学に関連する国内外の文献をクリティークする力を養い、自己の研究課題の焦点化と研究デザインを吟味する能力を培うことにつなげる。

到達目標

1. 在宅看護の課題、および在宅療養者とその家族の課題解決に向けた看護実践についての文献クリティークをすることができる。
2. 自己の研究課題の焦点化と研究デザインについて考えることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標(1) 60% 文献レビュー 25% (成果とプレゼンテーション) システムティックレビュー 25% (成果とプレゼンテーション)

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業は、ゼミ形式で行います。学生の事前の課題学習を基に進めていきます。授業には、十分な準備のもとに臨んできた抱き、活発なディスカッションを期待します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜提示します。

前提学力等

在宅看護学特論を履修していること。

履修資格

講義名	慢性看護支援論演習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853220	単位数	2	開講期	前期集中	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

複雑な状況にある慢性病者に対して、包括的アセスメントと活用できる社会資源や制度内容の査定から治療やケア介入の焦点を熟察し、高度実践看護に向けての視点を明らかにする。

到達目標

- (1) 複雑な状況にある慢性病者の包括的アセスメントと活用できる社会資源や制度内容の査定から治療やケア介入の焦点を熟察できる。
(2) 複雑な状況にある慢性病者の介入計画から高度実践看護に向けた自己の課題を見出し、学習計画を立案する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	到達目標(1)の課題 30% 到達目標(2)の課題 20%
上記以外	50	到達目標(1)に対する授業の準備、プレゼンテーション 30% 到達目標(2)に対する授業の準備、プレゼンテーション 20%

授業外学習

- 1) 提示されている事例の研究の動向
2) 提示されている事例の看護の文献

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	高度実践看護 統合的アプローチ	Ann B. Hamric, etc	へるす出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	専門看護師の思考と実践	専門看護師の臨床推論研究会	医学書院	
2				
3				

前提学力等

慢性看護学実習、慢性看護支援論演習 を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	在宅看護学特論 A						担当教員	新井 香奈子
講義コード	1853240	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

わが国の在宅看護の歴史を学び、さまざまな疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する、あるいは在宅で生活する療養者とその家族を対象とした在宅看護の視点と概念について教授する。同時に、制度の活用や関係機関・職種の役割とネットワークの構築、生活の質を重視した退院支援・調整による在宅移行の可能性を検討するケアマネジメントの過程について教授する。

到達目標

- 1) さまざまな疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する、あるいは在宅で生活する療養者とその家族を対象とした在宅看護の視点と概念、関連する保健医療福祉制度について説明できる。
- 2) 在宅ケアにおける基本的な看護展開方法について理解し、対象に応じた看護展開やネットワーク構築の新たな可能性を考察できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	関連文献を活用し、在宅看護における地域包括ケアシステム・在宅ケアシステムの構築およびケアマネジメントのあり方について、事例を用いて論じることができる。
上記以外	60%	到達目標(1)(2)に対するプレゼンテーション 40% 到達目標(1)(2)のディスカッションへの参加状況 20%

授業外学習

授業は、ゼミ形式で行います。学生の事前の課題学習をもとに進めていきます。授業には、十分な準備のもとに臨んでいただき、活発なディスカッションを期待します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜提示します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本の医療 - 制度と政策	島崎謙治	東京大学出版会	9784130511339
2	日本の医療政策と地域医療システム 医療制度の基礎知識と最新動向 (第4版)	尾形裕也	日本医療企画	9784864396783
3	医療制度改革の国際比較 講座 医療経済・政策学第6巻	田中滋	勁草書房	9784326748365
4.	アジアの医療保障制度	井伊雅子	東京大学出版会	978-4130402453

前提学力等

履修資格

講義名	在宅看護学特論 B						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀 / 駒井 和子
講義コード	1853250	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

在宅療養者・家族の健康と生活に活用できる理論やモデルを用いて、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントの実際を理解し、健康・生活課題を明らかにする能力を養う。

到達目標

- (1)在宅療養者・家族の健康と生活に活用できる理論やモデルを用いて、在宅看護におけるフィジカルアセスメント、家族アセスメント、セルフケアアセスメント、生活環境アセスメントの実際が理解できる。
(2)在宅療養者・家族のヘルスケアニーズを包括的にアセスメントする方法と評価について理解できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	以下の2点の内容について、自身の将来的な実践を踏まえたレポートを完成させ提出する。 ・在宅ケアにおける包括的アセスメントの理論や研究の動向および展望と課題 ・在宅療養者の健康と生活を支える在宅看護における在宅看護専門看護師の役割と機能
上記以外	40%	毎回の授業の準備および参加状況。

ループリックについては講義内で提示する。

授業外学習

- 各講義内容に関する文献検討
- プレゼンテーション資料の作成

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	家族看護学 - 理論と実践	鈴木和子、渡辺裕子	日本看護協会出版会	978-4818016972
2	家族看護学 - カルガリー式看護モデル実践へのフォースとステップ	小林奈美	医歯薬出版	978-4263235461
3	生命・生活の両面からとらえる訪問看護アセスメント・プロトコル	山内豊明、岡本茂雄	中央法規	978-4805851999

参考書No.4 ケアマネジメントの本質：生活支援のあり方と実践方法 白澤政和：著 中央法規 ISBN/ISSN 978-4805855447

前提学力等

履修資格

講義名	在宅看護学特論 B						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀 / 駒井 和子	
講義コード	1853250	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義		
ナンバリング番号									

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	在宅療養者と家族を対象とした在宅看護の基礎	各自が在宅療養者と家族支援のための理論やモデルをあげ、以下の理解を深める。					2	在宅療養者と家族支援に活用できる講義で得た学びを整理する。			2
第2回	在宅療養者の身体状況のアセスメント	在宅看護の場面におけるフィジカルアセスメント（駒井）					2	在宅看護で実践するフィジカルアセスメントで得た学びを整理する。			2
第3回	在宅療養者の身体状況のアセスメント	呼吸、循環、消化と代謝、筋骨格系、感覚器のアセスメント（駒井）					2	在宅看護で実践するフィジカルアセスメントで得た学びを整理する。			2
第4回	在宅における包括的アセスメント-日常生活	在宅療養者の日常生活活動や自立度を維持・促進するために必要なアセスメントの視点および、尺度などの活用について学ぶ。					2	在宅療養者の日常生活活動や自立度アセスメントで得た学びを整理する。			2
第5回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-家	家族理論を用いた包括的アセスメントについて学ぶ。					2	在宅療養者の家族支援に活用できる講義で得た学びを整理する。			2
第6回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-生活	生活環境アセスメントの方法と評価（駒井）					2	臨床における生活環境アセスメント講義で得た学びを整理する。			2
第7回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-生活	訪問看護の実際（環境調整、生活リハビリテーション）（駒井）					2	臨床における生活調整、生活リハビリテーション講義で得た学びを整理する。			2
第8回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-生活	「生活環境を支える地域医療」保険制度、住まい、人的資源、経済活動など生活を取り巻く環境を整理					2	フィールドワークの施設を講義内で第8回に準じる。			2
第9回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-生活	「介護を支える地域医療の取り組み」地域の特徴を捉え、介護負担を軽減し、介護が継続できるような支援					2	講義で得た学びを整理する。			2
第10回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-事例	要介護高齢者と家族（高齢者のみ世帯、介護放棄・虐待など）について各自が提示した事例と包括的アセスメントのデブリーフィングを行う					2	事例について理論やモデルを用いて講義で得た学びを整理する。			2
第11回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-事例	要介護高齢者と家族（高齢者のみ世帯、介護放棄・虐待など）について各自が提示した事例と包括的アセスメントのデブリーフィングを行う					2	事例について理論やモデルを用いて講義で得た学びを整理する。			2
第12回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-事例	医療依存度の高い療養者と家族（多職種連携）について、各自が提示した事例と包括的アセスメントのデブリーフィングを行う。					2	事例について理論やモデルを用いて講義で得た学びを整理する。			2
第13回	在宅ケアにおける包括的アセスメント-事例	医療依存度の高い療養者と家族（多職種連携）について、各自が提示した事例と包括的アセスメントのデブリーフィングを行う。					2	事例について理論やモデルを用いて講義で得た学びを整理する。			2
第14回	まとめ	今までの講義を踏まえ、在宅ケアにおける包括的アセスメントの理論や研究の動向および展望と課題を考える。					2	在宅ケアにおける包括的アセスメント講義で得た学びを整理する。			2
第15回	まとめ	今までの講義を踏まえ、在宅療養者の健康と生活を支える在宅看護における在宅看護専門看護師の役割と機能を考える。					2	在宅療養者の健康と生活を支える在宅看護講義で得た学びを整理する。			2
担当者から											

講義名	在宅看護支援論 A						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853260	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

複雑で多様な課題をもつ在宅療養者・家族を支えるため、倫理的判断・臨床的判断を総合して課題解決を見出すための在宅看護過程を展開する。また、複雑で多様な課題をもつ療養者・家族を支えるために基本となる多職種チームでのアプローチについて理解を深める。さらに、感染管理、事故予防を含んだ在宅における安全管理・リスクマネジメント上の特性について理解し、安全管理・リスクマネジメントに関する看護実践を探究する。

到達目標

- 1) 複雑で多様な課題をもつ在宅療養者・家族とケア提供者の在宅看護を支えるための倫理的判断、臨床的判断をするための方法を理解する
- 2) 在宅看護過程を展開するうえで、必要な機関・多職種との協働、チームケアを推進する方策を提案できる。
- 3) 感染管理、事故予防を含んだ在宅における安全管理・リスクマネジメントの特性について説明できる。
- 4) 安全管理、リスクマネジメントをふまえた計画を立案できる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60%	以下の内容について、自身の将来的な実践を踏まえたレポートを完成させ提出する。 ・複雑で多様な課題をもつ療養者やケア提供者について、的確な倫理的・臨床的判断を行い、課題解決方法を提案し、実践する在宅看護者の役割を確認する。
上記以外	40%	毎回の授業の準備および参加状況

ループリックについては講義内で提示する。

授業外学習

- ・各講義内容に関する文献検討
- ・プレゼンテーション資料の作成

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	事例で考える訪問看護の倫理	杉谷藤子、医療人権を考える会	日本看護協会出版会	978-4818018969
2	看護者のための倫理的合意形成の考え方・進め方	吉武久美子	医学書院	978-4260031295
3	看護師の倫理調整力-専門看護師の実践に学ぶ	鶴若麻理、長瀬雅子	日本看護協会出版会	978-4818021075
4.	在宅ケアリスクマネジメントマニュアル	宮崎和加子、小菅紀子：著	日本看護協会出版会	978-4818016705
			専門看護師の思考と実践	伊部

前提学力等

履修資格

講義名	在宅看護支援論 B						担当教員	新井 香奈子 / 坪井 宏仁 / 松井 善典
講義コード	1853270	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

在宅療養者に特徴的な疾患・症状の病態と基本的な診断・治療プロセスについて教授する。医師からの包括的支援・サポートのもと展開する診断、治療、生活の過程を統合した専門的なアセスメント能力とエビデンスに基づいた高度な看護実践方法の理解へとつなげる。

到達目標

- 1) 在宅療養者に特徴的な疾患・症状の病態と基本的な診断・治療プロセスについて説明できる。
- 2) 検査や処置などによる診断や治療と療養生活の状況を統合した包括的アセスメントとについて理解し、ケアとキュアを融合した看護実践について提案できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	到達目標 (2) の課題 30%
上記以外	70%	到達目標 (1) (2) に対するプレゼンテーション 40% 到達目標 (1) (2) のディスカッションへの参加状況 30%

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

- 1) 授業は、ゼミ形式で行います。学生の事前の課題学習をもとに進めていきます。授業には、十分な準備のもとに臨んでいただき、活発なディスカッションを期待します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN / ISSN
1	在宅療養支援のための医療処置管理看護プロトコル	川村佐和子	日本看護協会出版会	9784818015357
2	プライマリ・ケア看護学 基礎編	日本プライマリ・ケア連合学会編	日本プライマリ・ケア連合学会	9784525500313
3	実践につよくなる 看護の臨床推論: ケアを決めるプロセスと根拠	石松伸一	学研メディカル秀潤社	9784780911541

適宜提示します。

前提学力等

履修資格

講義名	在宅看護支援論C						担当教員	新井 香奈子 / 駒井 和子
講義コード	1853280	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

訪問看護ステーション等の在宅ケア事業所の開設や事業所安定・発展に向け、効果的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について理解を深め、新たな運営管理方法・戦略の方策を探求することができるよう教授する。
また、既存の理論や研究の分析を通し、根拠に基づいた在宅看護のケア効果やケアの質管理のための方法の検討、改善策について検討し、在宅看護学領域における専門看護師の役割について考察につなげる。

到達目標

- 1) 在宅ケア事業所の開設、効率的な管理・運営についての具体的方策および経営戦略について説明でき、新たな運営管理方法・戦略の方策を探求できる。
- 2) 既存の理論や研究成果を用いて、在宅看護の効果とその根拠、ケアの質評価とケア効果を高める方策が提案できる。
- 3) 既存の理論や研究成果を用いて、新たなケアの質評価のための方法を検討し、質改善の策を提案できる。
- 4) 在宅ケア事業所の経営管理、ケアの質管理などに関する卓越した看護実践を通し、在宅看護領域における専門看護師の役割と活動のあり方について考察できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	30%	到達目標(4)の課題 30%
上記以外	70%	到達目標(1)～(4)のプレゼンテーション40% 到達目標(1)～(4)のディスカッションへの参加 30%

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

- 1) 授業は、ゼミ形式で行います。学生の事前の課題学習をもとに進めていきます。授業には、十分な準備のもとに臨んでいただき、活発なディスカッションを期待します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法	島内節編集他	医学書院	9784260332170
2	高齢者訪問看護の質指標 ベストプラクティスを目指して	山本則子、石垣和子	日本看護協会出版会	9784818013407
3	Quality Indicator [医療の質]を測り改善する	福井次矢監修、聖路加国際病院QI委員会監修	インターメディカ	9784899963738

4. 訪問看護実務相談Q&A(平成30年度改訂版) 全国訪問看護事業協会編 中央法規

前提学力等

履修資格

講義名	高度実践看護学課題研究(1年次)						担当教員	横井 和美 / 糸島 陽子 / 新井 香奈子
講義コード	1853340	単位数	2	開講期	通年研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

専門領域の看護実践と文献クリティークを通して、自己の研究課題を明確にし、研究のプロセスにそって研究を行い、看護実践に寄与する知見や技術を探求し、論文にまとめる。課題研究を通して、専門看護師として必要な研究能力を習得する。

到達目標

- 1) 臨床実践に基づき、学生の関心領域における研究課題を明らかにできる。
- 2) 文献レビューを十分に行える。
- 3) 一貫性のある研究計画書を作成できる。
- 4) 研究計画書にもとづき、研究を遂行できる。
- 5) 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明できる。
- 6) 課題研究を論文にまとめ、成果を公表できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	研究計画書の作成(20%)、課題研究論文の完成(30%)、課題研究論文の発表(20%)
上記以外	30	毎回の授業の準備および参加状況

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	バーンズ&グローブ 看護研究入門 原著大7版 - 評価・統合・エビデンスの生成	Suzan K. Grove, Nancy Burns、Jennifer R. Gray (著), 黒田	エルゼビアジャパン	978-4860343002
2	Start Up 質的看護研究 第2版	谷津裕子	学研プラス	978-4780911817
3	ナースのための質的研究入門	ホロウェイ、ウィーラー (著), 野口 美和子 ら翻訳)	医学書院	978-4260002264

4. 看護研究のための文献レビュー マトリックス方式, ジュディス ガラード (著), Judith Garrard (原著), 安部 陽子 (翻訳), 医学書院,

前提学力等

履修資格

講義名	高度実践看護学課題研究(2年次)						担当教員	横井 和美 / 糸島 陽子 / 新井 香奈子
講義コード	1853350	単位数	2	開講期	通年研究	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

専門領域の看護実践と文献クリティークを通して、自己の研究課題を明確にし、研究のプロセスにそって研究を行い、看護実践に寄与する知見や技術を探求し、論文にまとめる。課題研究を通して、専門看護師として必要な研究能力を習得する。

到達目標

- 1) 臨床実践に基づき、学生の関心領域における研究課題を明らかにできる。
- 2) 文献レビューを十分に行える。
- 3) 一貫性のある研究計画書を作成できる。
- 4) 研究計画書にもとづき、研究を遂行できる。
- 5) 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明できる。
- 6) 課題研究を論文にまとめ、成果を公表できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	課題研究論文

授業外学習

--

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

--

履修資格

--

講義名	ウィメンズヘルス助産学特論						担当教員	板谷 裕美
講義コード	1854010	単位数	1	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

女性のライフサイクル全般にわたる健康およびその支援に必要な基礎的知識について、概論的に講義をするとともに、女性の健康問題とその支援に関連するディスカッションを行う。

到達目標

1. 女性の健康の概念が説明できる。
2. 女性の健康支援に必要な諸理論を列挙できる。
3. 女性の健康問題をさまざまな側面から把握し、それらが示す意味を具体的に述べることができる。
4. 女性のライフサイクルを通じた健康支援について、主体的に探求し説明できる。
5. 女性の健康における課題と高度専門職者としての役割を考察し結論付けることができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	
レポート課題	30	生涯を通じた女性の健康を守るために必要な健康政策とはなにか、男女共同参画社会政策、新健康フロンティア、女性の日などをキーワードに考えるとともに、生涯を通じた女性の健康を守るために必要な専門職助産師としての役割について考察する。
上記以外	20	講義中のフリーディスカッションへの参加度(20%)

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。
定期試験50点、レポート課題30点、ディスカッションへの参加度20点の合計100点満点とし、60点以上を合格とする

授業外学習

全授業を通して、予習・復習を60時間は行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特に定めない			
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ウィメンズヘルスケア	吉沢豊予子	日本看護協会	978-4-8180-2372-7
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	ウィメンズヘルス助産学演習						担当教員	板谷 裕美
講義コード	1854020	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

助産師としてエビデンスに基づいた自立的活動と研究に向けEBPM (Evidence Based Practice in Midwifery) とは何かについて理解し、ウィメンズヘルス助産学に関連する国内外の助産ケア文献やガイドラインの検索、クリティーク、ディスカッション等を通じて自己の研究課題の絞込みと明確化を目指す。

到達目標

1. 助産にかかわる注目すべき現象、ケア技術について標記し、課題を説明できる。
2. 明確にした課題の文献にたどり着き、クリティークした結果を報告できる。
3. 自己の研究課題について情報を吟味し、研究の設計と方法の選択について説明できる。
4. 自己の研究課題を探究する意義について、女性の健康問題と健康支援の視点から考察し、ウィメンズヘルスケアの向上に寄与する助産師の役割について、述べる事ができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	プレゼンテーション (50%)、ディスカッション参加度 (50%)

授業外学習

事前の文献学習により資料を整理し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	よくわかる看護研究論文のクリティーク 研究手法別のチェックシートで学ぶ	山川みえ	日本看護協会出版社	9784818018495
2				
3				

論文のクリティークに使用する文献は、プレゼンの2日前に担当教員に提出すること。

前提学力等

文献レビューおよびクリティークの方法について理解していること。

履修資格

講義名	周産期包括支援特論						担当教員	古川 洋子
講義コード	1854030	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

医療、母子保健、児童福祉、社会福祉、学校教育など周産期における切れ目ない健康支援かつ理論的根拠を学び、多職種連携から見た健康支援のあり方を探究することを目的に、概論的に講義を進める。講義中に、妊娠から出産、産後育児期にある子育て世代の包括的な健康支援、多職種連携に関するプレゼンテーションとディスカッションも組み入れ、支援の方法を学ぶ。思春期から青年期の性教育やプレコンセプションケアについても言及する。

到達目標

1. 周産期における切れ目ない健康支援のあり方について基本概念が理解できる
2. 周産期包括支援に必要な諸理論を理解できる
3. 周産期包括支援から見た健康支援のあり方を探究できる
4. 多職種連携から見た健康支援のあり方を主体的に探究することができる
5. 周産期包括支援における課題と専門職としての役割が考察できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	基本的な知識を問う(国家試験過去問含む)
レポート課題	40%	自己課題について探求したレポートを評価する
上記以外	20%	自己課題発表とディスカッションについて評価する 発表時間10分 質疑応答には最低2質問を行なうこと

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

楽しみながら、学んでください

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	特になし			
2				
3				

講義中に紹介する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	周産期包括支援演習						担当教員	古川 洋子
講義コード	1854040	単位数	1	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

周産期にある対象やその家族への包括的支援システムのあり方について学びを深め、どのような経緯のもと、どこに向かおうとしておるのかを実態から探究する。母子を取り巻く地域社会の現状を鑑み、問題から課題を見理解し、周産期のみならず思春期も含め、妊孕性を包含し助産師の役割について探究する。周産期に関わる包括的支援に関しての行政や施策への提言を考察し、専門職連携をふまえた多角的視点から考察を深める。

到達目標

1. 地域社会における周産期および子育ての実情から包括連携支援の実際を理解できる。
2. 専門職連携を踏まえ、包括支援の役割について実際から探求することができる。
3. 知識のみではなく、臨床現場において実際に援助できるためのスキルを用いロールプレイ等を用いて習得できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	テーマに沿って探究した自己課題に関するレポート評価 問題提議にそって、現状と課題が述べられているか、課題解決の提言がなされているか、助産師の立ち位置で論述する
上記以外	50%	自己課題のプレゼンテーション30% ディスカッション20%

課題の探求や課題検討をもとに評価をおこなう

授業外学習

関心のある周産期包括支援活動における課題の探求について、各個人のテーマに基づき、フィールドワークの中からすすめる

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に定期義紹介する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	その都度紹介する			
2				
3				

子育て世代包括支援センター業務ガイドライン

前提学力等

履修資格

講義名	助産倫理特論						担当教員	千葉 陽子
講義コード	1854050	単位数	1	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

リプロダクティブヘルス・ライツ領域に特化した事例の倫理的課題の検討を通じて、対象者およびその家族の倫理的意識決定プロセスを支援するための方法を探求する。また助産師としてアドボケートの役割を遂行することの必要性を学ぶ。

到達目標

- (1) 性や生殖、生命に関する倫理的課題が理解できる。
- (2) 助産師として倫理的課題の解決姿勢が持てる。
- (3) 臨床場面で、倫理的判断を行い、解決に向けて、スタッフへの助言や支援を行うことができる能力を培う。
- (4) 諸外国における倫理的課題に目を向け、わが国との共通点や相違点を説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	
上記以外	40	授業でのプレゼンテーション内容、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

常にリプロダクティブヘルス・ライツ分野の倫理的問題について、ニュース・報道などに意識を向けてほしいと思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論	我部山キヨ子他	医学書院	
2				
3				

教科書は最新版を使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	生殖の生命倫理学	森 崇英	永井書店	
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

履修資格

講義名	国際助産学特論						担当教員	千葉 陽子 / 板谷 裕美
講義コード	1854060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

助産師としてグローバルな視点で活動できる能力を培うために、リプロダクティブヘルス・ライツに関する事象の諸外国の現状や、日本国内での国際化の状況を取りあげ、その歴史的・社会的背景や助産師の役割について考察する。特に妊娠・出産・子育てについては、医療体制やマタニティケアシステム、助産師制度、家族の在り方やジェンダーなど多角的な視点で各国の事象をとらえ、わが国との共通点や相違点を探究する。

到達目標

- (1) 母子保健の向上やリプロダクティブヘルス・ライツの保障に向けた国際社会の取り組みの歴史の変遷を説明できる。
- (2) 諸外国のマタニティケアシステム、助産師教育、助産師の業務範囲などについて探求し、わが国との共通点や相違点を説明できる。
- (3) 日本国内における国際化の状況を把握し、特に在日外国人支援の現状と課題を説明できる。
- (4) 助産師が国際的視点をもって活動し続けることの必要性和意義を説明できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	
上記以外	50	授業でのプレゼンテーション内容、ディスカッションへの参加度などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

諸外国のリプロダクティブヘルス・ライツに関するニュースなどに意識的に触れてほしいと思います。わが国における国際化についても注目していきましょう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健	我部山キヨ子他	医学書院	
2				
3				

教科書は最新版を使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座1 基礎助産学[1] 助産学概論	我部山キヨ子他	医学書院	
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

英語の資料や文献に多く触れるため、積極的に分からない単語を調べて英文を理解しようとする姿勢を求めます。

履修資格

講義名	国際助産学特論						担当教員	千葉 陽子 / 板谷 裕美	
講義コード	1854060	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講		
ナンバリング番号									

授業計画											
回数	テーマ	概要					予習 / 復習				
第1回	助産師と国際社会	助産師の国際的組織であるICMについて、そのミッションと役割について説明し、助産師が国際的に団結することの意義を考察する。					2	ICMとはどのような組織かをホーム	2	各国助産師がICMとともに活動する	2
第2回	母子保健の向上、リプロダクティブヘルス・	世界の人口の変化や人口政策の変遷、女性の健康・権利やジェンダーに関する政策の変遷などをふまえ、女性のリプロダクティブヘルス・					2	世界の人口の変化をまとめる。	2	人口問題と女性のリプロダクティブ	2
第3回	母子保健の向上、リプロダクティブヘルス・	ミレニアム開発目標 (MDGs) および持続可能な開発目標 (SDGs) において、女性や子どもの権利・健康がどのようにとらえられているか、					2	ミレニアム開発目標 (MDGs) および	2	MDGsとSDGsを比較してどのような点	2
第4回	妊産婦死亡の現状と課題	世界の妊産婦死亡率の変遷と現状を説明し、なぜ妊産婦死亡が起こるのか、先進国と開発途上国で大きな差があるのかを考察する。					2	妊産婦死亡 (率) の定義、わが国の	2	妊産婦死亡が起こり得る社会的背景	2
第5回	乳児死亡の現状と課題	様々な地域や文化の中で生まれてくる子どもの健康と権利について概観し、乳児死亡率とその背景を多角的に考察する。					2	乳児死亡 (率) の定義、わが国の乳	2	乳児死亡が起こり得る社会的背景に	2
第6回	妊産婦死亡および乳児死亡の低減に向けた国	国際協力の仕組みと、女性や子どもの健康・人権擁護に関する諸機関およびその役割について教授する。					2	UNFPA、UNICEF、UN Womenについて	2	特に開発途上国への支援において、	2
第7回	世界のジェンダーギャップ	世界各国におけるジェンダーギャップを示す様々な指標について説明し、女性の社会進出や健康に与える影響を考察する。					2	諸外国におけるジェンダーギャップ	2	ジェンダー関連指標における日本の	2
第8回	発展途上国における助産師活動1	発展途上国の1例を挙げ、マタニティケアシステム、助産師教育、助産師の業務範囲等について説明し、考察を深める。					2	提示される国の概要について調べ	2	当該国の助産師活動やマタニティケ	2
第9回	発展途上国における助産師活動2	発展途上国の1例を挙げ、マタニティケアシステム、助産師教育、助産師の業務範囲等について説明し、考察を深める。					2	提示される国の概要について調べ	2	当該国の助産師活動やマタニティケ	2
第10回	先進国における助産師活動1	先進国の1例を挙げ、マタニティケアシステム、助産師教育、助産師の業務範囲等について説明し、考察を深める。					2	提示される国の概要について調べ	2	当該国の助産師活動やマタニティケ	2
第11回	先進国における助産師活動2	先進国の1例を挙げ、マタニティケアシステム、助産師教育、助産師の業務範囲等について説明し、考察を深める。					2	提示される国の概要について調べ	2	当該国の助産師活動やマタニティケ	2
第12回	わが国の国際化と助産師活動1	在日外国人の現状、在日外国人母子が利用できる母子保健制度について教授する。					2	在日外国人の統計 (出身国、数、性	2	在日外国人に対する母子保健制度の	2
第13回	わが国の国際化と助産師活動2	在日外国人への支援の具体的な事例を提示し、支援のあり方や課題について考察を深める。					2	事例について事前に熟読してくる。	2	在日外国人母子への支援の実際にお	2
第14回	国際社会における助産師の役割1	全授業を振り返り、世界の中の日本のリプロダクティブヘルスおよび助産師活動の現状を明確にし、課題および改善に向けた対策を検討す					2	プレゼンテーションの準備。	2	ディスカッション内容を踏まえて、	2
第15回	国際社会における助産師の役割2	全授業を振り返り、世界の中の日本のリプロダクティブヘルスおよび助産師活動の現状を明確にし、課題および改善に向けた対策を検討す					2	プレゼンテーションの準備。	2	ディスカッション内容を踏まえて、	2

担当者から

リプロダクティブヘルス・ライツに関する諸外国の事象を理解することを通して、世界の中の日本の現状をしっかりと考察できるようになってください。Think globally, act locally!

講義名	健康教育演習						担当教員	千葉 陽子 / 渡邊 友美子 / 齊藤 智孝
講義コード	1854070	単位数	1	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

助産学特論 での学習内容をもとに、マタニティステージにおける健康教育（特に性教育・出産準備教育）を見学し、実際の健康教育を企画・運営・評価するという一連を体験することを通して、健康教育における理論と実践、有効性、課題を追求する。

到達目標

- (1) マタニティステージにおける健康教育の対象が理解できる。
- (2) エビデンスに基づき健康教育の企画・運営・実践・評価ができる。
- (3) 対象の自己決定を促すような指導が展開できる。
- (4) 助産師が行う健康教育の特徴、および社会からの期待について説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	60	健康教育計画（出産準備教育の指導案）
上記以外	40	参加した健康教育のまとめ、健康教育計画（指導案）に基づく実践内容などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

助産師が医療機関や地域で行っている健康教育にはどのようなものがあるか、積極的に探究して行ってください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

助産学特論（健康教育論）の教科書を活用してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

助産学特論（健康教育論）の学習内容を十分に復習してから本講に臨みましょう。

履修資格

講義名	助産学概論						担当教員	千葉 陽子
講義コード	1854080	単位数	1	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

助産の概念を理解し、助産学の理論的基盤について教授する。また、助産師が高度実践専門職として果たすべき社会的役割について考察するとともに、助産学領域の課題についても探究する。

到達目標

- (1) 助産師の役割を説明できる。
- (2) 助産師業務と法的責任を説明できる。
- (3) 助産の歴史と助産師教育の変遷を踏まえて、助産学および助産師の将来的展望について説明できる。
- (4) 少子高齢化が進むわが国において助産師が直面している課題を明確にできる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	
レポート課題		
上記以外	50	プレゼンテーション(反転学習)、ディスカッションへの参加状況などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

教科書を事前に読んでくることを前提として、授業概要の内容を学生自身が説明しディスカッションを展開する反転学習を取り入れていきます。予習をしっかりと行いましょう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座1 基礎助産学〔1〕 助産学概論	我部山キヨ子ほか編	医学書院	
2				
3				

教科書は最新版を使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

母性看護学概論で学んだ内容のうち、母子保健政策やわが国の少子化の現状(統計データに基づく)について十分復習して授業に臨むようにしてください。

履修資格

講義名	助産学特論						担当教員	古川 洋子
講義コード	1854090	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

リプロダクションに関する解剖・病態・生理およびセクシュアリティとジェンダー、ライフサイクル各期の健康支援に関する基礎的知識について、社会的・疫学的・文化的側面を基盤に修得する。
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から、女性の健康支援のあり方と助産師の役割について学ぶ。

到達目標

1. リプロダクションに関する解剖・病態・生理が理解できる
2. セクシュアリティとジェンダーの概念が理解できる
3. ライフサイクル各期の健康問題と支援が理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	各プレゼンテーションに関連するレポート(20%) 最終レポート(30%)
上記以外	50	各プレゼンテーションの内容(30%) 各ディスカッション参加状況(20%)

1/3以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座2 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学	我部山キヨ子ほか編	医学書院	
2	基礎助産学3 母子の健康科学	我部山キヨ子ほか編	医学書院	
3	助産学講座5 助産診断・技術学	堀内成子ほか編	医学書院	

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産師基礎教育テキスト第2巻 女性の健康とケア	吉沢豊予子	日本看護協会出版会	
2	産婦人科診療ガイドライン	婦人科外来編		
3	乳癌診療ガイドライン			

講義中に随時紹介する

前提学力等

女性の生涯を通じた基礎的な健康支援に関する学習が主であり、助産師としてどう支援をしていくのかの視点に立ち、グループや自己学習を進めていただきたい。

履修資格

講義名	助産学特論						担当教員	越山 雅文
講義コード	1854100	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

主に妊娠分娩の異常に関してスライドで解説（ハンドアウトを配布）

到達目標

- (1) 周産期女性の健康に関する薬理・薬剤学、栄養学、母子免疫・母子感染、遺伝等に関する基礎知識について理解できる。(50%)
(2) ハイリスク状態の妊産褥婦に関する診断・治療のための医学的知識を身につけることができる。(50%)

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	終了試験にて60%以上の成績が必要。
レポート課題		
上記以外		

授業出席数 + 終了テスト (60点以上)

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産診断・技術学 (妊娠期)		医学書院	
2	助産診断・技術学 (分娩期・産褥期)		医学書院	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	母性看護学各論		医学書院	
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	助産学特論						担当教員	千葉 陽子 / 渡邊 友美子
講義コード	1854110	単位数	1	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

助産師が健康教育に活用できる理論について学習した上で、個人あるいは集団に対する健康教育を展開するための方法論について探究する。また、個別指導の演習を通して、対象にとっての効果的な健康教育のあり方について考察する。

到達目標

- (1) 個人あるいは集団を対象とした健康教育の特徴と活用される理論が説明できる。
- (2) 健康教育のプロセスおよびその過程で活用される教育技法、評価法を説明できる。
- (3) 女性のライフサイクルにおける健康課題に関する相談・教育・援助の計画を企画書にまとめることができる。
- (4) 個別での健康教育の実践を通して、課題を明確にできる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	個別健康教育の企画書（実践後の課題抽出を含む）
上記以外	50	個別健康教育の実践（30%）、ディスカッションへの参加状況（20%）

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

個別での健康教育の演習に向けて、企画書に基づく練習も必要となります。積極的に取り組んでいきましょう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座5 助産診断・技術学	堀内成子ほか編	医学書院	
2				
3				

教科書は最新版を使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	参加型マタニティクラスBOOK	戸田律子	医学書院	
2	新人看護師、助産師学生、看護師学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 妊娠期	鈴木由美	丸善プラネット	
3	新人看護師、助産師学生、看護師学生のためのマタニティサイクルの実践保健指導 産褥期	鈴木由美	丸善プラネット	

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

履修資格

講義名	助産診断技術学特論						担当教員	千葉 陽子
講義コード	1854120	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

妊娠の成立から妊娠期の母体の変化、胎児の成長発達に関する健康管理の方法について理解し、フィジカルアセスメント技術を習得し、エビデンスに基づいた助産ケアを探究する。妊娠・胎児期の助産診断と助産ケアについてその原理と技法を学び、妊婦及び胎児の健康維持増進、健康問題解決のための対応能力を養う。

到達目標

- (1) 妊娠期の助産診断と技術の特徴が説明できる
- (2) 妊娠期の助産診断過程を展開するために必要な知識が習得できる
- (3) ハイリスク妊婦の特徴と妊婦ケアの理念を説明できる
- (4) 妊娠期の助産ケア実践のための基本技術としての知識が習得できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	
レポート課題		
上記以外	30	授業毎のレスポンス、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

教科書を事前に読んでくることを前提として、授業概要の内容を学生自身が説明しディスカッションを展開する反転学習を取り入れていきます。予習をしっかりと行いましょう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座5 助産診断・技術学	堀内成子他	医学書院	
2	助産学講座6 助産診断・技術学 [1]妊娠期	我部山キヨ子他	医学書院	
3	最新産科学 正常編・異常編(改訂22版)	荒木勤	文光堂	

教科書は最新版を使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中に適宜紹介します。

前提学力等

母性看護学概論、母性看護学で習得した知識を含む看護全般の知識・技術を備えていることを前提とします。しっかりと復習しておいてください。

履修資格

講義名	助産診断技術学特論						担当教員	古川 洋子
講義コード	1854130	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

分娩経過に基づいた産婦の心身の変化および胎児に関するフィジカルアセスメント及び助産技法を習得する。産婦の正常性の判断から正常逸脱のリスク診断、異常時のアセスメント能力とその対応能力を養う。

到達目標

1. 分娩期の助産診断過程に関わる基本的な思考を有している
2. 分娩期の正常経過とその逸脱現状について探究することができる
3. 分娩期の胎児および付属物の助産診断過程に関わる基本的な思考を有している

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	定期試験をもとに評価する
レポート課題		
上記以外		授業毎のレスポンスを加味します

成績評価方法:筆記試験、出席状況、課題提出状況、授業内容(態度や取り組み)などを総合して評価する。1/3以上欠席した場合は評価対象外とする

授業外学習

講義毎にレスポンスペーパーにて質問を受ける。授業前に、前回の復習を行いながら進める。よって、短期集中型の講義形態のため、気になること、質問はタイムリーに伝えてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座6,7	我部山キヨ子他	医学書院	
2	今日の助産学(改定第3版)	北川真里子他	南光堂	
3	最新産科学 正常編(改訂22)	荒木勤	文光堂	

荒木勤「最新産科学 異常編」文光堂

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	助産診断技術学特論						担当教員	板谷 裕美 / 渡邊 友美子
講義コード	1854140	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

1. 産褥・新生児期・乳幼児期における助産診断過程に必要な知識・技術を修得する。
2. 分娩経過に基づいた産婦の心身の変化および新生児の成長・発達と、新たな家族関係形成に必要な診断とケアについて講義し、各期のフィジカルアセスメントおよび助産ケアの技法を習得する。
3. ハイリスク状態にある、またはハイリスク状態が予測される産婦・新生児のアセスメントとケアに必要な知識を習得する。

到達目標

1. 産褥および新生児・乳幼児の助産診断・診断技術に必要な基本的知識を述べることができる。
2. 産褥・育児期にある親子の関係性を形成するための支援に必要な理論について述べるができる。
3. 産褥期にある産婦の母乳育児への支援ができる。
4. 心理社会的ハイリスク産婦と家族へのケアについて述べるができる
5. 地域における子どもとその家族のケアについて述べるができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	産褥期50点、新生児期30点、乳幼児期20点の100点満点とし60点以上を合格とする。
レポート課題		
上記以外		

ただし、講義を3分の1以上欠席した場合は、評価対象外とする。

授業外学習

関連文献や視聴覚教材等を利用して、事前に既習知識の整理をする

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座	我部山キヨ子他編	医学書院	
2	新生児学入門	仁志田博司	医学書院	
3	新生児ベーシックケア 家族中心のケア理念をもとに	横尾京子	医学書院	

新・受胎調節指導用テキスト：日本家族計画協会

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	今日の助産	北川真理子	南江堂	
2	乳腺炎ケアガイドライン 2020	日本助産師会 授乳支援委員会	日本助産師会出版	978-4-905023-30-2
3	赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援	日本助産師会 母乳育児支援業務基準検討特別委員会	日本助産師会出版	978-4-905023-22-7

講義中に紹介する

前提学力等

母性看護学で習得した産褥期・新生児期・乳幼児期の知識について

履修資格

講義名	実践助産学演習						担当教員	古川 洋子 / 渡邊 友美子 / 板谷 裕美
講義コード	1854150	単位数	3	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

妊娠期から産褥育児期の助産過程演習を通して、各期の助産実践活動に必要な知識と助産診断実践技術について習得することを目的に、妊娠期の助産過程の展開、妊婦健康診査演習、分娩期の助産過程の展開、分娩介助演習、産褥期の助産過程の展開、産褥母子支援技術演習、新生児期の助産過程の展開、新生児支援技術演習の演習を進め、助産実践技術に必要な知識を習得する。

到達目標

妊娠期の助産診断と基礎助産技術を習得することができる
 分娩期の助産診断と基礎助産技術を習得することができる
 産褥期の助産診断と基礎助産技術を習得することができる
 新生児期の助産診断と基礎助産技術を習得することができる

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	事例展開における、助産診断過程と助産ケア計画立案記録について、下記の配点をもって評価する。 妊娠期 (10)、分娩期 (10)、産褥期 (10)、新生児期 (10)
上記以外	60	妊娠期 (100)、分娩期 (100)、産褥・新生児期 (100) の助産診断ケア技術に関する実技試験においてすべて6割以上の成績をおさめること。

各評価項目の評価が、全て60点以上あることが単位認定の条件となる

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座6,7	我部山キヨ子他	医学書院	
2	今日の助産学 (改定第3版)	北川真里子他	南光堂	
3	最新産科学 正常編 (改訂22)	荒木勤	文光堂	

荒木勤「最新産科学 異常編」文光堂

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義中に適宜紹介する

前提学力等

母性看護学概論、母性看護学で習得した知識および助産診断技術学特論 を含めた既習知識

履修資格

講義名	実践助産学演習						担当教員	越山 雅文
講義コード	1854160	単位数	1	開講期	前期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

助産師技術に関する講義（スライド/ハンドアウト使用）と演習

到達目標

胎児・新生児ケアと産科処置が実践的に行えるかどうか

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	演習参加と実践演習テスト復習(100%)

授業外学習

浮田医院にて実際の胎児を超音波診断する

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	母性看護学各論		医学書院	
2				
3				

ハンドアウト

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	実践力UP! NCPN(新生児蘇生法)37のポイント	水本洋著	南山堂	4525281413
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	助産マネジメント特論						担当教員	千葉 陽子
講義コード	1854170	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業概要

助産管理や助産所運営の基本、周産期における医療安全の知識と法的責任を理解し、事故や問題の解決方法を学ぶ。さらに地域母子保健活動における他職種連携・協働と政策化推進のための方略を学ぶ。

到達目標

- (1) 助産業務の特性を理解し、助産管理の重要性を理解できる。
- (2) 助産師の法的責任と義務の理解について、関係法規やガイドラインと照らし合わせて説明できる。
- (3) 助産師の多様な働き方、医療連携について説明できる。
- (4) 病産院における助産業務管理の実際を説明できる。
- (5) 助産所の管理・運営に必要なことを説明できる。
- (6) 産科医療事故や災害時の安全管理について説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	
レポート課題		
上記以外	40	プレゼンテーション(反転学習)、開業計画案発表、ディスカッションへの参加状況などを総合的に評価する。

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

教科書を事前に読んでくることを前提として、授業概要の内容を学生自身が説明しディスカッションを展開する反転学習を取り入れていきます。予習をしっかりと行いましょう。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産学講座10 助産管理	我部山キヨ子他	医学書院	
2	助産所開業マニュアル	日本助産師会編	日本助産師会	
3				

教科書は最新版を使用します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	看護六法	看護行政研修会監修	新日本法規	
2	助産師業務要覧(基礎編)	福井トシ子編	日本看護協会出版会	
3	助産師業務要覧(実践編)	福井トシ子編	日本看護協会出版会	

助産師業務要覧(アドバンス編), 福井トシ子編, 日本看護協会出版会

前提学力等

履修資格

講義名	助産マネジメント特論						担当教員	千葉 陽子
講義コード	1854170	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講	
ナンバリング番号								

授業計画

回数	テーマ	概要		予習 / 復習
第1回	助産管理の基本と助産業務管理の過程	ガイダンスの後、助産管理の必要性、組織の目標管理およびその実践プロセス、業務計画の策定と評価について教授する。	2	教科書第1章Aを読む。 助産管理の必要性を、他の看護領域
第2回	助産業務管理の方法	組織管理、書類管理、財務管理、業務の質管理、他部門や地域との連携について教授する。	2	教科書第1章Bを読む。 助産業務管理の具体的方法を簡潔に
第3回	助産業務管理と医療経済	助産業務に関連した医療保険制度、診療報酬、および分娩費用・健康診査に関わる費用について教授する。	2	教科書第1章Cを読む。 助産業務に関する医療経済的視点に
第4回	関係法規と助産師の義務・責任	助産師の法的責任と義務、および助産業務に関連した諸法規について教授する。	2	教科書第2章を読む。 各法規が助産業務とどのように関連
第5回	助産師と職能団体	全国の就労助産師数、年齢・就労場所別割合などの統計データを概観した後、助産師に関わる職能団体およびその歴史について教授し、助	2	全国の就労助産師数、年齢・就労場 助産師が専門職として団結すること
第6回	周産期医療体制と連携	周産期医療体制の概要、周産期におけるチーム医療と職種間・地域連携の特徴と実際について教授する。	2	教科書第3章を読む。滋賀県の周産 周産期における職種間・地域連携の
第7回	安全対策と医療事故防止	周産期の安全対策、医療事故防止の特徴について、具体的事例を挙げながら教授する。	2	教科書第4章Aを読む。 周産期の安全対策の特徴をまとめ
第8回	周産期の災害対策	災害への備えと訓練、災害が妊産婦・母子・女性へ与えるインパクトについて、具体的事例を挙げながら教授する。	2	教科書第4章Bを読む。 ジェンダーが被災者に与える影響に
第9回	周産期棟・混合病棟の管理	医療機関における混合病棟化の実際を踏まえて、看護体制や労務管理、環境やアメニティの充実等について検討する。	2	教科書第5章Aを読む。産科医療機関 産科医療機関における混合病棟化の
第10回	院内助産・助産師外来の管理	院内助産システムの定義、院内助産や助産師外来での業務管理の特徴について、具体的事例を挙げながら教授する。	2	教科書第5章B・Cを読む。 院内助産、助産師外来の解説及び継
第11回	助産所における助産業務管理	滋賀県内の助産所数、所在地を確認する。また、助産所の管理に関する法規、助産所の管理・運営について教授する。	2	教科書第6章A・Bを読む。全国の助 助産所における業務管理の課題と対
第12回	助産師とキャリア開発	助産師としての具体的なキャリア開発の選択肢について示し、継続教育の必要性について探究する。	2	助産師にとってのキャリア開発の選 自己の現時点でのキャリアプランに
第13回	開業計画1	将来開業することを想定して具体的な検討・実施項目を挙げ、モデル助産所案を発表する。発表に対する意見交換を行い、適宜計画の修正	2	開業計画案をまとめる。 意見交換の結果を踏まえ、開業計画
第14回	開業計画2	将来開業することを想定して具体的な検討・実施項目を挙げ、モデル助産所案を発表する。発表に対する意見交換を行い、適宜計画の修正	2	開業計画案をまとめる。 意見交換の結果を踏まえ、開業計画
第15回	まとめ：助産マネジメントにおける課題と展	助産師が直面している現状と課題を、助産業務分野のマネジメントと関連付けて明確にし、対策についてディスカッションを行う。	2	全講義の内容を復習する。 助産師学生のうちから意識し取り組

担当者から

助産師が自律的な専門職として発展していくために、マネジメントの視点をもって助産業務の実践にあたることは重要です。この授業の内容が助産管理実習につながっていきますので、助産管理の特徴や現状・課題をしっかりとまとめられるようになりましょう。

講義名	地域母子保健特論						担当教員	古川 洋子
講義コード	1854180	単位数	2	開講期	後期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

地域で母子保健活動を推進する上で必要な、母子保健行政の仕組みや制度・施策・事業内容について習得するとともに、地域における助産活動の重点課題について検討する。地域母子保健における助産師が果たす役割と具体的な地域母子保健活動の展開方法について学び、助産業務コーディネーターについて理解を深める。

到達目標

母子保健活動に関連する法規と母子保健活動の現状を理解している
日本の母子保健の課題を抽出し、その対策について提案できる
母子保健に関心を持ち、助産師としての活動への意欲がみられる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	試験をもとに評価する(50%) 地域母子保健に関する講義内容から出題する
レポート課題	20	レポートをもとに評価する(20%) 母子保健に関するテーマを選び、事業展開していく中での現状から課題を提示し、その解決策について検討する
上記以外	30	プレゼンテーション(20%) 討論(10%) 授業毎のレスポンスペーパーを加味する

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

学外へのフィールドワークがあります。
集合時間、集合場所、準備物については、事前に確認をしてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	地域母子保健・国際母子保健	我部山キヨ子	医学書院	
2	母子保健の主なる統計	母子保健研究会	母子保健事業団	
3				

助産業務ガイドライン2019 日本助産師会

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	母と子の新型コロナ	渡邊 香・林謙治	世界書店	
2	ノンバイナリーがわかる本	エリス・ヤング	明石書店	
3	私がヤングケアラーだったころ	林 真司	みずのわ書店	

講義中に適宜紹介する

前提学力等

履修資格

講義名	助産学特別研究(2年次)						担当教員	越山 雅文 / 古川 洋子 / 板谷 裕美
講義コード	1854250	単位数	8	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

研究データ収集、データ整理、論文執筆、修士論文発表

実践臨床研究
 実践臨床研究
 実践臨床研究
 実践臨床研究 ~ 実践臨床研究

到達目標

修士論文完成

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	修士論文の完成度評価

授業外学習

教科書

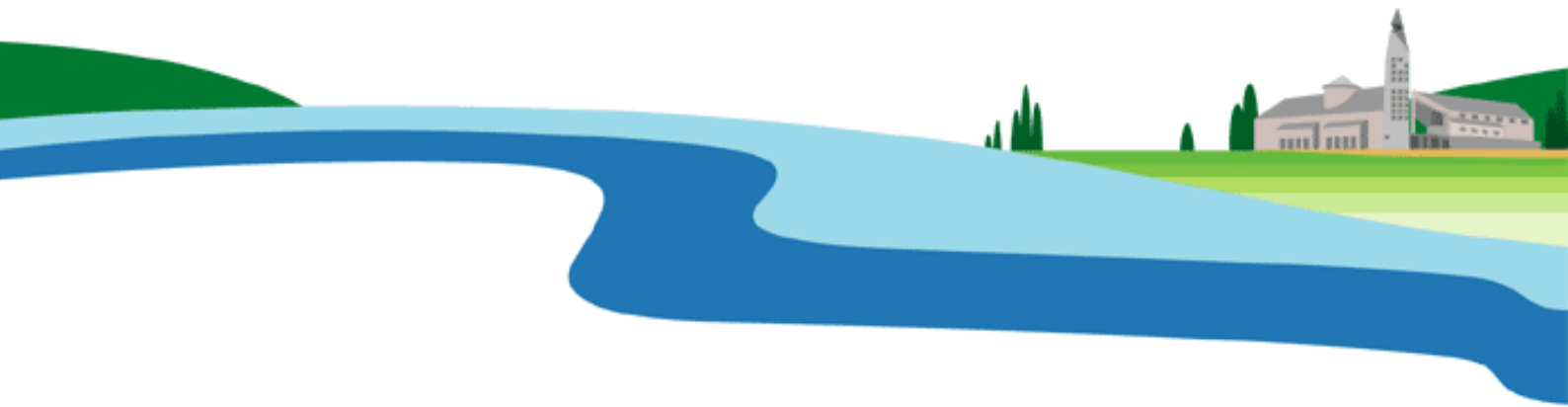
No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格



滋賀県立大学 2022年度

講義概要(シラバス)

※この冊子は、Web版シラバスをPDFに変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo (<https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/>) で、ご確認ください。

目 次

1853020	慢性看護学実習	横井和美	後期実習	・・・	1
1853035	慢性看護学実習	横井和美	前期実習	・・・	3
1853230	慢性看護学実習	横井和美	通年実習	・・・	5
1853290	在宅看護学実習	新井香奈子	後期実習	・・・	7
1853300	在宅看護学実習	新井香奈子	前期実習	・・・	9
1853310	在宅看護学実習	新井香奈子	後期実習	・・・	11
1853320	在宅看護学実習	新井香奈子	前期実習	・・・	13
1853330	在宅看護学実習	新井香奈子	通年実習	・・・	15
1854190	助産学実習	板谷裕美	前期実習	・・・	17
1854200	助産学実習	古川洋子	後期実習	・・・	19
1854210	助産学実習	板谷裕美	前期実習	・・・	21
1854220	助産学実習	板谷裕美	前期実習	・・・	23
1854230	助産学実習	千葉陽子	前期実習	・・・	25
1854240	助産学特別研究(1年次)	越山雅文	通年	・・・	27
1855001	学校保健学	古株ひろみ	前期	・・・	29

講義名	慢性看護学実習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853020	単位数	2	開講期	後期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号	581CNS508							

授業概要

慢性病をもつ人々との関わりを通し、その人の体験世界を理解し、慢性病者が求める看護ケアを提供するために、高度で専門的な看護実践について学習する。また、専門看護師に求められる、教育、相談、調整、倫理調整についての実際を学習し、高度実践看護に必要な能力を見出す。

到達目標

- 1) 慢性病をもつ人々とその家族（重要他者）が、長期にわたる療養生活においてどのような体験をし、どのような思いを抱いて療養生活をしているのか対象者理解を深める卓越した看護実践の実際を理解する。
- 2) 慢性病をもつ人々の包括的なアセスメントおよび症状マネジメントに関わる専門的な知識および援助技術の実際を理解する。
- 3) 慢性病をもつ人々とその家族（重要他者）の療養支援のための介入に活用されている知識・技術と評価の実際を理解する。
- 4) 慢性看護実践領域におけるさまざまな倫理的問題に対処していけるよう倫理的問題に対する事象の専門的な分析方法を理解する。
- 5) 慢性看護領域における専門看護師の具体的な看護実践内容（主にコーディネーションやコンサルテーション、倫理調整等）を学び、高度実践看護に必要な能力を見出す。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	・実習課題および実習計画の実践状況 ・学生の自己評価および指導者の最終評価に基づき教員が総合評価を行う。

授業外学習

1. 実習施設の概要および所在地の医療福祉制度
2. 高度実践看護師の役割について

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	慢性看護学実習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853020	単位数	2	開講期	後期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号	581CNS508							

授業計画

【実習期間】

M1の後期集中(2～3月)2週間

【実習場所】

慢性疾患看護専門看護師の所属する施設

実習は、学生の専門領域の慢性病者の看護実践を行っている慢性疾患看護専門看護師が所属している病棟・外来・地域などで行う。実習施設は、学生に応じて随時、拡大していく。

【実習方法】

慢性疾患看護専門看護師の活動から専門看護師の役割や高度実践看護を学ぶ。

- 1) 学生の専門領域における高度実践看護について、専門看護師に求められている役割別に、学習する実習計画を立案する。
- 2) 慢性疾患看護専門看護師が行う慢性病者に対する看護実践に共に参加し、実践における包括的なアセスメントや評価について実習指導者とディスカッションを行い、高度実践に向けての思考を養う。
- 3) 立案した実習計画に沿って、専門看護師の高度実践看護や役割や機能について学習を深める。
- 4) 指定の実習記録様式を用いて当該実習で深めた内容の報告書を作成する。

詳細は慢性看護学実習 実習要項 参照

担当者から

詳細な実習期間・回数については、実習計画に基づき各実習施設との調整を行い、決定する。

講義名	慢性看護学実習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853035	単位数	4	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

医療施設から在宅、在宅から医療施設など移行期にある慢性病者に対して、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について学習を深め、既習の知識・技術を統合した包括的アセスメントを行い、高度な看護を提供する。

到達目標

- 1) 対象となる慢性病者の状態について臨床講義を受けながら基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について理解を深める。
- 2) 対象となる慢性病者の生活場所での基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について関係医療者と情報を共有しながら、継続療養のためのアセスメントを行う。
- 3) 対象となる慢性病者に対して、既習の知識・技術を統合して生活の質重視の観点から包括的アセスメントを行い、専門的な高度実践にむけて介入の焦点化を図り、実施する。
- 4) 対象となる慢性病者に提供されたケアを、医療施設から在宅、在宅から医療施設などトランジショナルケアとしての視点から評価を行い、より高度な看護実践への再考察を行う。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題および実習計画の実践状況 ・実践報告書 ・学生の自己評価および指導者の最終評価に基づき教員が総合評価を行う。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

慢性看護学実習、慢性看護支援論演習を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	慢性看護学実習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853035	単位数	4	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

【実習期間】

M2の前期集中(6~7月)4週間

【実習場所】

本学の授業科目(疾病論等)を担当し臨床講義を担当できる医師が所属する施設、および訪問看護施設等の在宅支援機能を有する包括的医療施設、または慢性疾患看護専門看護師の所属する施設

【実習方法】

- 1) 学生の専門領域で臨床講義等の実習指導を行う医師が担当する複雑な状況にある慢性病者を2-3事例受け持つ
- 2) 対象者の生活の質を重視した基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理のために必要な医療的介入について、医師とディスカッションし包括的アセスメントする
- 3) 学生の専門領域における慢性病者に対して、在宅(外来)治療から入院治療、在宅治療など一連の治療管理を伴う実習計画を立案する
- 4) 対象者の行路と療養生活のコントロールが行えるよう医療者のかかわりを含めた治療環境を整えるための専門的な看護実践を行う
- 5) 提供した一連の看護実践に対して、実践の根拠も示した報告書を作成し、対象者を取り巻く医療関係者に報告し評価を得る

詳細は慢性看護学実習 実習要項 参照

担当者から

詳細な実習期間・回数については、実習計画に基づき各実習施設との調整を行い、決定する

講義名	慢性看護学実習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853230	単位数	4	開講期	通年実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

実習 ・ で習得した実践を活かし、専門看護師としての役割獲得ができるようスーパーバイザーの指導を受けながら、学生の専門領域（subspecialty）である慢性病者に対して、倫理的な判断に基づく行動がとれる高度な看護実践を行う。また、既習の知識・技術を統合して着想された新たな看護方法の導入および開発などを含んだ、専門看護師に求められる役割の実践（実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整）を行う。

到達目標

- 1) 複雑な状況にある慢性病者に対して包括的アセスメントを行い、根拠や倫理的な判断に基づく行動がとれる高度な看護を実践する。
- 2) 看護職者に対して、看護ケアの向上を支えるための教育的機能を果たす。
- 3) 看護職者を含むケア提供者に関わるコンサルテーション（相談）を行う。
- 4) 複雑な状況にある慢性病者に対して、既習の知識・技術を使って、保健医療福祉に携わる人々間の調整（コーディネーション）を行う。
- 5) 慢性病者の看護を行う上での倫理的な問題・葛藤について、関係者間での倫理調整を行う。
- 6) 既習の知識・技術を統合して着想された新たな看護方法の導入および開発などを含め、実践の変革者としてどのように機能していくか、またどのように総合的に組織や人に働きかけるのかを実践をとおして理解する。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	・実習課題および実習計画の実践状況 ・実践報告書（理論と実践との結び付き） ・慢性看護学実習 における高度実践看護の評価の視点をベースに学生の自己評価および指導者の最終評価に基づき教

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

慢性看護学実習、慢性看護学実習 を履修していることが望ましい。

履修資格

講義名	慢性看護学実習						担当教員	横井 和美 / 喜多下 真里 / 片山 将宏
講義コード	1853230	単位数	4	開講期	通年実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

【実習期間】

M2の通年集中(8~10月)4週間

【実習場所】

慢性疾患看護専門看護師の所属する施設

実習は、学生の専門領域の慢性病患者に対して看護実践が行える病棟・外来・地域などとし、専門看護師等のスーパーバイザーから指導を受けられる施設等で行う

【実習方法】

学生の専門領域(subspecialty)において専門看護師の6つの役割(実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整)が果たせる看護を状況に応じて計画し、実施する

- 1) 実習前に、地域や施設で必要とされる慢性病者のケアサービスをアセスメントし、必要なケアを提供するためのプログラムを立案する。
- 2) 実習開始時には、関係機関・協力機関の管理責任者に企画したプログラムのプレゼンテーションを行い、実施に向けた企画の補足・修正を行う
- 3) 実習期間中は、教員・関係専門職種から必要時に助言を得ながら、学生の専門心領域において専門看護師の6つの役割(実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整)が果たせる看護を状況に応じて企画実施する
- 4) 実施した内容を指定の記録様式に沿ってまとめ、実施した内容について専門看護師等の指導者から助言を得て、実践の課題を明確化する。
- 5) 既習の知識・技術を統合して着想された新たな看護方法の導入および開発などについて、当該実習での計画的・探求的・意図的に行った実践についてまとめ、施設関係者に報告する

詳細は慢性看護学実習 実習要項 参照

担当者から

詳細な実習期間・回数については、実習計画に基づき各実習施設との調整を行い、決定する。

講義名	在宅看護支援論演習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853290	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

医療的ケアが必要な療養者の医療処置、看護、療養者・家族への指導、多職種連携に関する実践方法および課題について、文献検討やフィールドワークを通して明らかにする。また、医療機器を活用して生きる在宅神経難病患者の事例を通して、疾病の受容と療養方針の決定の支援、医療機関から在宅への移行期、在宅療養開始時、在宅療養継続等、各期の療養者・家族支援を検討する。

到達目標

- 1) 医療的ケアが必要な療養者と家族へのケア方法と課題について説明できる
- 2) 医療的ケアが必要な療養者と家族について健康や生活に関する理論やモデル、倫理的視点などから包括的にアセスメントし、看護を考えることができる。
- 3) 在宅神経難病等の療養者と家族への援助の方法を、疾病の受容と療養方針の決定の支援・在宅療養開始時の支援・在宅療養継続への支援と分けて系統的に理解できる。
- 4) 既存の研究やフィールドワークを通して、高度な看護実践を展開するための方略を検討し、提案できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	以下の内容について、自身の将来的な実践を踏まえたレポートを完成させ提出する。 ・医療依存度の高い在宅療養者への在宅看護ケア提供者としての専門看護師の役割・機能
上記以外	50%	毎回の授業の準備（作成したプロトコルも含む）および参加状況

授業外学習

- ・各講義内容に関する文献検討
- ・プレゼンテーション資料の作成

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	神経難病在宅療養ハンドブック - よりよい緩和ケアのために	大達清美（著）、成田有吾（編集）	メディカルレビュー社	978-4779216206
2	神経変性疾患ハンドブック：神経難病へのエキスパート・アプローチ	水澤英洋（編集）	南江堂	978-4524256174
3	神経疾患最新の治療2018-2020	水澤英洋（編集）	南江堂	978-4524252190

4. 神経難病患者と家族のための相談援助 - よくある相談によりよく応答するためのハンドブック、坂野尚美、高菅出版、978-4901793445

前提学力等

履修資格

講義名	在宅看護支援論演習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853290	単位数	2	開講期	後期	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業計画

第1～4回：医療的ケアの必要な在宅療養者・家族を取り巻く状況
 関連文献の整理を行い、テーマについて療養者と家族を取り巻く現状について理解する。
 1) 医療的ケアの必要な在宅療養者と家族の理解に重要な概念の整理（生命維持、不確かさ、意思決定）
 2) 医療的ケアの必要な在宅療養者と家族を支援するケアシステム
 3) 医療的ケアの必要な在宅療養者の家族への支援
 第5～10回：在宅における医療的ケア
 在宅における医療的ケアのEBMについて検討し、プロトコルを作成する。
 1) 吸引・吸入・気管カニューレの処置
 2) 在宅酸素療法、在宅人工呼吸管理
 3) 経管栄養法、在宅中心静脈栄養法、自己注射
 4) CAPD、服薬管理、感染予防
 5) 褥瘡の予防とケア・スキンケア
 6) 膀胱留置カテーテル管理、ストマケア
 第11～16回：アセスメントと看護介入方法
 関連文献の整理と発表を行う。
 1) ALS療養者とその家族へのケア（療養方針の決定）
 2) 人工呼吸器導入に伴う医療機関から在宅への移行期の支援
 3) 医療的ケア導入後の在宅療養に伴うケア
 第19～26回：医療依存度の高い在宅療養者・家族へのケアの実際
 フィールドワーク（8回）とリフレクション（2回）をとおして看護技術を創造する。
 第27～29回：フィールドワーク事例を踏まえた実践の分析
 1) 利用者・家族の生活を基盤にした健康ニーズのアセスメントと実践（卓越した実践）
 2) 他の看護職および多職種への質向上に関する教育的関り（教育）
 3) 他の看護職および多職種のケア提供者に対するコンサルテーション（相談）
 4) 利用者を中心とした保健医療福祉関係機関との連携調整（連携調整）
 5) 倫理的課題に対する解決方法（倫理的問題の調整）
 第30回：まとめ「医療依存度の高い在宅療養者への在宅看護ケア提供者としての専門看護師の役割・機能」
 本講義を通して学んだ実践的関わりを総括し、各自が考える在宅看護専門看護師としての地域での活動を示す。

担当者から

講義名	在宅看護支援論演習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853300	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

自宅で終末期を迎える療養者と家族の意思決定、療養者と家族をサポートするマンパワーの確保と協働体制の確立に関する実践方法および課題について、文献検討を通して明らかにする。また、医療機関から在宅への移行期の支援、在宅療養開始時の支援、安定期、臨終期、死別期までの経過時期における的確なニーズの把握とケアの実践方法を学ぶ。

到達目標

- 1) 事例演習を通して、療養者と家族の意思や生活スタイル、価値観を尊重した看護について考えることができる。
- 2) 終末期を自宅で迎える療養者と家族の意思決定、療養者と家族をサポートするマンパワーの確保と協働体制の確立に関する実践方法が説明できる。
- 3) 既存の研究を通して、経過時期別のニーズおよびケアについて考えることができる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	以下の内容について、自身の将来的な実践を踏まえたレポートを完成させ提出する。 ・在宅緩和ケア・エンドオブライフケアにおける専門看護師の役割・機能
上記以外	50	毎回の授業の準備および参加状況

ルーブリックについては講義内で提示する。

授業外学習

- ・各講義内容に関する文献検討
- ・プレゼンテーション資料の作成

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	「在宅ホスピス」という仕組み	山崎章郎	新潮社	978-4106038242
2	緩和ケアレジデントマニュアル	森田達也	医学書院	978-4260025447
3	家族看護学選書 第5巻 終末期の家族看護・グリーフケア	野島佐由美、渡邊裕子	日本看護協会出版会	978-4818016750
4	家で生きることの意味 - 在宅ホスピスを選択した人・支えた人 川越厚、伊勢英子、松本武敏 他 青海社 978-4902249170			

前提学力等

履修資格

講義名	在宅看護支援論演習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853300	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画

第1～3回：在宅でのエンドオブライフケア
 関連する文献の整理・発表を行う。
 1) 在宅でのエンドオブライフケアの基本となる考え方の整理（看取り、終末期、緩和ケア、ACP）
 2) 終末期にある患者とのコミュニケーション
 3) 在宅ケアの場での終末期医療と看護の理解（歴史、制度、場の特性、看護の機能・役割、多職種連携）
 第4～9回：エンドオブライフケアにおける看護実践の構成要素と看護師の役割
 1) 全人的苦痛の緩和（トータルペイン）
 2) 疼痛・症状マネジメント
 3) 意思表示支援
 4) 治療の選択
 5) 家族ケア
 6) 人生のQOL・人間尊重
 第10～16回：エンドオブライフケアにおける在宅療養者の支援
 アセスメントと看護介入方法における関連文献の整理・発表
 1) 在宅でのエンドオブライフケアに必要なアセスメントの視点
 2) 終末期にある療養者と家族への医療機関における在宅療養移行支援
 3) 終末期にある療養者と家族の意思決定支援
 4) 終末期にある療養者と家族への支援（在宅療養開始時）
 5) 終末期にある療養者と家族への支援（安定期）
 6) 終末期にある療養者と家族への支援（臨末期）
 7) 家族へのグリーフケア
 第17回：行政保健師の難病活動の実際
 第18回：医療依存度の高い神経難病患者・家族に対する訪問看護の実際
 第19～26回：終末期の療養者と家族へのケアの実際（がん終末期・非がん終末期）
 フィールドワークを通して看護を創造する。
 第27～29回：フィールドワーク事例を踏まえた実践の分析
 1) 利用者・家族の生活を基盤にした健康ニーズのアセスメントと実践（卓越した実践）
 2) 他の看護職および多職種のケアの質向上に関する教育的関わり（教育）
 3) 他の看護職および多職種のケア提供者に対するコンサルテーション（相談）
 4) 利用者を中心とした保健医療福祉関係機関との連携調整（連携調整）
 5) 倫理的課題に対する解決方法（倫理的問題の調整）
 第30回：まとめ「在宅緩和ケア・エンドオブライフケアにおける専門看護師の役割・機能」
 本講義を通して学んだ実践的関わりを総括し、各自が考える在宅看護専門看護師としての地域での活動を示す。

担当者から

講義名	在宅看護学実習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853310	単位数	3	開講期	後期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

医療的ケアを必要とし、多問題や困難課題をもつ事例を3例以上受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。これらの実践を通し、専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、卓越した実践能力を中心に、教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整、看護実践を評価するための方法について学習し、研究的視座を持って課題を見出すことにつなげる。

到達目標

- 1) 医療的ケアを必要とし、多問題や困難課題をもつ療養者と家族に対し、専門的知識や理論に基づいた看護過程を展開し、在宅療養者と家族にケアとキュアを融合した包括的アセスメント、ケアマネジメント、医療処置の管理やリスク管理のための高度な看護実践ができる。
- 2) 倫理的問題について分析し、解決方法を提案できる。
- 3) 関係機関との調整、社会資源の開発、継続看護などのネットワーク構築に関する高度な実践能力を習得する。
- 4) 質の高い在宅チームケアを提供するための看護職および他職種への教育や相談活動方法を提案できる。
- 5) 看護実践を評価し、在宅療養者とその家族への看護ケアの質を高める専門看護師の役割について考えることができる。
- 6) 看護実践の向上のために必要な研究課題について考えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標に対する、実習への参加状況と内容、指導者の意見を踏まえ、総合的に評価する。

授業外学習

- 1) 実習施設の概要および所在地の医療福祉制度の事前学習
- 2) 高度実践看護師の役割についての事前学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

在宅看護学特論A、在宅看護学特論B、在宅看護学支援論A、在宅看護学支援論B、在宅看護学支援論C、在宅看護学支援論演習1を履修していること。

履修資格

講義名	在宅看護学実習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853310	単位数	3	開講期	後期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

【実習計画の発表】

実習指導者および教員へ実習計画の発表をする。その後、実習指導者および教員との意見交換を行い必要な修正を行う。

【臨地実習】

- ・臨地実習の日は目標達成に必要な期間とする。
- ・特定専門領域のうち、いずれかの課題を選び、その課題にそって3事例以上の事例展開を行う。
- ・在宅療養者への看護実践について、実習指導者および教員と検討する。
- ・同行訪問・見学を行った後、単独で訪問する。
- ・専門看護師に必要な6つの能力のうち、卓越した実践能力を中心に、教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整、看護実践を評価するための方法について学習する。
- ・専門看護師としての課題を見出す。

【実習報告】

事例報告、および専門看護師として得た学びについての報告をする。

担当者から

講義名	在宅看護学実習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853320	単位数	3	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

終末期ケアにおいて、多問題や困難課題をもつ事例を3例以上受け持ち、看護過程を展開し、看護実践を行う。これらの過程を通し、専門看護師が備えるべき6つの能力のうち、卓越した実践能力を中心に、教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整、看護実践を評価するための方法について学習し、研究的視座を持って課題を見出すことにつなげる。

到達目標

- 1) 終末期ケアにおいて、多問題や困難課題をもつ療養者と家族に対し、専門的知識や理論に基づき、経過時期別を考慮した看護過程を展開し、在宅療養者と家族に必要なケアとケアを融合した包括的アセスメント、ケアマネジメント、身体・心理・社会・精神面のアセスメントに基づいたQOL向上のための高度な看護実践ができる。
- 2) 倫理的問題について分析し、解決方法を提案できる。
- 3) 関係機関との調整、社会資源の開発、継続看護などのネットワーク構築に関する高度な実践能力を習得する。
- 4) 質の高い在宅チームケアを提供するための看護職および他職種への教育や相談活動方法を提案できる。
- 5) 看護実践を評価し、在宅療養者とその家族への看護ケアの質を高める専門看護師の役割について考えることができる。
- 6) 看護実践の向上のために必要な研究課題について考えることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標に対する、実習への参加状況と内容、指導者の意見を踏まえ、総合的に評価する。

授業外学習

- 1) 実習施設の概要および所在地の医療福祉制度の事前学習
- 2) 高度実践看護師の役割についての事前学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

在宅看護学支援論演習、在宅看護学実習の履修

履修資格

講義名	在宅看護学実習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853320	単位数	3	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

【実習計画の発表】

実習指導者および教員へ実習計画の発表をする。その後、実習指導者および教員との意見交換を行い必要な修正を行う。

【臨地実習】

- ・臨地実習の日数は目標到達に必要な期間とする。
- ・特定専門領域のうち、いずれかの課題を選び、その課題にそって3事例以上の事例展開を行う。
- ・在宅療養者への看護実践について、実習指導者および教員と検討する。
- ・同行訪問・見学を行った後、単独で訪問する。
- ・専門看護師に必要な6つの能力のうち、卓越した実践能力を中心に、教育、相談、連携調整、倫理的課題の調整、看護実践を評価するための方法について学習する。
- ・専門看護師としての課題を見出す。

【実習報告】

事例報告、および専門看護師として得た学びについての報告をする。

担当者から

講義名	在宅看護学実習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853330	単位数	4	開講期	通年実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

病院の退院調整部門で実習を行い、在宅看護の開始に向けて医療機関で行われる具体的な支援についての学びや、在宅移行期における継続看護の実際を通し、多職種連携における在宅医療チームの中での専門看護師の役割を理解できるよう教授する。

訪問看護事業所で実習を行い、事業所の開設、管理・運営についての具体的な方法を学ぶことを通し、ケアの質向上のために、管理者が行う、職場環境の整備やスタッフの人材育成における実際の活動について理解できるよう教授する。

本実習では、在宅看護学実習 で修得した専門看護師の能力を統合し、6つの能力のうち特に教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整に関する高度実践能力を高めることにつなげる。

到達目標

- 1-1)在宅移行支援が必要な患者とその家族の包括的なアセスメントを行い、それに基づいて退院支援計画を立案・実施・評価することができる。
- 1-2)継続して必要なケアが円滑に提供されるよう、多職種とのケアチームのあり方やコーディネーションについて考察できる。
- 1-3)在宅ケアシステムの課題を分析し、社会資源を開発するとともに在宅ケアシステムの改善・発展に向けたアプローチを提案することができる。
- 1-4)生じうる倫理的問題を理解し、その解決方法について提案できる。
- 1-5)在宅医療チームの一員としての専門看護師の役割を考慮することができる。
- 2-1)訪問看護事業所の管理・運営について分析できる。
- 2-2)訪問看護事業所の開設・経営から評価までの各段階を理解し、地域の特性をふまえた経営戦略を考慮することができる。
- 2-3)看護の質に関する現状の課題を分析し、教育・相談、研究役割を意識した質改善計画を作成し、実施できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標に対する、実習への参加状況と内容、指導者の意見を踏まえ、総合的に評価する。

授業外学習

- 1) 実習施設の概要および所在地の医療福祉制度の事前学習
- 2) 高度実践看護師の役割についての事前学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜紹介する。

前提学力等

在宅看護学実習 の履修

履修資格

講義名	在宅看護学実習						担当教員	新井 香奈子 / 森本 安紀
講義コード	1853330	単位数	4	開講期	通年実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

【実習計画の発表】

「退院支援・調整」「訪問看護事業所の開設、管理・運営」についてそれぞれの実習指導者および教員へ実習計画の発表をする。その後、実習指導者および教員との意見交換を行い必要な修正を行う。

【臨地実習】

1. 退院支援・調整
 - ・臨地実習の日数は目標到達に必要な期間とする。
 - ・在宅チーム医療の看護実践に参加する。
 - ・退院支援事例を1事例以上受け持ち、包括的な退院支援計画を立案、実施し、指導者の評価を受ける。
 - ・倫理的問題の調整や相談が必要な事例への支援に参加する。
 - ・患者への看護実践について、実習指導者および教員と検討する。
 - ・退院調整看護師へのインタビューを行い、これからの医療機関の退院調整部署の高度看護実践について理解する。
 - ・在宅看護学実習 で修得した専門看護師の能力を統合し、6つの能力のうち特に教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整に関する高度実践能力を高める。
2. 訪問看護事業所の開設、管理・運営
 - ・臨地実習の日数は目標到達に必要な期間とする。
 - ・訪問看護事業所の管理者が行う、管理・運営をシャドーイングする。
 - ・管理・運営の実践について、実習指導者および教員と検討する。
 - ・訪問看護事業所における看護サービスの質向上に向けた課題を1つ絞り込み、改善計画を立案、実施し、指導者より評価を受ける。
 - ・訪問看護事業所で、勉強会や・事例検討会などの企画・実践を行う。
 - ・訪問看護事業所の管理者へのインタビューを行い、事業所の開設時に求められるリーダーの視点を理解する。
 - ・在宅看護学実習 で修得した専門看護師の能力を統合し、6つの能力のうち特に教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整に関する高度実践能力を高める。

【実習報告】

「退院支援・調整」「訪問看護事業所の開設、管理・運営」実習での学びについて、それぞれの実習施設において報告をする。

担当者から

講義名	助産学実習							担当教員	板谷 裕美 / 古川 洋子 / 渡邊 友美子
講義コード	1854190	単位数	2	開講期	前期実習	授業方法	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

実習病院の産婦人科外来および周産期病棟において展開される、妊婦健康診査や助産師外来等での保健指導を通じて、妊娠各期の助産診断・助産ケアについて習得する。さらに、助産学実習 への前段階的実習と位置づけ、正常な経過をたどる産婦の助産診断に基づく安全な分娩助産技術を1~2例習得するとともに、産褥・新生児期の健康診査・保健指導に必要な基本的実践能力を習得する。

到達目標

*実習の詳細については、別途実習要項を参照のこと。

- (1) 妊娠各期にある女性および胎児の情報収集，アセスメントにより対象の理解を深めることができる。
- (2) 妊娠・分娩・産褥期にある女性および新生児のフィジカルアセスメントを適切に実施できる。
- (3) 妊娠・分娩・産褥期にある女性および児の健康状態とニーズを適切に把握 分析し，個別性に応じた助産過程の展開を実施できる。
- (4) エビデンスに基づく分娩助産を，指導者の指導の下に安全に実施できる。
- (5) 助産ケアの対象となる人々との基本的信頼関係を築き，医療チームの一員として責任を持って行動できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	形成評価ならびに実習目標の到達度(60%)とあわせ、実習記録・レポート課題(40%)により総合的に評価する。

実習を3分の1以上欠席した場合は、評価対象外とする。

授業外学習

学内で学んだ知識、技術を十分に復習し、臨床現場で自立して周産期ケア技術が実践できるよう、練習を重ねること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	今日の助産	北川眞理子編	南江堂	
2	助産診断技術学 6~8	我部山キヨコ	医学書院	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	産科の必須手技とケア	村越 毅	メディカ出版	978-4-8404-6943-2
2	産婦人科診療ガイドライン	日本産科婦人科学会		978-4-907890-18-6
3				

適宜紹介する

前提学力等

実習の事前学習として、これまでの既習知識を復習し、実習で活用できるよう準備しておくこと。

履修資格

講義名	助産学実習						担当教員	板谷 裕美 / 古川 洋子 / 渡邊 友美子
講義コード	1854190	単位数	2	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

* 実習の詳細については、別途実習要項を参照のこと。

実習期間：2週間

実習場所：病院の産婦人科外来および周産期ケア病棟

実習目標：

妊娠各期にある女性および胎児の情報収集、アセスメントにより対象の理解を深めることができる。

妊娠・分娩・産褥期の女性および新生児のフィジカルアセスメントを適切に実施できる。

妊娠・分娩・産褥期にある女性の健康状態およびニーズを適切に把握・分析し、助産過程の展開を指導者とともに実施できる。

エビデンスに基づく分娩介助を、指導者の指導の下に安全に実施できる。

助産ケアの対象となる人々との基本的信頼関係を築き、医療チームの一員として責任を持って行動できる。

担当者から

実習前オリエンテーションで実習内容の詳細は説明します。

講義名	助産学実習							担当教員	古川 洋子 / 渡邊 友美子 / 板谷 裕美
講義コード	1854200	単位数	8	開講期	後期実習	授業方法	実習		
ナンバリング番号									

授業概要

分娩・産褥期の健康診査および新生児期にある対象の健康診査から、適切な助産診断を行い、それに基づく助産過程を展開するとともに、エビデンスに基づく安全で安心な分娩助産技術と健康教育を実践する。これらを通じて、専門職助産師としての役割と責務、および高度な実践能力と態度を養う。女性の分娩・産褥期から育児期、児の新生児期から乳児期に至る継続したケアを見据え、個別性に応じた女性中心のケア（Women-centered care）について省察する。

到達目標

実習要項に別途記載する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	形成評価ならびに実習目標の到達度（60%）とあわせ、ケース記録・レポート課題（40%）により評価する。

実習を3分の1以上欠席した場合は、評価対象外とする。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	今日の助産	北川眞理子編	南江堂	
2	助産業務ガイドライン2019		公益社団法人日本助産師会	
3	産婦人科診療ガイドライン産科編		日本産婦人科学会 / 日本産婦人科医会	

講義で使用したテキストや資料をどんどん利用していきましょう

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産録		公益社団法人日本助産師会	
2				
3				

講義などで用いた資料

前提学力等

履修資格

講義名	助産学実習						担当教員	古川 洋子 / 渡邊 友美子 / 板谷 裕美
講義コード	1854200	単位数	8	開講期	後期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

* 実習の詳細については、別途実習要項を参照のこと。

実習期間：8週間

実習場所：病院の産婦人科外来および周産期ケア病棟

実習目標：

妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性の健康状態およびニーズを、適切かつ多角的に把握・分析し、助産過程の展開を主体的に実施できる。
 分娩期にある女性とその家族を総合的に判断し、個別性に基づいた安全な分娩介助とサポートティブな支援を実施できる。
 妊娠・分娩・産褥・新生児期を経て育児期までの継続的なかわりを通じて、母子とその家族の特性をふまえた助産ケアを提供することができる。
 助産師・医師その他の関連職種との連携と協働を通して、医療チームの一員として総合的な助産援助を行うことができる。
 妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産診断とケアに必要な実践能力を研鑽し、専門職助産師としての役割と自己の課題について探求することができる。

担当者から

実習中の体調管理は十分行っていきましょう。

講義名	助産学実習						担当教員	板谷 裕美 / 古川 洋子
講義コード	1854210	単位数	1	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

【目的】

地域における母子保健業務の実際を学び、望ましい援助のあり方や自律した助産師としての姿勢を追求するとともに、専門職としてのアイデンティティ形成をめざす。

【目標】

- 1) 地域における女性、子ども、家族のニーズや多様性を理解し、プライバシー、安全性、快適性を尊重した社会生活への援助について考察できる。
- 2) 地域における助産師の役割や、多職種・他機関連携、政策や制度とのつながりを理解し、今後の助産活動のあり方について考察できる。
- 3) 対象者およびその家族の尊厳、権利、価値観、ニーズを尊重し、信頼関係に基づいたケアの実践を通して、助産師としてのアイデンティティの基盤を形成できる。

到達目標

1. 地域における女性、子ども、家族のニーズや多様性を理解できる。
2. 対象のプライバシー、安全性、快適性を尊重した社会生活への援助について考察できる。
3. 地域における助産師の役割や、多職種・他機関連携、政策や制度とのつながりを理解できる。
4. 地域における今後の助産活動のあり方について考察できる。
5. 対象者およびその家族の尊厳、権利、価値観、ニーズを尊重し、信頼関係に基づいたケアの実践を通して、助産師としてのアイデンティティの基盤を形成できる。

成績評価

種別	割合 (%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	1) 見学実習ごとの実習記録 (20%) 2) 実習終了後の課題レポート (20%) 「地域母子保健活動における助産師の役割と課題」
上記以外	60%	1) 実習評価表の合計点数6割以上 (25点満点中15点以上で合格)

臨地での実習を、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

様々な地域母子保健活動の現場で、地域包括支援の理念、目的、概要が説明できることが求められる。各種活動への見学・参画を通して、対象および対象地域のアセスメントから、教育計画の立案、実施・評価ができる能力を養うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

助産学実習 ・ の単位を修得していること。

履修資格

講義名	助産学実習						担当教員	板谷 裕美 / 古川 洋子
講義コード	1854210	単位数	1	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

開業助産所におけるケアの見学〔調整中〕

- 1) 地域で展開される母子保健活動の見学と実施
- 2) 開業助産師とのディスカッション

子育て・女性健康支援センターにおける事業把握〔5月下旬の(月)調整中〕

- 1) 支援センターのオリエンテーション
- 2) 電話相談等の実態把握

地域における集団指導活動の見学と参画〔5月下旬～6月初旬の(土)調整中〕

- 1) はじめてのパパママクラス見学

地域における集団指導活動の見学と参画〔6/12(日)〕

- 1) 孫育て講座への参画
- 2) 双子の妊婦と家族の会の見学・参画

テーマカンファレンス・学内まとめ〔6/16(木)〕

実習での学びの共有と、テーマ設定に基づいたディスカッション

担当者から

講義名	助産学実習						担当教員	板谷 裕美
講義コード	1854220	単位数	2	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業概要

1. 実習目的
ハイリスクな状態にある妊産褥婦や母子分離状況にある母子とその家族を対象に、個別な特性に応じた助産ケアを提供する能力を修得するとともに、高度な助産実践に必要な理論・知識・技術・倫理的態度を修得する。

2. 実習目標

- 1) ハイリスク状態にある妊産褥婦および胎児・新生児管理の実際を理解し、対象のリスクアセスメントができる。
- 2) ハイリスク妊産褥婦・新生児の身体・心理社会的状況に応じて必要な助産ケアを判断し、実践できる。
- 3) 母子分離状態にある母子とその家族のニーズを理解し、愛着形成の促進や、母乳育児支援、継続的な家族支援のあり方について考察できる。
- 4) 他職種との協同や他機関との連携を理解し、チームの一員である助産師としての役割を認識し、責任ある行動が取れる。
- 5) 周産期におけるハイリスク事例の助産ケア実践を通して、助産師の役割や責務について考察できる。

実習期間：2022年7月 4日（月）～2022年7月15日（金）

*実習時間は、原則、月～金曜日8時30分～16時00分とする。

到達目標

1. ハイリスク状態にある妊産褥婦および胎児・新生児管理の実際を理解し、対象のリスクアセスメントができる。
2. ハイリスク妊産褥婦・新生児の身体・心理社会的状況に応じて必要な助産ケアを判断し、一部実践できる。
3. 母子分離状態にある母子とその家族のニーズを理解し、愛着形成の促進や、母乳育児支援、継続的な家族支援のあり方について考察できる。
4. 他職種との協同や他機関との連携を理解し、チームの一員である助産師としての役割を認識し、責任ある行動が取れる。
5. 周産期におけるハイリスク事例の助産ケア実践を通して、助産師の役割や責務について考察できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	1) 実習記録30% 2) カンファレンス等への参加度10%
上記以外	60%	1) 実習評価表の合計点数6割以上（25点満点中15点以上で合格）

臨地での実習を、3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

ハイリスクな状態にある母児のケアに必要な知識について、MFICU、NICUの関連書籍を熟読し、予習したうえで臨地に出向くこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	助産師職教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア	小林康江	日本看護協会出版会	978-4-8180-2377-2
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NICUマニュアル	新生児医療連絡会	金原出版	
2	MFICUマニュアル	全国周産期医療（MFICU）連絡協議会	メディカ出版	
3				

前提学力等

助産学実習 ・ の単位を修得していること

履修資格

講義名	助産学実習						担当教員	板谷 裕美
講義コード	1854220	単位数	2	開講期	前期実習	授業方法	実習	
ナンバリング番号								

授業計画

別途助産学実習要項に定める

担当者から

学生は、臨床指導者および指導教員と常に実習内容の調整を行いながら円滑に実習を進める。
 ハイリスクケアユニットでの実習となるため、自己の体調管理には十分留意すること。

講義名	助産学実習						担当教員	千葉 陽子 / 渡邊 友美子
講義コード	1854230	単位数	1	開講期	前期実習	授業方法	実	
ナンバリング番号								

授業概要

助産所における助産業務管理の実際を学び、助産所管理・運営や医療連携のあり方を追求し、地域に根ざした開業助産所の助産師の役割を学ぶ。特に周産期管理システム、リスクマネジメントの実際について理解を深める。

到達目標

- (1) 助産所の経営管理・運営の特徴を説明できる。
- (2) 他職種と連携・協働しながら地域母子保健活動を推進するための方法を説明できる。
- (3) 開業助産師の自立した助産師の役割が説明できる。
- (4) 女性とその家族の特性をふまえて、地域における母子保健活動を推進するための助産業務実践が考察できる。
- (5) 助産師としてのアイデンティティを育むことができる。
- (6) 地域における助産師活動のあり方と今後の方向性を考察できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

実習要項を参照してください。

授業外学習

本実習を助産学実習 ~ の統合として位置づけ、女性とその家族の特性に合わせた助産ケアを提供する能力を培います。さらに自立した助産師としての姿勢や援助のあり方を学び、助産師としてのアイデンティティの形成を目指します。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

助産マネジメント特論の授業における教科書、資料などを参考にしてください。

前提学力等

履修の手引き参を参照してください。

履修資格

講義名	助産学実習						担当教員	千葉 陽子 / 渡邊 友美子
講義コード	1854230	単位数	1	開講期	前期実習	授業方法	実	
ナンバリング番号								

授業計画

助産業務管理内容の見学 実習要項に記載
 助産ケアを担当する開業助産師へのシャドウイング 実習要項に記載
 施設内カンファレンスへの参加 実習要項に記載

担当者から

開業権を持つ助産師が、地域で自律的に活動をしていくことは大変魅力的なことです。現場から多くのことを吸収してください。

講義名	助産学特別研究(1年次)						担当教員	越山 雅文 / 古川 洋子 / 板谷 裕美
講義コード	1854240	単位数	8	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業概要

各研究指導教員の研究内容紹介のあと、5回の講義/1回の演習後に臨床研究の実践に入り、2年次末までに論文を完成させる

到達目標

修士論文を作成する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	修士論文の審査会

授業外学習

臨床の場でのデータ収集

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	はじめての看護研究	前田樹海著		
2	臨床研究の道標	福原俊一著		
3	はじめての統計学	山蔭道明		

超入門らくらく使えるはじめての統計学(及川慶浩著)

前提学力等

履修資格

講義名	助産学特別研究(1年次)						担当教員	越山 雅文 / 古川 洋子 / 板谷 裕美
講義コード	1854240	単位数	8	開講期	通年	授業方法	演習	
ナンバリング番号								

授業計画

- 第1回 看護研究はリサーチクエスチョンを構造化することから【越山】
- 第2回 研究紹介【千葉】
- 第3回 研究紹介【板谷】
- 第4回 研究紹介【古川】
- 第5回 -臨床研究を始める前に- 研究デザインの「型」を選ぶ【越山】
- 第6回 リサーチクエスチョンから論文作成までのhow to【越山】
- 第7回 交絡・バイアスと研究デザインを使った対処法【越山】
- 第8回 統計学の基本【越山】
- 第9回 実践臨床研究
- 第10回 実践臨床研究
- 第11回 実践臨床研究
- 第12回 実践臨床研究
- ~
- 第60回 実践臨床研究

担当者から

講義名	学校保健学						担当教員	古株 ひろみ / 甘佐 京子 / 糸島 陽子 / 小林 孝子 / 八木 利津子
講義コード	1855001	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業概要

学校保健は児童生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるように日々の健康を守るだけでなく、児童生徒が自ら健康な生活を実践できる教育により、成長・発達を促す目的をもって行われる活動である。
本授業では、学校保健の目的、機能及び実践内容を省察し教育現場における保健管理、保健教育、組織運営に関して心身の健康問題を取り上げ、学校保健の重要性について理解を深めるとともに、健康課題の解決に向けて探求する力を身に付けることをねらいとして行う。

具体的には、(1) 養護教諭による実践的課題の追求、(2) 保健統計による分析、(3) 児童生徒の心身の健康課題について、スクールカウンセリングや小児看護、慢性疾患看護の視点からの追及、(4) 学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策を探求する。

到達目標

授業のテーマ及び到達目標

- (1) 児童生徒の健康の保持増進を図るため、個別または集団を対象とした実践的課題への対応などについて学び、養護教諭としての実践的能力および課題解決能力を高める。
- (2) 児童生徒の心身の健康や保健に関する実態を分析する能力を修得する。
- (3) 児童生徒のこころの健康課題と身体症状に関する理解を深め、判断力、対応力を高める。
- (4) 学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策を探求する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

研究活動の推進に向けての受講態度を基本として、研究方針や概要を明確にする過程において課題に取り組む姿勢など総合的に評価する。

授業外学習

自身の実践を振り返り、症例(症状)や教育場面の対応から課題を見出し、話題提供や事例紹介が可能なよう自主学習としてまとめておくことが望まれる。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	子どもの安全と安心を育むリスクマネジメント教育の実践	八木利津子	健学社	978-4-7797-0447-5
2	実際にあった学校でのヒヤリハット事例から学ぶ そのとき養護教諭はどうした!?	八木利津子	健学社	9784779705663
3				

参考となる本、資料は随時紹介する。

前提学力等

学校保健に関する基本的な知識を習得しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	学校保健学						担当教員	古株 ひろみ / 甘佐 京子 / 糸島 陽子 / 小林 孝子 / 八木 利津子
講義コード	1855001	単位数	2	開講期	前期	授業方法	講義	
ナンバリング番号								

授業計画

- 第1回：学校教育における養護教諭としての実践的課題の追求（1）学校現場の実践的課題（担当：八木 利津子）
 第2回：学校教育における養護教諭としての実践的課題の追求（2）個別を対象とした課題（担当：八木 利津子）
 第3回：学校教育における養護教諭としての実践的課題の追求（3）集団を対象とした課題（担当：八木 利津子）
 第4回：学校教育における養護教諭としての実践的課題の追求（4）課題解決に向けての取組（担当：八木利津子）
 第5回：児童生徒の心身の健康や保健に関する実態を分析する（1）保健統計の基本（担当：小林 孝子）
 第6回：児童生徒の心身の健康や保健に関する実態を分析する（2）保健統計の応用（担当：小林 孝子）
 第7回：児童生徒のこころの健康課題の追求（1）スクールカウンセリングの現状（担当：古株ひろみ）
 第8回：児童生徒のこころの健康課題の追求（2）スクールカウンセラーから見たこころの健康課題解決に向けての取組（担当：古株ひろみ）
 第9回：児童生徒の身体的健康課題の追求（1）家族や生活環境を踏まえた小児看護の視点からの理解（担当：古株 ひろみ）
 第10回：児童生徒の身体的健康課題の追求（2）学童期及び思春期の身体的精神的特徴を踏まえた小児看護の視点からの理解（担当：古株 ひろみ）
 第11回：児童生徒の身体的健康課題の追求（3）各期（急性期・回復期・慢性期・終末期）の特徴と身体症状の理解（担当：糸島 陽子）
 第12回：児童生徒の身体的健康課題の追求（4）事例（症例）をふまえ、児童生徒の身体症状の理解（担当：糸島 陽子）
 第13回：初等教育における学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策の探求（担当：八木 利津子）
 第14回：前期中等教育における学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策の探求（担当：八木 利津子）
 第15回：後期中等教育における学校保健を取りまく社会のニーズに基づく研究課題を創造的に解決する方策の探求（担当：八木 利津子）

担当者から

アクティブ・ラーニングの視点から、積極的に学習に挑み、主体的・対話的・深い学びを追求する態度で参加してください。